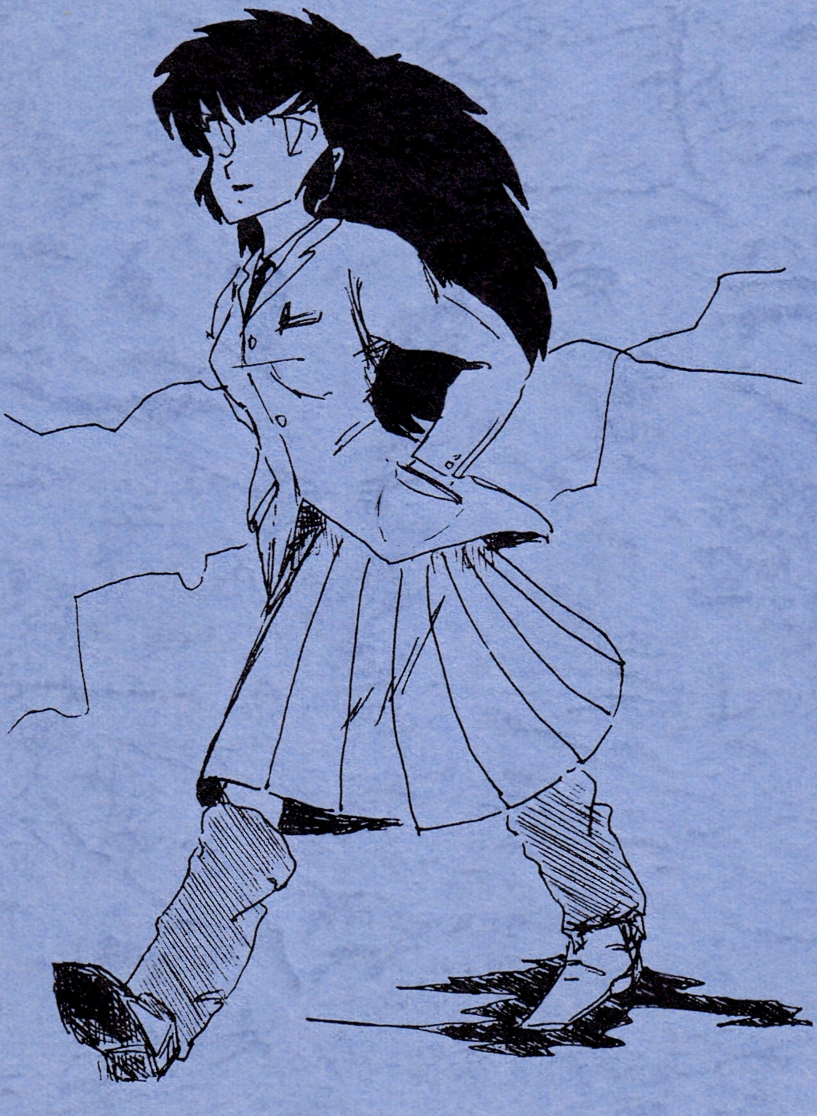


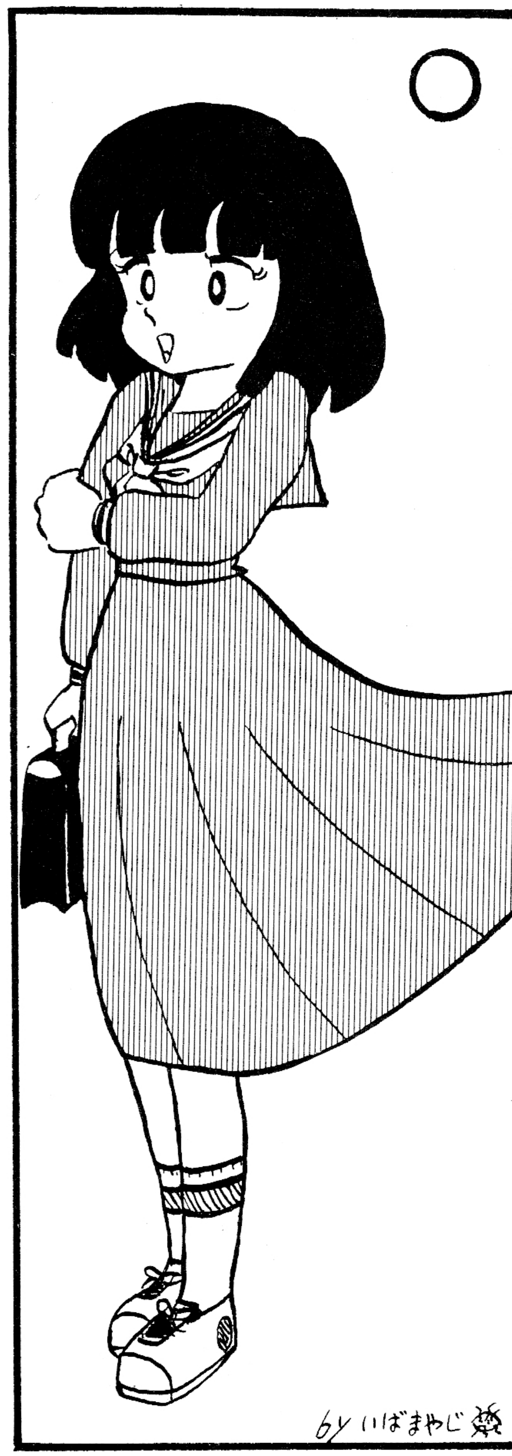
ぴよぴよ
第6号
1985.10.19. LEI. NEKOJIMA..



No. 89 けもグロビン

もくじ

CONTENTS



Ｎｏ．５２　わるだ久美

↑
切り取ってシオリにお使い下さい。



No. 52. わるだ久美

特集

高橋留美子と私



イラスト：No．180　戸塚村　吾平

高橋留美子と私

No．001　弘　一作

　高橋留美子ＦＣのメンバーとして、自分が留美子作品のどういう点に魅力を感じているのかを述べることは、最も基本的であり、かつ最も困難なテーマであろう。高橋留美子ファンを自覚して７年目のこの時点で、自分が留美子作品のどこが気にいっているのかをまとめてみたいと思い立ち、この文章を書いてみた。言い古されたことも多いし、一人だけの偏った考えも多いだろうが、しばし、おつきあい願いたい。

１．感染から発病まで－私はこうして病気になった。

　私が、高橋留美子の漫画を初めて見たのは、「勝手なやつら」がサンデーに掲載された時のことであった。当時、私は、近所の店の人からサンデーを３週間遅れでもらっていたので、たまたま巡り会ったわけであるが、「勝手なやつら」が、サンデー本誌に載ったいきさつを考えると、何か運命的な出会いを感じる。（留美子さんは、サンデー以外にも作品を投稿していたという話は今や有名であるし、サンデーでも佳作だったから、必ずしも本誌に載るとは限らなかったわけである。）もっとも、そのときは、あの独特の肉太の線で構成された画風は気に入っていたものの、女性の描いた面白い漫画があるなと思っただけで、たいして気に留めなかったのである。



No．91　田村　要

　数ヶ月後、「うる星やつら」が始まった。（その間、増刊に２回描いていたことを知ったのは、ずっと後のことである。）これは、とにかく面白かった。たちまち魅了されてしまったのである。他の漫画にどことなく不満を抱いていた私にとって、「うる星やつら」は、まさにＳＦギャグへの福音であった。ちなみに、「うる星やつら」第１話掲載時のサンデー掲載漫画は以下の通りであった。

「赤いペガサス」	村上もとか
「男組」	雁谷哲・池上遼一
「英雄失格」	梶原一騎・やまざき拓味
「おやこ刑事」	林律雄・大島やすいち
「がんばれ元気」	小山ゆう
「サバイバル」	さいとうたかを
「スペオペ宙学」	永井豪
「ダメおやじ」	古谷三敏
「できんボーイ」	田村信
「ヒット・エンド・ラン」	あや秀夫

「プロゴルファー猿」　　　　　藤子不二雄
「まことちゃん」　　　　　　楳図かずお
（五十音順）

こうして具体的に書きつらねてみると、この文を書く以前の感じに反して、意外と面白い連載が多かったのかもしれないが、私は楳図かずおの下ネタギャグはきらいだし、永井豪は死んでいて、とても“ＳＦ”ギャグとはいえない状態だった（キッカイ君とか、昔マガジンに描いた読切短編はよかったのだけど）し、田村信はいまひとつ画が好きになれなかったというわけで、やっぱり不満があったわけである。

こうして潜在的留美子ファン（Ｒｕｍｉｃｋｙ）になった私は５週連載、「お雪」、１０週連載と、サンデー本誌に３回載った「うる星やつら」を見るたびにその世界へとひきこまれていったのである。

増刊サンデーを知らぬ身にとっては『暗黒』の、７９年前半を過ぎ、「クラマ姫シリーズ」で「うる星やつら」が再開されたときの私の喜びは今でも忘れられない。編集部に手紙を出すという方法を思いつかなかった私は、この『暗黒』期をひたすら悶々と過ごしていたからである。

こうして、次第に、心を侵されていって私は、「うる星やつら」第２巻を買いに行った書店（神田の高岡書店！）で、「ダストスパート！！」の単行本を発見するに至り、ついに発病したのであった（Ｒｕｍａｎｉａ）。「ダストスパート」を一気に読み切った私は、さっそく翌日には友人と１つの団体を作ってしまっていた。これが今のＴＲＦＣである。

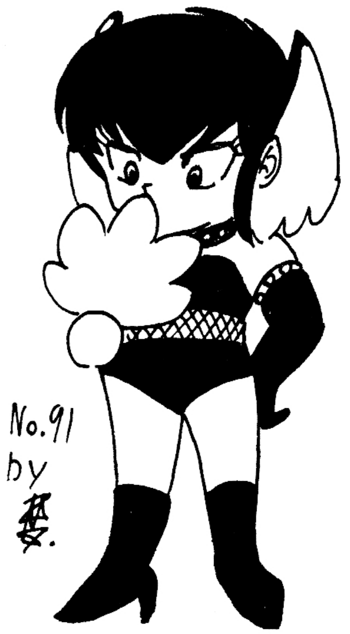
というわけで、要するに、私にとって高橋留美子の漫画とは、（特に初期の）「うる星やつら」であり、「ダストスパート！！」であって、基本的には「めぞん一刻」ではない。

したがって次節以降の話は、この２作品－それも「うる星やつら」－に特に重点を置いたものとなる。「めぞん一刻」ファンの人や「アニメ・うる星やつら」からファンになった人とは、だいぶ見方が違うと思うが、お許し願いたい。（もっとも、私としては、そういう人の見方というものにも興味があるのだが。）

２．落語の笑い－ギャグについて

留美子漫画のギャグの本質は、セリフ回しと表情の妙にあると思う。また、それまでポピュラーではないような描き文字の表現が、ダメ押ししている。

昔、漫画の入門書か何かで、「漫画の本質は絵なのであるから、文字は少ない方が好ましい」云々というのを読んだような気がするのだが、こと留美子作品に関していえば、他の漫画に比べて、文字がひじょうに多い（気がする）。もっとも、絵でわかるところを文字にしてあるというのとは違うし、文字（セリフ）も、よく洗練されているので、無駄に多いのとは、違う。キャラクター間のことばのやりとりそのものが、留



Ｎｏ．９１　田村　要

美子漫画のギャグの主体を占めているのである。これに、キャラの表情が加わって、漫画としての独自の面白さを形作っているわけである。つまり、留美子漫画のギャグは、落語やしゃべくり漫才のギャグなのである。これが、他の多くのギャグ漫画と大きく異なった印象を与える原因なのではないだろうか。他のギャグ漫画のギャグは落語というよりは、どつき漫才のセンスだと感じるからである。

ギャグが落語系だということは、留美子漫画のギャグが一過性でないこととも一致する。他の多くのギャグが、その場限りの感情的な笑いであるのに対し、留美子漫画のギャグは、何回読み直しても、面白いのである。

留美子漫画のギャグは、特定のシチュエーションの中で、その面白味を倍加させているという特徴を持つ。錯乱坊＝チェリーというギャグも、それ自体の言葉遊び的面白さというよりは、あたる一家が真剣な顔で話を聞こうと身がまえているからこそ、面白いのである。“シチュエーションギャグ”という呼び名をつけた人も、この点を指していっていたのであろう。最近のギャグだって、話の流れがキャラクター間の関係をよく知っていてこそ面白いものが多い。

留美子漫画のギャグはテンポが速いということもよく言われることの一つである。これは、セリフまわしや話の展開が、無駄なく、必要最小限の長さで、高密度に組み込まれているからである。読む速度を読者が決めている漫画において、“スピーディー”という印象を与えているということは、高橋留美子が省略の技法を実によく心得ているということを意味している。留美子漫画は可能な限り、表現を省略しているのである。「うる星やつら・第１話」においても、あたるとしのぶの基本的な関係は、最初の３コマでわかってしまうし、「あたる！　お客さんだよー！！」のひと言で、しのぶと錯乱坊を自然に登場させ、「あなたが悪い」のギャグを展開している。こうした、無駄な説明のないギャグの展開から、私は、高橋留美子のギャグは計算されたギャグではないかと考えるのである。

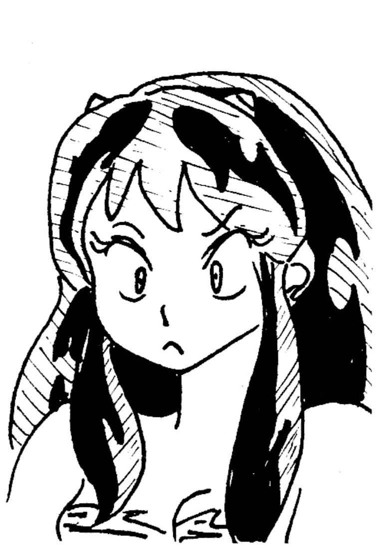
また、留美子漫画のギャグは理性に訴えるものが多い。「仏教書に悪魔払いが出とるわけないわ！」という錯乱坊のギャグや星間タクシーの料金取り立てに対応した、あたるの父の「いい考え」など、論理を考えるからこそ、おかしいのである。留美子漫画のギャグは、アハハという笑いではなく、含み笑いをさそうものが多く、よく考えるとますますおかしいという持続性ある笑いが多い。留美子漫画のギャグは「理性に訴えるギャグ」なのである。

独特のおかしな描き文字表現については、これはもう、作者の感性である。この点は、山上たつひこや田村信のセンスをうけついだ、漫画を読んで育った世代にしかわからぬセンスであろう。



Ｎｏ．１３０　岡浜　哲也

３．表現の魔術師－高橋留美子の「絵」について



Ｎｏ．１９　愛村　敬

高橋留美子の画については、いろいろ意見の聞かれるところであるが、「うる星やつら」開始当時から、私は、絵が上手いと思っていた。それは、画面が汚らしく見えないというだけの理由からだったが、今、見返してみると、当時から、キャラクターの表情が実によく表現されていることにも気付く。「うる星やつら」の初めから、一コマ一コマのキャラの表情が実に良く描かれているのである。個人的には、ぶすっとふくれた顔や怒った顔が好きだ。「うる星やつら」にせよ「めぞん一刻」にせよ、この不服そうなぶすっとした顔に代表される単なる喜怒哀楽では表せない微妙な表情が上手く描かれている。特に怒った顔の微妙な描き分けが高橋留美子以上に上手い漫画家は他にいないのではなかろうか。こうした多彩な表情の描き分けができることが、高橋留美子のキャラクターを実在感あるものとしている。登場人物に起伏に富んだ奥行きのある性格づけに大いに寄与しているのである。また、前節でも触れたように、多彩な表情を描き分けられることが、ギャグにも生きている。レイとのイモ食い競争の直前のしのぶの表情とか、こけるがじゃれているときのラムの表情の変化とかは、高橋留美子ならではの表情の微妙な描き分けがギャグを支えている好例である。

高橋留美子の画の特徴として、次に挙げられるのは、細かいということである。これは、一つ一つの物や人が細かく描き込んであるということを意味しているのではない。コマのすみずみにまで、実に多くの情報が含まれていて、しかもそれが、話の伏線になっていることが多いということである。「やさしい悪魔」の没頭、あたる、しのぶ、錯乱坊の背景には、何気なく草野球をしている子供たちが描かれているが、この話のきっかけであるあたるのコブは、彼らのボールによるものだった。「絶体絶命」で、いいふらすので有名な奥さんは、次のページ以降のコマのスミで再三再四噂話をしているし、ごく最近の例では、カエルになったピグモがあたるたちに見せた全身の写真は、身長位の高さの草が写っている。こうした、細かいところにも注意を払えば、それだけのギャグを発見できるところが「くりかえし読んでも面白い」という評判やマニア受けする理由であろう。新たな発見やマニアの話題にのりやすいからである。

もっとも直接的には、背景がよく描き込んであることで、画面に厚みが出ていることである。漫画という、平面上で展開される物語の背景に、立体感を与えているのである。したがって、ギャグ漫画でありながら、舞台にリアリティを感じさせるのである。

４．憎みきれない悪女たち－キャラクター（特に女性）について

いままでにも述べられたことだが、「うる星やつら」「ダストスパート！！」では、登場人物の魅力が大きい。留美子漫画のキャラクターの最大の特徴は、異常な男と悪女ということである。「ダストスパート！！」の背古井唯安は何を考えてんだか、さっぱりわからない性格だし、いうまでもなくあたる・面堂ともやはり異常な性格である（もっとも、諸星あたるは、巷でいわれるほどきわだって異常とは思えないが）。しかし、高橋留美子

の漫画においては、男性キャラよりも女性キャラの方が特徴的である。これまで、これほど悪女の多い漫画があったであろうか。しかもこの悪女たちが実に魅力的なのである。

おユキは、あくまで非情だし、弁天は荒々しいし、ランは二重人格で、クラマ姫は、「他人のものとなると手に入れたくなる」（単行本２巻ｐ１４６）という悪さ。しのぶも一途さがよかったのに、「さよならを言う気もない」で、実は、利己的であることがわかってしまい、しかも、面堂が出てきてからは、（多少、心残りはあるようだが）かつて、あれほどこだわっていたあたるから離れてしまった。しいていえば、あたるの母だけは、人の親なみに（心の底では）あたるのことを思っているようで、わりとまともなような気がするが、せいぜいこの人ぐらいである。（「さよならを言う気もない」での『もとのあたるが一番かわいい』というセリフでそう思えませんか？）



Ｎｏ．５２　わるだ久美

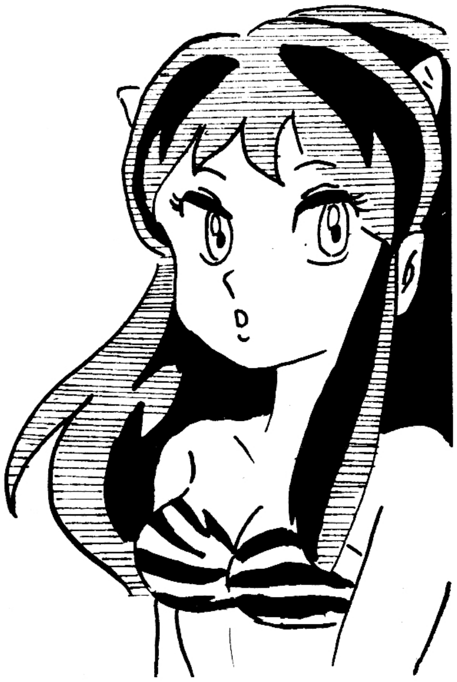
しかし、何といっても最も悪い女は、ラムであろう。一途だとかかわいいとかいう人が多いが、私はラムの本質は悪女で、（逆説的だが）そこがラムの魅力の根源だと思うのである。最近でこそ、好きになってしまったようだが、しのぶとの仲がよかったころのあたるにとって、ラムの強引さは憎んでありあまるものであったろう。押しかけ女房という設定のせいもあるが、客観的に見てみれば、ラムが、いかに押しの強い身勝手な女であることがよくわかる。たとえば「お雪」のときは、あたるが風邪をひいているのにおユキのところへ遊びに行っているし、「愛と闘魂のグローブ」のときは、あれだけあたるが傷ついても、自分が感動するために、あたるに自分を殴らせ続けさせている。他にも、「愛で殺したい」では「もうはいらねえ」といってるあたるにイモを押し込んだり、あれだけいやがっているのに、ひつこく自分の料理を食べさせようとしたり、幼い頃には、ランにずいぶんひどいことしてた（よく読むと、確かにランの性格がゆがんだのは、ラム・弁天・おユキの３人とつきあっていたせいのように思える。）のは、ランのいうとおりという気がする。それに、あたるが「逆襲！　三人組」のときに指輪をしているように大変なかんしゃく持ちでもある。こういう性格を考えると、ラムが、文字通り「鬼」であり、小悪魔であることがよくわかってくる。しかも、こうした行いがランの言う（「風邪見舞い」）ように『悪気のない』行為であるところが、しょうもないのである。全然、相手に悪いと思ってないし、くよくよしていないのである。ここがどうしても憎めない性格なのである。しかも姿形がかわいいときてるから、つい許してしまう。思うに、こんな小悪魔的性格（姿

もそうか！）のキャラは、それまでほとんどいなかったわけで、まさに『女の魔性』を持ったキャラクターといえるのではなかろうか。

ラムに限らず留美子漫画の女性キャラは、みんな『女の魔性』を持っている。音無響子も八神いぶきも、おユキも弁天も炎上寺由羅も全員がそうなのである。これこそが、高橋留美子という“女性”でなければ作れなかった、留美子漫画の女性キャラの最大の特徴だと思うのである。

５．ああ勘ちがい－ストーリーについて

最後に、留美子漫画のストーリーについて述べてみたい。「うる星やつら」にしろ「めぞん一刻」にしろ、そのストーリー展開の基本は勘ちがいである。ラムが押しかけ女房になったのも、響子と五代の仲がじれったいのもすべて勘ちがいによる。勘ちがいとすれちがい－メロドラマの基本的要素であるこの２つを高橋留美子は漫画という媒体上に、完全に示してみせている。留美子さんの漫画が、他に比べて、大きくちがうのは、この勘ちがいが、これほど頻発しているにもかかわらず、実に自然に感じられることである。これは、日本語の特徴を十分に活かしたセリフ回しにある。つまり肝腎なことは名言せずに会話を進めているのである。たとえば「おれのツノがない！？」を見てみると、ラムはランに対して、“誰の”ツノが抜けたのかは、ひとことも言っていない。誰のと明言されていないツノの話を、その前後関係から明らかなように、ラムはテンのツノとして話し、ランはラムのツノとして聞いているところにこの話のおかしさがあるわけだ。これは、たとえば英語ではまず表現できないストーリー展開である。しゃべくり漫才や落語のよくする展開でもある。その場その場の状況を次々と展開していくところが留美子漫画のストーリー展開なのである。



Ｎｏ．８５　諸星羅夢

上の話は、登場人物にとって気がつかなかったための勘ちがいであるが、留美子漫画の凝っているところは、時として、読者をも勘ちがいさせることである。それも、何の手がかりもなく、勘ちがいさせられるのでは、読者としては、いささか面白くないのだが、よく読み返してみると、勘ちがいをさせられていることが事前にわかるような手がかりを、コマのスミとか、セリフ回しの微妙な所にしこんでいて、後でしてやられたと思わせるのである。このため、読んでいて気が抜けず、コマのスミズミまでよく見て、オチを見やぶってやろうというマニア精神をくすぐられるわけである。先に挙げた、小人のピグモの例などがその典型である。最近では、我々、マニアの目が肥えてきたためか、オチを見やぶってしまうことも多くなったが、こうした作者と読者の緊張感が、読むのに張りをあたえていたことは事実であろう。読者が受け身に終わらぬことを要求する漫画なわけである。最近、スピリッツ誌上をにぎわしているプラクティカル・ジョークに通ずるところがあるように思ったりするのである。

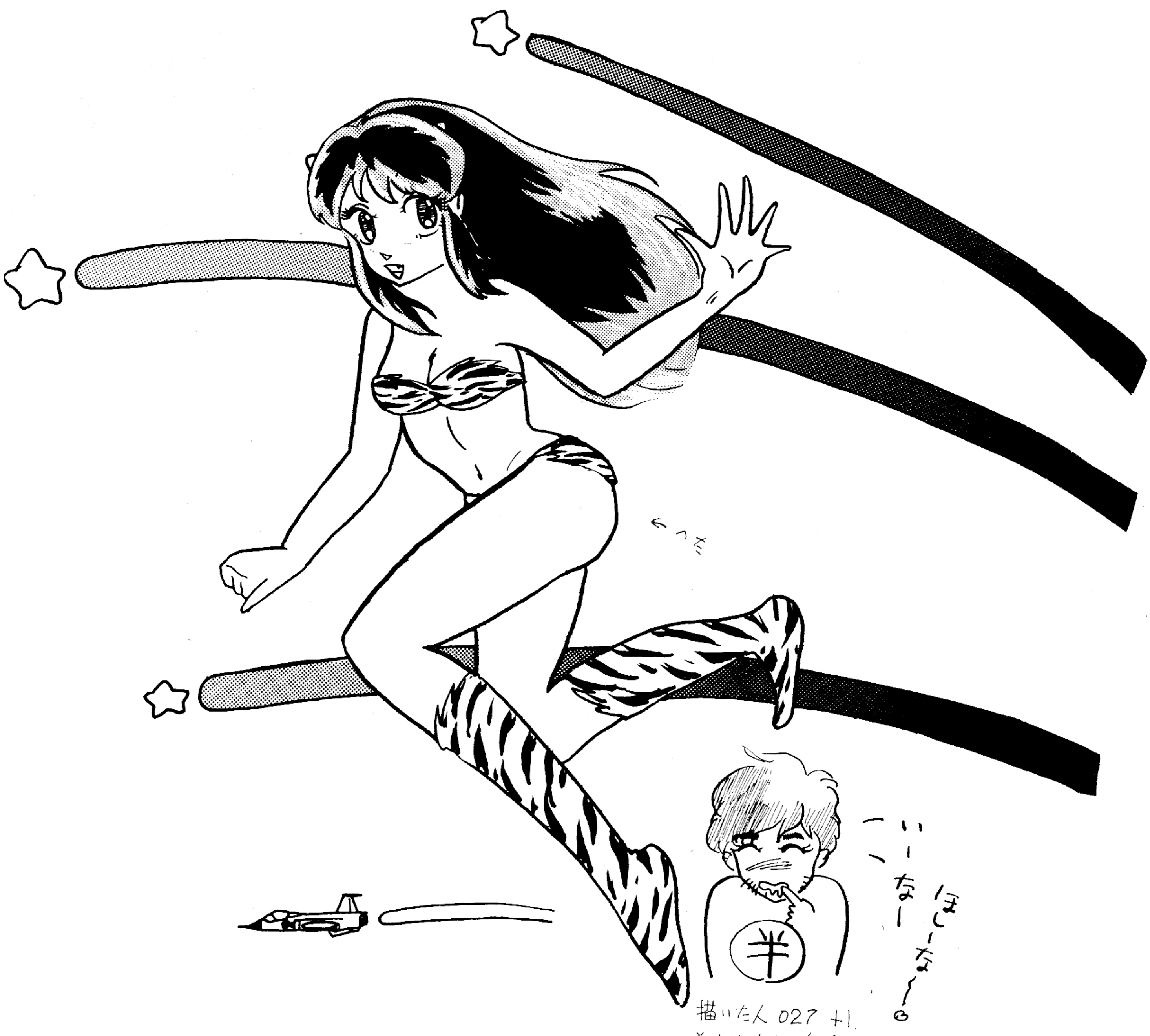
6．まとめ

まだまだ、書きたいことは、たくさんあるのだが、紙面も尽きてきてしまった。それはまた、場所を改めて、『ぴよぴよ』なり『なぜ描かないのだい？（＊）』なりに書いてゆきたいと思う。

結局、まだまだ高橋留美子のギャグ漫画が好きなのである。落語系の、センスあるギャグが、小悪魔的な女性キャラによって演じられる、そんな漫画は、高橋留美子にしか描けない！　いわゆるシリアスものでは、留美子さんの本領は発揮できないであろう。ギャグ漫画家の寿命は短いと言われるが、彼らは、高橋留美子の笑いとは質がちがう。年季を積んでなおいっそう名人域まで達する落語家のように、高橋留美子はギャグ漫画を描きつづけ、落語系ギャグ漫画の名人位になってほしいと願ってやまない。

（了）

＊当会会報。会員の方のみにしかお分けしておりませんので、非会員の方で興味のある方は、是非御入会下さい。お問い合わせは、奥付の編集部まで。



私と高橋留美子

Ｎｏ．１８７　しのぶ

思うに、高橋留美子に初めて出会ったのは、高二の頃、下校時に寄り道していた本屋で、ふと引き出した「うる星やつら」第４巻が、そうであろう。当時、漫画というもの自体に熱中していたので、その本屋にある本、ある本を、特にジャンルにこだわったつもりはなかったが、とにかく立ち読みしていた。ただ、「うる星やつら」に関しては、雑誌においてちらっと見たきり印象が薄く、女のインベーダーの出てくるギャグ漫画という事だけは知っていた位であった。

どうして読む気になったのか。確か、既に読みたい本は読んでしまったためだったのかと思う。それで、まぁ読んでみるか位の気持ちで手に取ってみたところが、今まで出会った事もないようなギャグとストーリー。絵柄もこれまでにない独特な、女の子が本当にかわいいという感じを持った絵で一目で気にいった。（だから、私はどっちかというと初期の絵はあまり気にいっていない。）

私は、その頃まで主義として、読める物は、前記のごとく立ち読みで済ませることにし、コミックは、余程気に入らねば買わなかった。（高校時は、そんなに金を持っていなかったのが最大の原因である。）が、この場合、即座に買ってしまったのは、それ程インパクトが強かったからである。（もっともこれが元で買いぐせがついたのも事実で、サンデーグラフィックのごときが出たのは、全く私にとって痛手以外の何者でもなかった。いわんやファンジン活動をや。）

さて、その後ずっと穏便な留美子さんファンを演っていたが、そのうち、「めぞん一刻」が連載を開始し、（実は、連載を知ったのは、単行本第１巻が出たのを見たからで、それまでは、スピリッツのスの字も知らなかった。）留美子熱に輪をかけた。（繰り返すが、まだ、それでも穏便なファンであった。まさかポスターを捜し回って、書店に朝９時半、それも共通一次１０日前に並ぶなどとは、夢々思わなかった。）まあ普通のファンならやるような事は、程々にやったのではないか。恥ずかしいが、音読したりとか、出演コマ数を較べたり、その程度である。性格的に少し押しつけがましい所があって、友達に無理やり貸し付けたりして何とか話せる人間を作ろうとした。まただが、本当に今にして思えばアホとしか言いようがない。単なるミーハーである。

それから浪人し、予備校へ通う身となり、１人前に落ち込みつつ静かに過ごしていた。が、平穏は永くは続かないもので、１学期末に近い頃ある１人の人間によって泥沼に引きずり込まれた。仮にＫとする。そのＫもファンだという事で色々話を聞くととんでもない。

ビデオを持っているという事でも驚いたのに、何とアニメ「うる星」を録っていると言うではないか。（その当時、ビデオは金持ちの象徴と思っていたし、今もある程度は思っている。）はっきり言うと、驚きつつ『この金持ちめ！　俺だってビデオ欲しいわい！！』と苦り切っていた。つくづく純真だったものと思う。結局、この留美子漫画（ルーミックワールド）に次ぐ衝撃を受けた為に引き込まれ、今ではこんな原稿を書かねばならぬはめとなった。それは半分冗談で半分本気ではあるにせよ、真剣な話、Ｋには、感謝している事は、誤解のないよう書いておく。

私論・ルーミック・ワールド

No.014　橋本　知明

「原稿は？」と、催促してくれた唯一の人へ。

「こんなもんでどうですか？」

1．はじめに

ルーミック・ワールドは、髙橋留美子一人が創造した作品世界の総称として、いつの間にか定着してしまった。しかし、髙橋留美子の作品世界の幅は広く、一言で述べることは困難である。

そこで『めぞん一刻』と『うる星やつら』そして短編に分けてみる。

『めぞん一刻』は、主人公を中心とする、典型的なラブコメディである。

『うる星やつら』は、多様性に富んだ作品ではある。しかし、『うる星やつら』の新奇性は、初期作品で見られた、スラップスティックコメディに存在するものと考えられる。そして、ラブコメディや、ほのぼのとした話は、読者の志向を反映した、編集サイドの意向に従って出現したものであると考えられる。

ルーミック・ワールドの多様性は、『うる星やつら』によるよりも、短編群によるところが大きい。これは、コメディという枠がないことから明らかである。

今後、短編がマンネリに陥ることなく、また、短編から髙橋留美子の新境地を開く作品が出現することを期待したい。

2．めぞん一刻

先に、『めぞん一刻』をラブコメディであると述べた。しかし、単なるエピソードの連続ではなく、現在のところ、一貫したストーリーを感じさせている。これは、作者が時間経過を意識しているからであると思われる。登場人物の成長により、局面が変化していき、話が変化しているので、こうも続いてしまうのである。

特に精神的な成長が感じられる登場人物として、音無響子と五代裕作を挙げるのに異論はないだろう。

初登場時の音無響子は、頑なな若後家にしか見えず、五代を含めた他の登場人物との間に、大きな感覚の相違が存在した。

それが、50話前後では、他の登場人物と同一の生活感覚を感じさせるようになり、『春の墓』で一大転機を迎え、それ以降、若やいでいくのである。この精神的成長の軌跡が、音無響子を生き生きとした存在にしている。

五代裕作にしても、

「やっぱり犬が……いいんですか……？」

という場面に端的に表われている、性的渇望に起因する、独り善がりな恋慕の情から、穏かな感情を持てるまでに成長しているのは明らかである。

成長しつつあるという点が、彼（女）らの主人公たる証ではあるまいか。

ところが、彼女ら二人に対して、他の登場人物は、不変の性格を与えられている。不変であるゆえ、主人公と脇役との間の三角関係は、緊迫感こそ生め、話の展開を深刻化させることがない。これによって、ラブコメディとしての均衡を保っていられるのである。

また、脇役であったとしても、彼（女）の心理描写によって、一つの話を作れる程の性格設定がなされている。彼（女）らは、変化していかないにも拘らず、陳腐化していかない。これは、作者の才能の賜といえよう。



作者の変化も、当然ながら作品に影響してくる。多くの作家は、漫然とした作品の執筆によって、その才能を擦り減らしていく。それが、停滞をもたらし、低迷を招く。

それに対して、高橋留美子は作品の執筆自体に大きな情熱を注いでいる。この情熱は、作品を一種の思考実験の場にしている。この実験が新しい視点を与える。これによって、作品に停滞をもたらすことなく話が続いているのである。

さて、主人公の変化、さらに、作者の変化を考慮すると、平井和正氏の静的な視点からの評価とは異なった評価をしたくなる。動的な観点からは、高橋留美子は、“みこ”ではないし、音無響子も“女神”ではないのである。しかし、氏が彼女らのカリスマを指摘しているとする考えには反対する意図はない。

と、ここまで書いてきて、一つ思い当たったことがある。『めぞん一刻』は、五代裕作にとっては、悲劇的色彩が強いということである。高橋留美子は彼をかなり冷たく扱っているようにも思える。五代裕作の視界には破局が見え隠れしているのではなかろうか。

浅学ゆえ、チャップリンの作品を大しては見ていないのだが、彼が羊とそれを追い掛ける男との例を示して言ったものだと記憶している言葉が思い出される。

「追い掛けられる羊にとっての悲劇は、傍らから見ると喜劇に見える。」

ことによると、高橋留美子は、短編でなく『めぞん一刻』で、時のもたらす悲劇を描くかも知れない。

3. うる星やつら

さて、『うる星やつら』の主人公は誰であろう。いうまでもなく、諸星あたるである。しかし、彼は成長しつつある存在ではない。そして、それ故、彼は『うる星やつら』の狂言回しに終始しているのである。

当初、ラムが一回限りの登場人物であったことは想像に難くない。しかし、その個性の強さ故、『うる星やつら』になくてはならない存在になり、様々な事件を巻き起こして、注目を集めたのである。

ところが、いつの間にか可愛らしさ（？）ばかりが強調され、個性の強さがそがれていった結果、単なる狂言回しになってしまったのである。

そして『うる星やつら』が学園コメディの体裁を強要された時、彼女は、“ラム”である必要がなくなってしまったのである。

画面の飾り物に過ぎなくなった彼女は、それでも、思い出したように、かつての片鱗を

見せ、スラップスティックコメディ復活の、かすかな望みを与えてくれるのである。

現時点では、『うる星やつら』には、奇麗なねえちゃんを見れるかもしれないという、グラフ雑誌的感覚しか持てないでいる。もっとも、“ほのぼの”は好きであるが…。

4．短編

短編の中で、作者の本領とは言えないかも知れないが、個人的に気に入ってる作品数編について述べてみたい。

『ふうふ』は、陽性であることで気に入っている。主人公の夫婦は、ほとんど生活臭を感じさせない。そして作者の筆は、エピソードの描写に終始している。結末でさえ、将来は現在の延長でしかないとしている。その結果、軽い話に仕立て上がっており、気楽に読めた。コメディはこんなものであろう。

『怪猫・明』は、髙橋留美子版の“What's Michael?”であり、理屈抜きに面白かった。ちなみに、“明”はオートバイにはねられて他界したそうである。合掌。

『忘れて眠れ』は、『月刊けも・忘れて眠れを切る』[1]で六割以上の人間から批判的な評価を受けた。

今更と言われようが、月刊『少年サンデー』掲載時のページ順の間違いの非を指摘したい。この間違いが話の展開を滞らせ、作品全体の印象を変えた。初見が評価に与える影響を否定できない以上、この作品は、肯定的であれ、否定的であれ、正当な評価を受けることが不可能になった。今だもって残念なことである。

この作品では、ストーリーの展開に、緩急の繰り返しと、今昔の繰り返しが組み合わせて用いられている。これが、「ストーリーがよく分からない」とか、「展開が平凡だ」という印象を与える。46ページという長さを感じさせない理由は、内容の薄さではなく、この平凡さではなかろうか。登場人物は類型的な性格で、これも、平凡さを感じさせる。

私は、この平凡さを評価したい。平凡であるが退屈を感じない。緩急、そして今昔の末に穏かな今で終る。だから、読み終って安心する。この作品は、「面白いけどしんどい」のではなく、「面白いし楽だ」という点に好感を持っている。

少なくとも、この作品が短編集に収録される時に、改作を受けていないのは、考慮に値しよう。



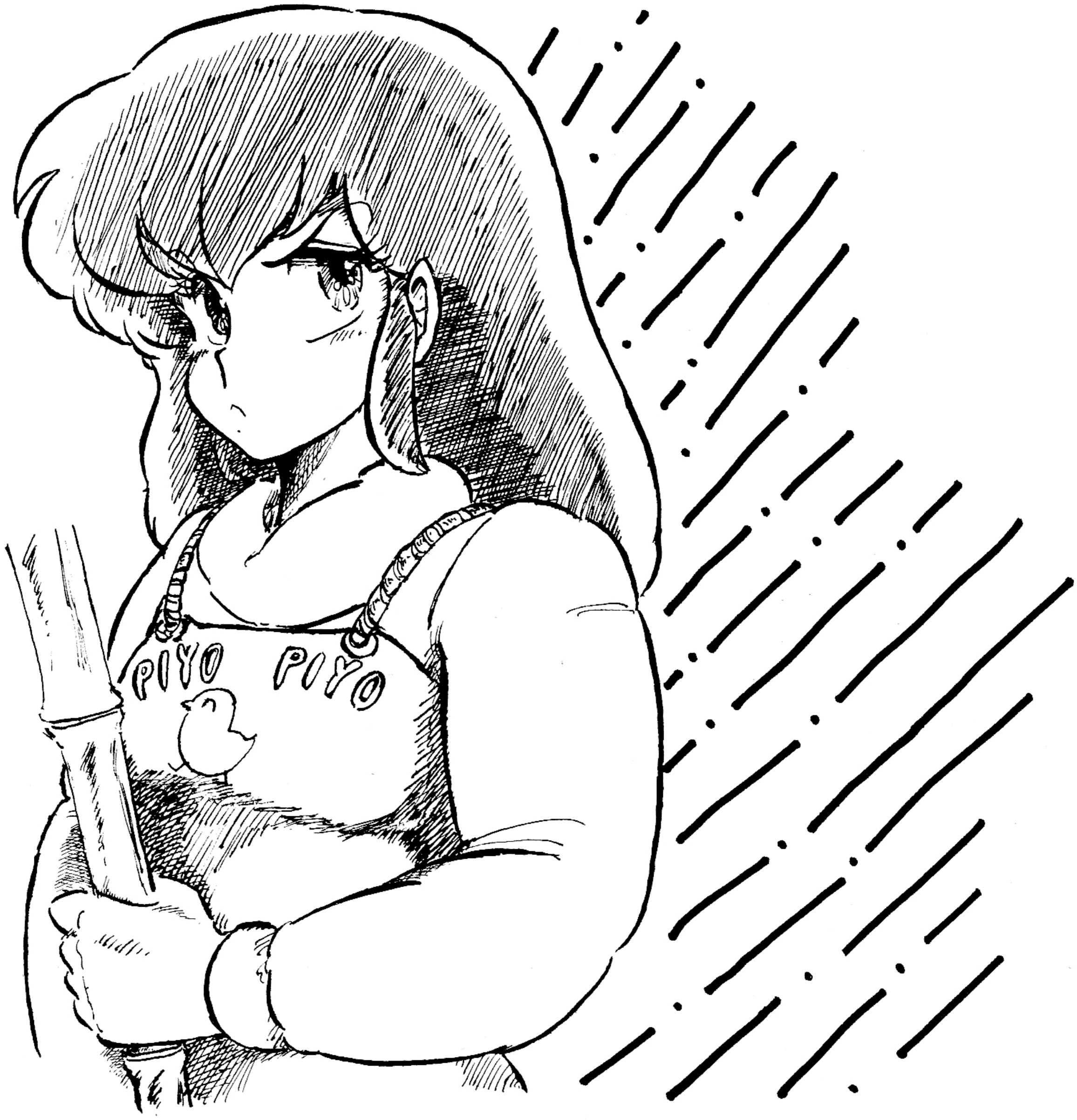
〈週刊少年サンデー昭和59年1月増刊号掲載〉

5．終りに

本稿を書く間に痛感したのは、自分が（髙橋留美子の）漫画を読むのは楽しくて楽だからであるという事実である。しかし、漫画を娯楽の対象にするのであれば、これで十分だとは思いませんか？皆さん。

― 参考文献 ―

うる星やつら
めぞん一刻
るーみっくわーるど
少年サンデー
[1] 別刷週刊まんがコラム　月刊けも特別号
1983年12月25日付通巻48号



アタタタ…、オアタッッ!
貴様は 既に
焼かれている!!

(は、恥ずいっ!)

に、似てネェっ!!

by しのぶ No.187
85'12がつ みっか A.M.3:44

めぞん一刻、ソープランド、男、高橋留美子

No．188　三宅しのぶ

M：「めぞん一刻」のあの回(*1)、みんなからたいへんな非難を受けたみたいだね。
N：そりゃあ、そうじゃない？　編集が止めなかったのは、まあ、置いとくとしてだ、問題は、どうして、あんな話を留美子さんは描いたのかということ。
M：そうだね。それに関係するような話なんだけどさ、留美子さんの言った、『三十過ぎても』って話(*2)なんだけど、どう思う？
N：そうだねえ。まあ、確かにそれはそうだけどねえ…。今の若者を考えればねえ、うーん、何というか、留美子さんは、男の心理というのを見誤っているというか、誤解してるんじゃんない？
M：どういうこと？
N：つまりさ、白石衿ちゃん(*3)とか、大晦日の話(*4)とか、男はいわゆるスエゼンは食うものだと思ってるんじゃない？　だけど、実際、「めぞん」なんかを読んで共感するような輩が、果たしてそうするだろうかと。
M：そうだね。それから、大口小夏(*5)の件でもあったんじゃない？
N：そうそう。本当は、留美子さんは、あの話で五代が経験するというのを描きたかったそうだけど、編集の人に止められて描けなかった(*6)ということだよね。これもさ、男の心理の見誤りからきてるんじゃないかな。編集の男の人が、やめさせたという話だから。まあ、これは、「めぞん」の長期連載ともからんで、急に話を収束させたくないという編集の意向かもしれないけど。
M：それもあると思うよ。
N：えーと、それから、これは、側面から見た感じだけど、露出過剰ラム(*7)についてね、これもそれらの一つだと思うんだ。過剰すぎる男性向け読者サービスという点で。ほかに、同じようなのが、飛鳥(*8)とか、炎・ストリッパー(*9)とか。
M：なるほど。
N：で、まあ、その誤解は、ついに、五代がソープランドへいってしまうという事態になった。
こうなると、もう、誤解とかそういうレベルの問題じゃないような気がするんだ。だからね、んーと、自分からみれば、こういうことは、人の人生観に関することだと思うんだよね。それを留美子さんは、あっさり描いてしまった、だから、そこにでてきた五代の行動は、それは、誤解とかそういうのではなくて、彼女の理想像なんだと思う。
でも、そういう男が留美子さんの理想だとすると矛盾があるんだよね。だからさ、留美子さんは自分で嫉妬深いって言っていながら(*10)、そういう男が理想だなんてね。
M：そうだね。自分の彼氏がそういう、いわゆる不貞をはたらいていたなんて知っても、やはり、そういう男がすきなのかな？
M：さあ、どうだろ。わかんない。
N：で、留美子さんの思っているそういう男、つまり留美子さんの理想の男というのを考えると、極く極く普通って感じがするんだ。だってさ、留美子さんの作品を読んでいて、そこに登場する男の心理、行動じゃないよ、心理については、かなりの部分で違和感がないもの。だから、男として普通、んーと、そうだ、歳相応な男という感じがするんだけど。三十過ぎたら、当然、普通の家庭をもっていて…というような。

M：だから、それなりに経験してても、当然で、逆にまた、そうでなければならないと？

N：うん。それで、始めに言ったような『三十過ぎても』というようなことになるんじゃないかな。
でも、いくら彼女の理想像だといっても、それが、いつも受け入れられるかといえば、それはいえないよね。人の人生観に係わってくるような部分については、受け入れられないことがあってもおかしくないよね？

M：それが、あの回の「めぞん」というわけだ。

N：そう。だけど、こう考えると、留美子さんは留美子さんなりに自分の理想の男性像の人生観を描いたんだから、非難されるのは、おかしいかもしれないな。
でも、「めぞん」は彼女のものであると同時に我々のものでもあるわけだから、それを考えにいれなかったという点では非難されてもしかたがないのかもしれない。

M：まあ、そういうことですね。



by.TA

No. 103

参考文献

*1　：スピリッツ 5/30 号　めぞん一刻 #103　“「犬が好き」PartⅡ”

*2　：幻魔宇宙　P.49
平井和正　「…五代君が三十男になってまだ童貞というんじゃ気持悪いですものね。」
高橋留美子「いやだわ。絶対に許せません、そんなこと。正しくないです。いや、本当にそれは不気味なことですよ。」

*3　：めぞん一刻６巻＃２　“ちょっと休もうか”

*4　：めぞん一刻３巻＃１　“あなたのソバで”

*5　：めぞん一刻６巻＃８　“夏色の風と”　及び、幻魔宇宙　P.37
平井和正　「五代君が北海道に行ったときじゃないですか。彼はそこで経験しそこなった。」

*6　：幻魔宇宙　P.37,38
高橋留美子「本当はこうしたいんだけれども、それがストップがかかる場合というのが必ずあるんです。『このネタはよせ』というようなのがある。」
「…編集の方は全員男性なんですが、それを聞くとみんな血相を変えて『それだけはやめろ！』という感じなんですよ。」

*7　：週刊少年サンデー２０号　うる星やつら　“キツネの嫁取り…の巻”

*8　：週刊少年サンデー２８号　うる星やつら　“飛鳥ふたたび　その１…の巻”

*9　：なぜ描か１２号　“作品評論 at 定例集会”
Ｔさん　「それじゃあ、ファイヤー・ストリッパーだ！」

*10　：幻魔宇宙　P.39
高橋留美子「…私もやっぱりすごく嫉妬深いんですよね。…」

ラムさん（賛）への想いはツノるばかり

No．197　卓

私事になりますが、僕が最初に留美子さんのマンガを、「おっ、なんじゃ、このマンガは！」と見たのは「うる星やつら」で、クラマ姫が最初に出てきた頃でした。とにかく、鬼が出てくるし、クラマ・カラス天狗が出てくるし、そして弁天や雪女が出てくるし、牛若丸も出てくるし…。初めはてっきり日本民話や昔話のパロディマンガだと思っておりました。面堂が出現してからは学園的、ラブ・コメ的色彩を加え、少しずつ変化をつみ重ねながら現在に至っている訳ですが、僕の受けた第一印象はある意味においては本質的に今でも変わってはいないと思います。話を「うる星やつら」に絞りますが、とにかく出てくるキャラクターに日本昔話などが元になっている例が多いのは周知の事です。そして数多いそんなキャラクターの中でも、ラムが一番の存在であると思っているのは僕だけではないでしょう。

最近の「うる星やつら」では超能力の有無が地球人か宇宙人かを分ける違いではなくなってしまいました。地球人のつもりかもしれませんが十分にＡＬＩＥＮだったりします。

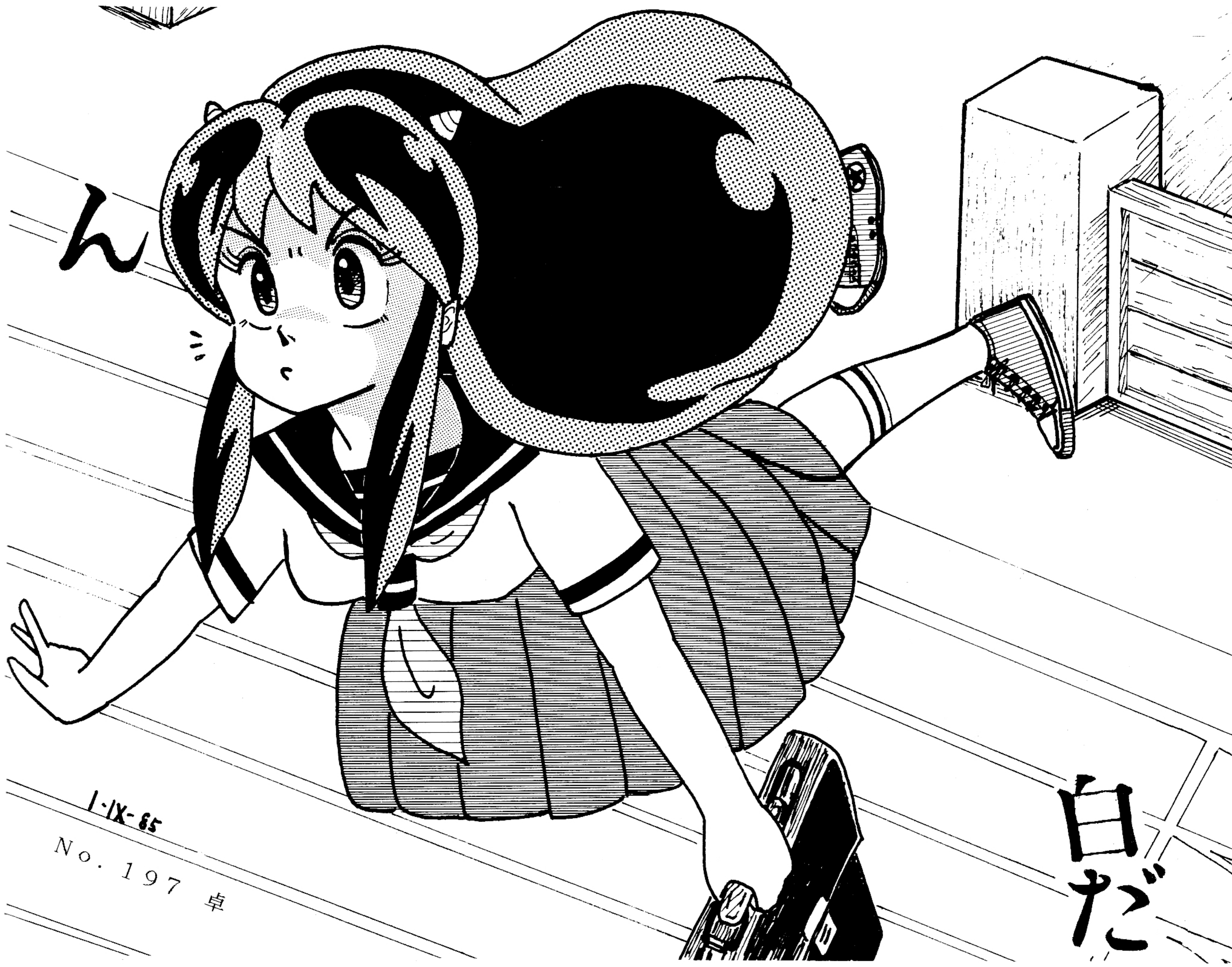
特に飛鳥は、あれほど何番煎じもされたのでは、違和感さえ覚えてしまいます。これでは、ラムの方がよっぽど地球人、正確に言うならば日本人らしいと思うのです。実はこれがラムの魅力の原点に通ずるものだと思うのです。ここで誤解されては困るのですが、初期の頃のラムと較べて、性格や言動が丸くなり宇宙人らしさ（地球人と対立的な存在である事、特にしのぶと）を失った事を言っているのではないのです。ラムはもともと本質的にとても日本的なキャラクターのです。丸い性格になったのは地球に来た目的が変わるなど環境の変化に適応した結果と言えるでしょう。

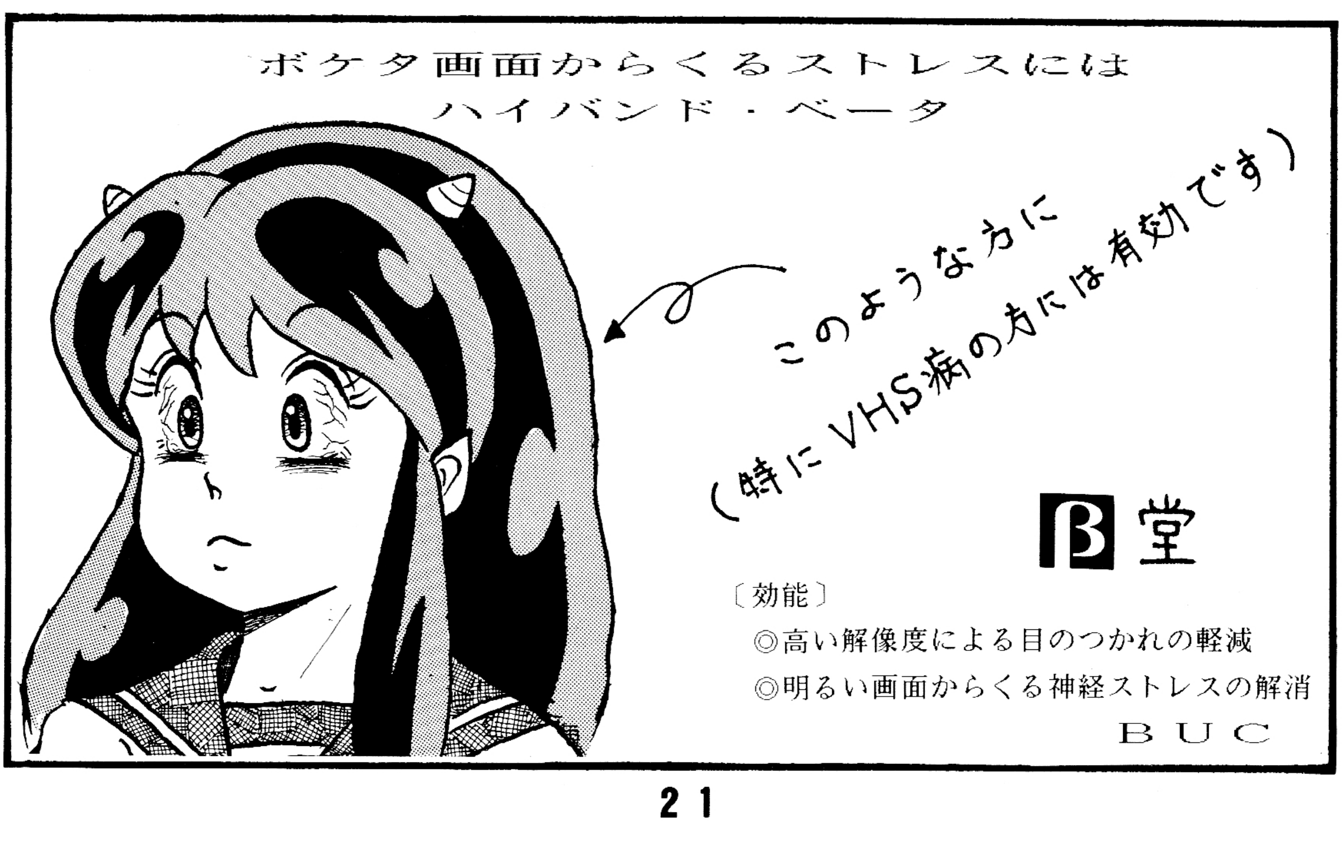
上で言ったような事はすべてラムの“ツノ”に象徴されていると思うのです。もし、ラムにツノがなかったとしたら、果たしてこれほど魅力的なキャラクターになっていたのでしょうか。ラムのツノは多くの意味を含んでいます。ラムは“鬼”です。だからツノがあって当然なのですが、同時にこのツノは地球人ではないことを、つまりラムは“宇宙人”であることをさりげなくアピールしているのです。地球人との違いを一目でわからせてくれる一方、とてもなじみがあるというのか、一種の親しみを我々の多くに与えてくれるのがラムのツノなのです。これこそがラムの魅力の原点なのではないでしょうか。また、これは付随的な事ですが、ラムのツノには猫耳的なかわいらしさをかもし出してくれる効果があるのではないかと思うのです。生まれながらにして本当に素敵な飾りをつけているものです。

ごくごく初期のラムのツノはかなり大きく、その後小さくなっていきましたが、これは性格の場合と同じように環境の変化に適応した結果であると解釈できます。

ラムに較べて、ランの宇宙人としてのインパクトが弱いのはラムのツノの様なものが無いためで、それを二重人格でカヴァーしています。またおユキや弁天は日本的とゆうよりも日本趣味的と言った方が適確であり、シチュエーションがどうしても限られがちであるのはこのためだと思います。

以上ラムのツノについて勝手な事を書きましたが、こんなキャラクターの動きを引き出すエピソードが最近少なくなっているのは少々さびしい気がします。


ん
白だ
1-IX-85
No. 197 卓


ボケタ画面からくるストレスには
ハイバンド・ベータ
このような方に
（特にVHS病の方には有効です）
β堂
〔効能〕
◎高い解像度による目のつかれの軽減
◎明るい画面からくる神経ストレスの解消
BUC

ルーミックワールド
留美子世界と私

No．200　A．サクラ

最近の私は、ＴＶアニメーションに対して、自分自身の若干の変化を覚えています。この自覚の原因となったものは、これまでキャラクター中心であったアニメの映像表現法に対し、映像の空間を中心とした構成法がＴＶアニメにおいて使われるようになったからです。これは本来映画の演出法ですが、それをそのままアニメに写し替えただけでは意味を持ちません。これまでのアニメの演出法と上手く融合させた上で、表現させなければならないのです。これの上手い演出家の代表として、吉永尚之氏と望月智充氏があげられますが、やはり見ていて、私自身を納得させてしまうものを持っています。そういった形で、アニメに対しての映像感覚が変化してしまった私にとって、アニメの『うる星』は、面白味が半減してしまっているのです。演出効果以外での背景のごまかし、原作のコマをそのまま画面に持って来た場合が良い時と、そうでない時の分別もつかず、ただ単に原作のコマをそのまま画面に持って来ただけの映像構成、単調なキャラクターのアクション。押井守全盛期や山崎和男全盛期の頃は、それなりのまとまりがあったものの、現在ではそれもなく、かなりちぐはぐな作品が多いのです。

最近の留美子作品のアニメ化の現状として、“るーみっくわーるど”のアニメ化があります。しかしまあ、『炎トリッパー』なら大丈夫ではないかと思うのです。文芸の金春智子も上手い方だと思うし、彼女には得意な分野の作品だと思います。これは島田満にも同じ事が言えるのですが、この２人は、キャラクターへの思い入れが、かえって作品をダメにしている傾向があります。『うる星』以外なら、良い方向に働くにもかかわらず、『うる星』でそれをやるから、作品として成り立たないところまで行ってしまうのです。（これは『うる星』のキャラクター達が多面的な性格を持っており、また同時に、読者に対して、キャラクターの心理が明らかになっていない部分が多いからです。）『うる星』に関しては、早くくだらないポリシーを捨ててもらいたいものです。また、平井和正の“女神論”にも似たような事が言えます。あの理論は、『めぞん』に関しては、それなりに面白く納得も出来るのですが、『うる星』には絶対にあてはまらない。なぜなら『うる星』は、面堂の登場によって始まった『転』の部分が延々と続いており、さらにその中で、作品そのものの構成が変化している為（ヒロインの交替、キャラの性格変化等）、現在の状況のみで判断するのは非常に困難であり、リアルタイムでその時代を経験していない者にとって、理解は難しいのではないかと思えます。

“るーみっくわーるど”のアニメ化に際し、絶対にやって欲しくないのが、『笑う標的』である。雑誌版の『笑う標的』ならば、別に問題は無い。しかし、アニメ化されるとしたら、単行本版の方でしょう。あのどうしようもない駄作の単行本版『笑う標的』なのです。雑誌版の『笑う標的』が、あれ程優秀な作品だったにもかかわらず、なぜ改訂しなくてはならなかったのか、今でも私は良く理解出来ないでいます。ここでは、改訂前後の差、なぜ駄作か？の理由は記さないが（興味のある人は、うむんじゃなかったｖｏｌ．７を参照して下さい。）改訂後の駄作を映像化されるのは、実にしのびないのです。

『闘魚の村』の後編は、もっと頁が有ったら、もっと良い物が出来たのではないかと思います。また、『人魚は笑わない』、ともう少し関連づけて話を構成しても良かったのではないかとも思えます。『お婆さんといっしょ』は、なかなかの作品だと思います。話題にのぼらないのが不思議なくらいです。ただ、私にもまだ分析が良く出来ていないので、なんとも言えませんが。

では、彼女の漫画の面白さとは、何なのでしょうか。彼女がＳＦを描けない事は、最初からわかっていた事だし、短編を読んでもわかる通り、また過去から現在までの作品の状況を見る限り、彼女がストーリィテラーであることは、冗談にも言えません。すなわち、彼女の漫画は、理解させる（読ませる）漫画ではなく、感じさせる漫画なのです。その見方からすれば、短編がかなり良質のものだと理解していただけると思います。ましてや、マンガの原点が男女交際だと言う彼女に、ギャグ漫画が描ける訳ないのです。結局の所、彼女の漫画を読んで面白いと思うのは、彼女の漫画の彼女らしい演出が面白いのです。現在の『うる星』においても、面白さは、表面的な漫画の面白さと、彼女風の演出にほかなりません。構成など、もはやどうでも良いのです。（ここで言っている構成とは、連載全体における流れと、作品一本の中の基本的なストーリィなど大ざっぱな話はこびの事です。細かい部分の話はこび（コマのつなぎ）及び、コマ内の絵の構成、効果は、演出に含まれます。）しかし、『めぞん』は、まだまだいけます。構成、演出、ギャグ、どれをとっても、まだまだ光っています。『春の墓』から、『めぞん』も、『転』の部分に突入し、『うる星』のように延々と続いてもらっては困りますが、まだまだ『めぞん』は楽しんで読める作品の一つです。

最後に。現在の彼女の作品に、面白さを見つけられない人達へ……。現在の彼女の作品の指向を変える為には、現在の最大多数の読者のし好を変える他にはないと思います。恐らく読者の多くは、響子さんのように、現在のぬるま湯状態が続くのを、望んでいるのでしょうから。



Ｎｏ．７５　ひろちゃ

高橋留美子と青池保子

No．196　大僧正

この二人について、比較したいと思います。

代表作として「うる星やつら」、「エロイカより愛をこめて」。この二人の作品で共通なところは、平凡な世界に非凡なキャラクターを出現させるか、非凡な世界に平凡なキャラクターを出現させるか、のいずれかです。「うる星」や「めぞん一刻」では、平凡な家庭（？）に突然異星人が出現したり、美人がいたりなど、我々が日常生活から逃避する、空想の世界に似ているのではないのでしょうか。しかし、これも初期の頃は、現実と空想が入り乱れて楽しかったのですが、今では、道具にばかりこだわり、「ドラえもん」になってしまっていて、本来の空想と現実の接点的な空間が、いつのまにか空想の中の空想に終わってはいないでしょうか。この間の味わいが今や消滅して、絵だけになってしまったのは残念です。「めぞん」についても、同様です。青年期の人やモラトリアム人にとって、たまらなくぬるま湯の世界が、いつのまにか昼メロの世界へ行ってしまっているし、また、五代のキャラクターの成長もあまり見られず、ぬるま湯が水になってしまったように感じます。

一方、「エロイカ」ですが、この作品も一歩マチガエば、マニアックなものになりすぎ（βビデオのようだ）一般受けしなかったでしょう。しかし、「エロイカ」は、いわゆる裏の世界でのハードボイルドと少女マンガ的絵を日本人的セコさでミックスし、月一回で、休みありのスバラシイローテーションで我々を楽しませてくれています。「エロイカ」も、ジェームズ君、ボーナム君、A、B、Z、部長、ローレンス、ミーシャなどがいなければ、ただのスパイものになってしまうでしょう。これらのキャラクター＋どこにでもいる日本人が、この非凡な世界を、我々日常の平凡な世界にまで引きずり落としてくれるのではないでしょうか。

「エロイカ」での五星は、「うる星」と違って、「来た見た勝った!!」などで回を重ねるごとに人間関係が混み入って面白くなってきています。「うる星」とは逆のように思えます。「うる星」でのラムの嫉妬も初期の頃はかわいく感じましたが、今では、少し気が重くなります。「エロイカ」でのジェームズ君のケチは、逆に、初期では目につきましたが、今では、彼の人格が理解できたのか、私がケチは美徳と感じたのか、思わず同感しているのが現実です。（個人の成長か？）　「うる星」と「エロイカ」のキャラクターの比較をしていって突き詰めると、やはり、「エロイカ」の方が個性的に思えるし生活感が感じられます。その理由は、「エロイカ」のキャラクターが、その世界で充分に役割を果たしきっていると思えるのに対し、「うる星」では、今一歩に思えます。同じようなモブシーンでも、「エロイカ」の外国での場面で、突然その群集の中にメガネ・カメラ・背が低く・黒髪の人々が走っていると自分そのものを感じますが、「うる星」で宇宙人が走っていてもあまり共感できません。

なんだか、文章が同じ所を回っているようですが、最後に、本当に高橋留美子のパワーが落ちたのでしょうか。思うに、我々の大多数の人々は、いわゆる中流意識を持つ人ではないのでしょうか。したがって、現在、社会の保守化現象の中で、我々そのものが変化を嫌い、自己の世界の上下の範囲を決めて、その囲いの中に安住しているような気がします。高橋氏のパワーか、我々の保守化か、あと数年後にはその答えがでると思います。そのときが、今は面白くない作品を面白いと感じるときなのかもしれません。（そのとき、βは生き残っているか!?　たぶん無理でしょうな）


けも
乱脈新婚旅行
人妻あばれ旅
主演 はがねまきこ
元祖 浪花屋の柿の種
干物 のざこ屋
ロゼット・洗顔パスタ
てぬぐい
漫倫 No.4649

高橋ファンのこれからについて

No．173　Mr．バイオレット

電車の中でふと中吊りを見上げると、スピリッツの広告が、ぶらさがっている。響子さんのカットが。

ほんの少し前まで、響子さんの広告は、よほど運が良くなければ見れないと思い込んでいたのだが、ここ最近は、必ず見ることができるのである。ここに、留美子人気の“斜陽期”を感じるのである。

しかし、現在に至ってもまだまだファンをやめない我々にとって、この時期こそ、有用に費やし、第二の繁栄期にしようではないか。一種のチャンスである。なぜなら、一時的にアニメーションにより増えたファン人口は、激減しつつある。ＦＣの数から言っても、明確である。だからこそ今、高橋留美子という人物は、より身近なもの、より現実的になったのではないのか。ファンをやる人間にとって、確かに、デメリットとなることは、あるだろう。しかしメリットがあることは否定できない。そこでそのメリットについて書いてみようと思う。

其の一：懸賞などの当たる確率が増大したこと。２年前まで、懸賞など当たったためしがなかった私は、去年の冬あたりから、爆発的に当たりだした。一年足らずで、十数回当たったのであるから、これは大いなるメリットであると言わざるを得ない。ポスター等の入手が楽になったこと。書店用はもちろん、駅貼りのポスターも盗まれる事が減ったので、かなり入手の確率も高くなった。

其の二：明らかに高橋留美子を餌に、買わせる本が減ったこと。今まで苦汁を飲まされたことが何度あったことか！　ファンの心理を利用し、ワンカット描き下ろしだけのために、全く興味のない本を買わされる。いくら買わないで、売れなくさせようとしても、ファン人口の多い時期では、とても売れなくなるものではなかった。その苦い経験をもとに我々は、一カットでもほしいという心境を我慢することをおぼえて、それが、だんだん、サンデーを買わなくてもスピリッツを買わなくてもがまんできるようになり、熱をさまさせたのだ。これは、墓穴を掘ったと言えよう。

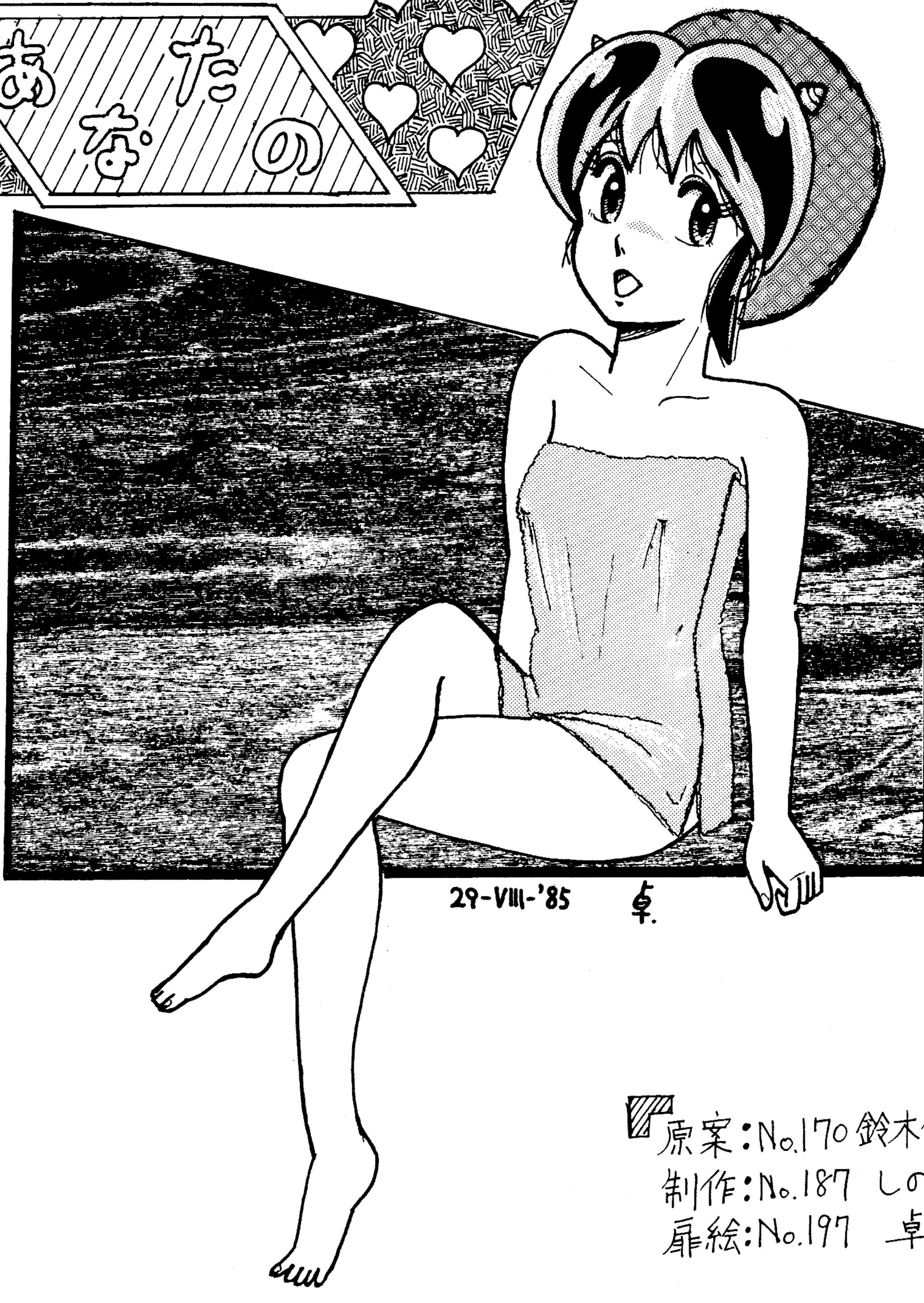
其の三：高橋留美子のＦＣがどんどん自然淘汰され洗練されたと言えよう。人数が減るにつれ、互いの間の親しさが増し、その人の考えかたもわかる。じつにたのもしいものになったのだ。それが、真のＦＣの姿、理想だと思うのだが。

今までの活動状態が悪いということでは決してない。ただ、あまり環境がよい時代では、なかったと思う。これから、まだまだ色々環境に変化はあると思うが、常に良心的に考えていきたい。とにかくいいたいのは、これからも決してあきずに活動を続けていく価値があると思うのだ。

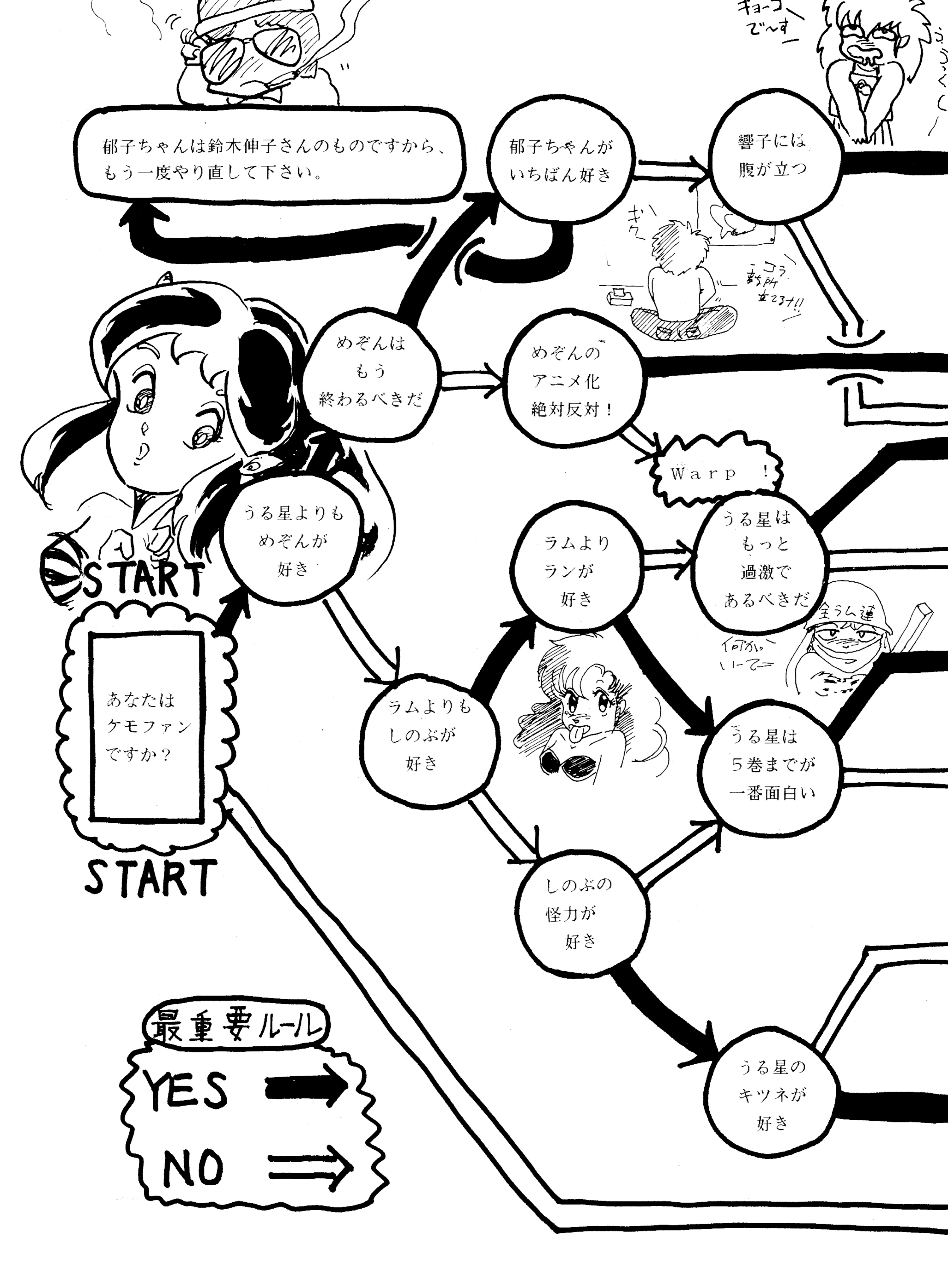


No．２０７　石橋かずみ

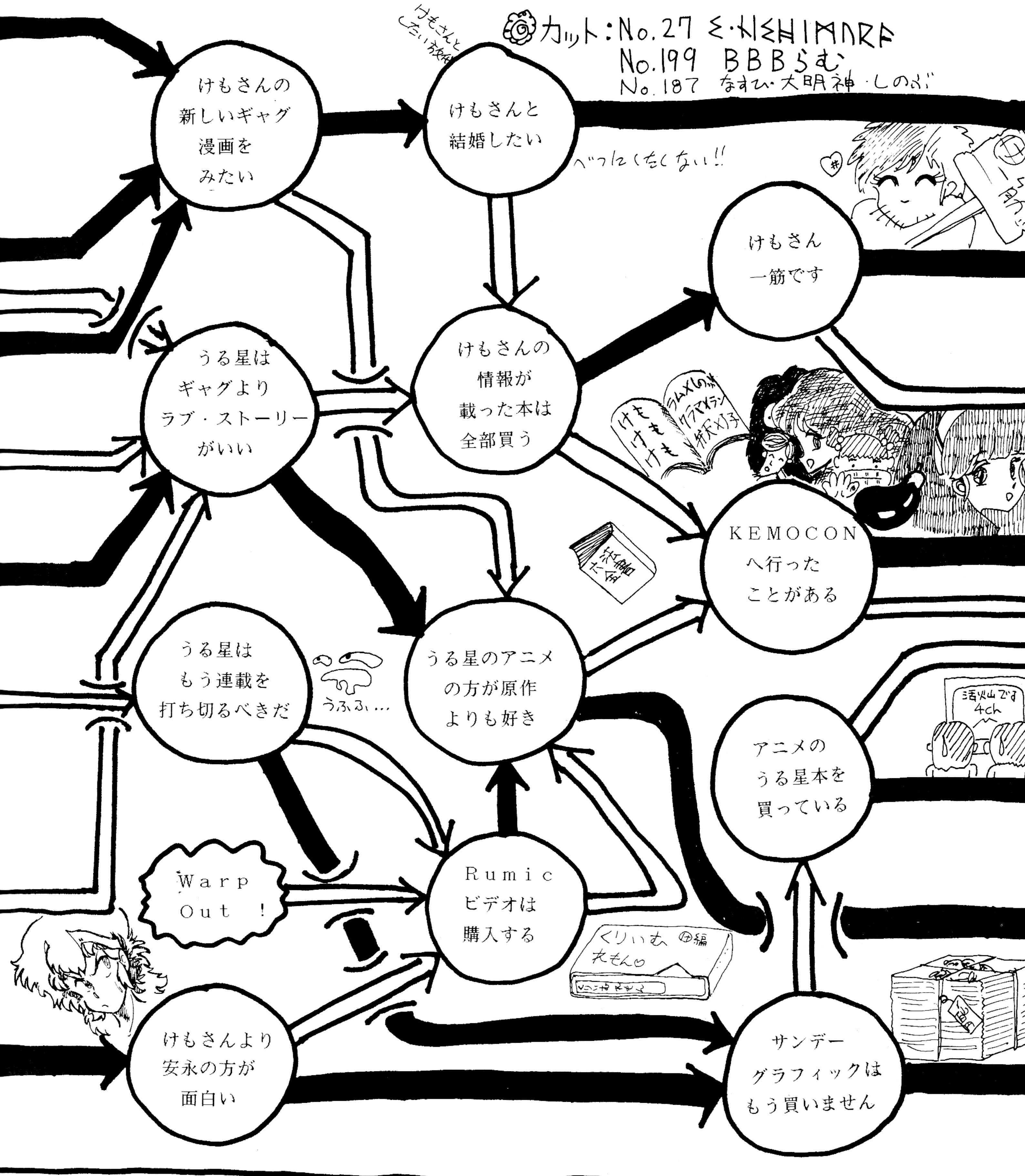
あなたの性格判断



原案：No.170 鈴木伸子
制作：No.187 しのぶ
扉絵：No.197 卓



郁子ちゃんは鈴木伸子さんのものですから、
もう一度やり直して下さい。
郁子ちゃんがいちばん好き
響子には腹が立つ
キョーコで〜す
めぞんはもう終わるべきだ
めぞんのアニメ化絶対反対！
Warp！
うる星よりもめぞんが好き
ラムよりランが好き
うる星はもっと過激であるべきだ
全ラム連
START
あなたはケモファンですか？
START
ラムよりもしのぶが好き
うる星は５巻までが一番面白い
しのぶの怪力が好き
最重要ルール
YES
NO
うる星のキツネが好き


カット：No.27
No.199 BBBらむ
No.187 なすび・大明神・しのぶ
けもさんの新しいギャグ漫画をみたい
けもさんと結婚したい
けもさんとしたい放題
べつにしたくない!!
けもさん一筋です
うる星はギャグよりラブ・ストーリーがいい
けもさんの情報が載った本は全部買う
けもけもけも
KEMOCON へ行ったことがある
うる星はもう連載を打ち切るべきだ
うふふ…
うる星のアニメの方が原作よりも好き
活火山です 4ch
アニメのうる星本を買っている
Warp Out !
Rumic ビデオは購入する
くりぃむ ⑪編 れもん
けもさんより安永の方が面白い
サンデーグラフィックはもう買いません

《結（けつろん）論》

運命じゃ！

病人

あなたは立派な病人。マニアとはまた違った極限を極めていますが、よりたちが悪い。ちょっとした事でとことんこだわるだけでなく、留美子づけになり、生活空間の中に高橋留美子物がなくなると、たちまち禁断症状を起こし、すぐさま帰宅、キャラクター商品に正常になるまで埋まっている人。もう、リハビリもききません。来るべき終末の日まで、せめて心安らかにお過ごし下さい。

マニア

あなたは立派なマニア。もはや、けもこびる道を極め尽くした見あげた方。あなたはちょっとした事でもとことんこだわり、そのためならば、会社であろうが学校であろうが平気で棒に振る情熱を持っている。もはや一般人復帰は無理です。せめて、人にマニアである事を悟られないよう演劇を勉強することです。

ファン

あなたは立派なファン。しかし、一つ間違えればたちまち業深、面妖の世界に引きずり込まれることになるでしょう。今あなたにとって大切な事は、友達を選ぶ、これ以外にありません。平安な日々が永く続く様祈っております。

なりそこない

あなたは立派ななりそこない。これであなたも身の破滅。アニメぴたりでアニメと原作を混同し、平○文の予告で作品がわかる異能を持つ方。今すぐに血液検査をしましょう。きっとＡＩＤＳです。

かたぎ

この性格判断をやっている人の中にこの種の人間はいるはずがありません。もう一度やり直して下さい。何度やってもここに来る人は、もう一度性格判断をやる前にそのひねくれた性格を治す事が是非必要です。



No. 130 岡浜哲也

特集 高橋留美子と私
◇おわり◇

私説　留美子史

題字	Ｎｏ．０９１	田村　要
企画・資料協力	Ｎｏ．００１	弘　一作
製作・文責	Ｎｏ．１５０	近藤博次
資料協力	Ｎｏ．１８８	三宅泰弘

　この度けもさんのサンデー本誌における掲載順位を、デビューよりすべて調査してみました。ここにそれを発表いたします。

　ただし、数学的解析は苦手なので一切行っておりません。単に粗データー提出にとどめますので、誰か得意な方がおりましたら、本データーを元に自由に行って下さい。一応、人気をはかるのに必要なパラメーター（順位・カラー・増ページ・表紙）はすべておさえてあるはずです。

　さらに理解の助けとして、当時の『けも世相』を余白にできるだけ載せておきます。これらからけもさんのデビュー以来の流れをくみとって頂ければ幸いです。

（グラフの見方）単に前から作品本数を数えただけの順位を載せてあります。ただし４コマ漫画はこれを除外してあります。別に軽視するわけではありませんが、４コマは穴埋め的にあちこちにとんでいる場合が少なくなく、比較の対象となり得ないと判断したからです。同様に増刊号の掲載作品の順位も記載してありません。

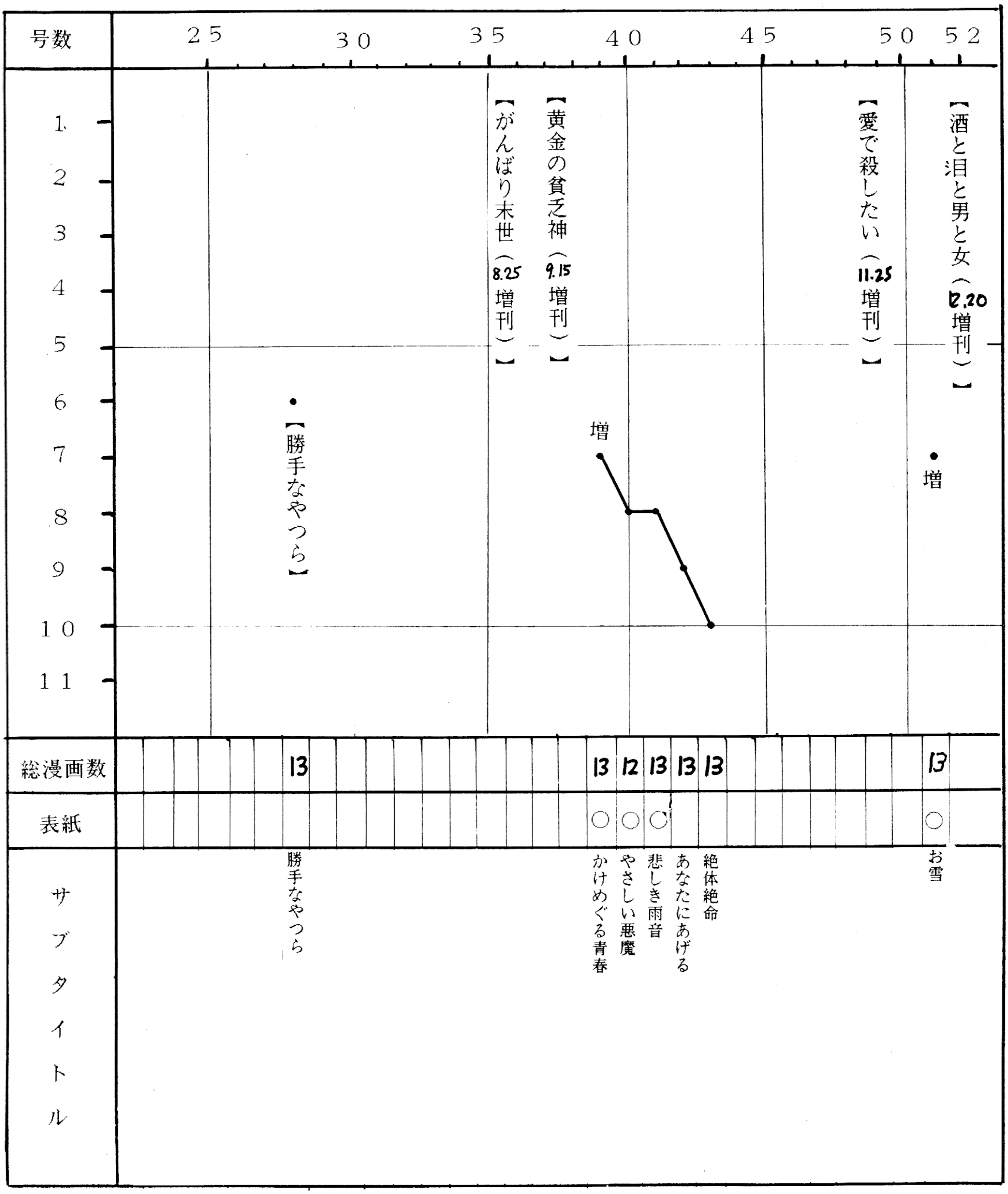
　ドットを丸で囲んであるのはカラーページを表し、『４』とあれば４色、『Ａ』とあればオールカラーです。『４Ａ』というのは４色ありオールカラーです（オール４色、というのがあればすごいが）。

　『増』は増ページ、『減』は減ページです。基準は初期の２０Ｐ、連載の１６Ｐです。増刊はこれを除外してあります。

　さらに比較材料として、『総漫画数』も載せてあります。『開始ページ数』『総ページ数』は割愛しました。まず順位グラフと大差ない上、下手にやるとデーターに押し潰されて全体の流れを見失う恐れがあったからです。

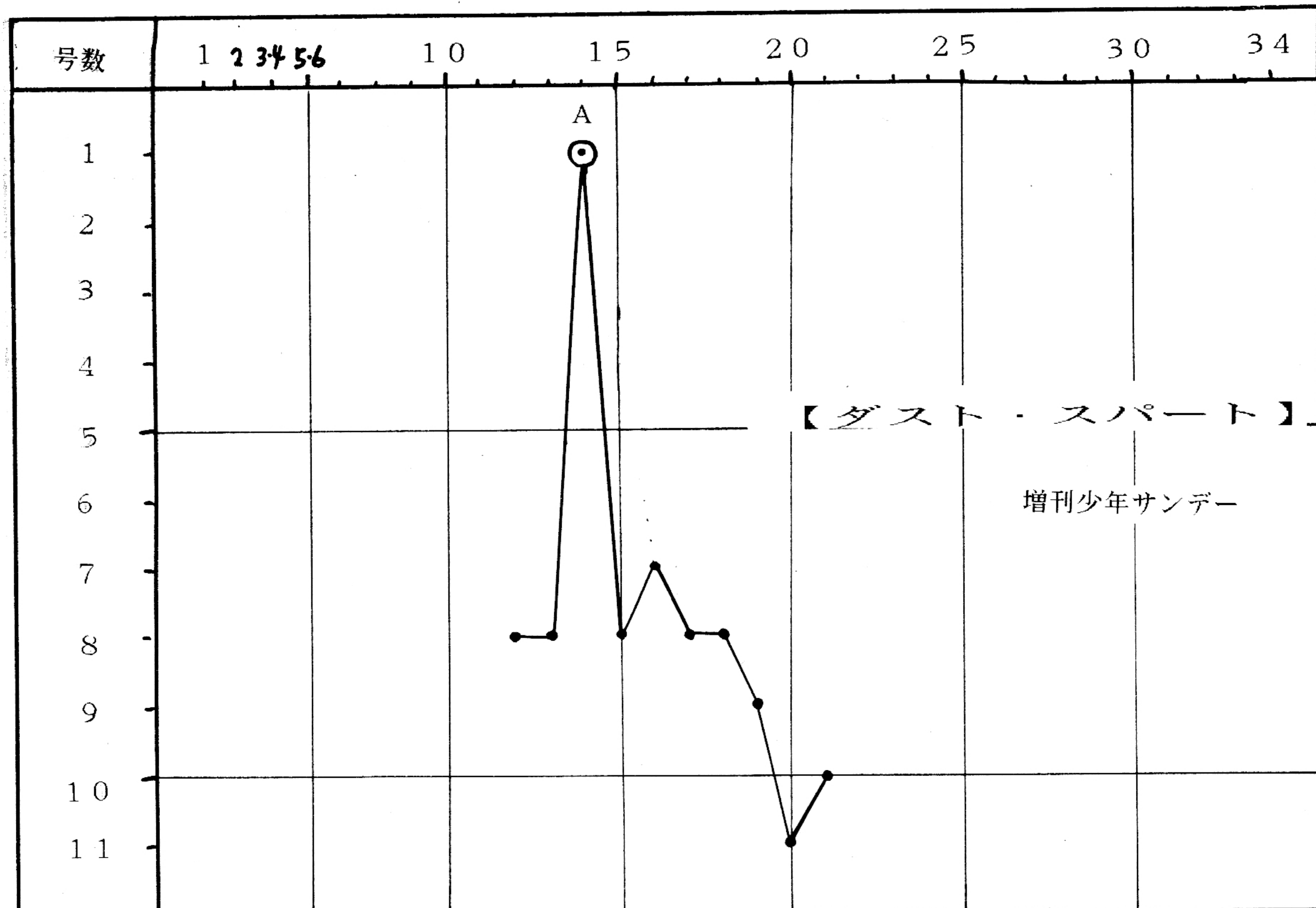
　『表紙』というのはサンデーの表紙をけもさんが手がけたか否かをさします。不本意ながらアニメのうる星が表紙を飾ったときも（人気度の参考として）載せます。記号の意味は、『●』が表紙の中心となっているもの、『○』が小さいカットでも載っているもの、を指します。アニメは『★（中心）』『☆（一部）』で表記します。尚、判断が難しいので、描きおろしと再録の区別はしておりません。

1978



言うまでもなくけもさんのデビューです。何本か増刊に描かせて反応を見たうえで本誌連載、というサンデーの新人作家の扱いの例に漏れません。ただし『うる星』連載開始時の３週連続表紙、というのはかなり上等な扱いです。察するにそれまでの３短編の反応は、かなり上々だったのでしょう。

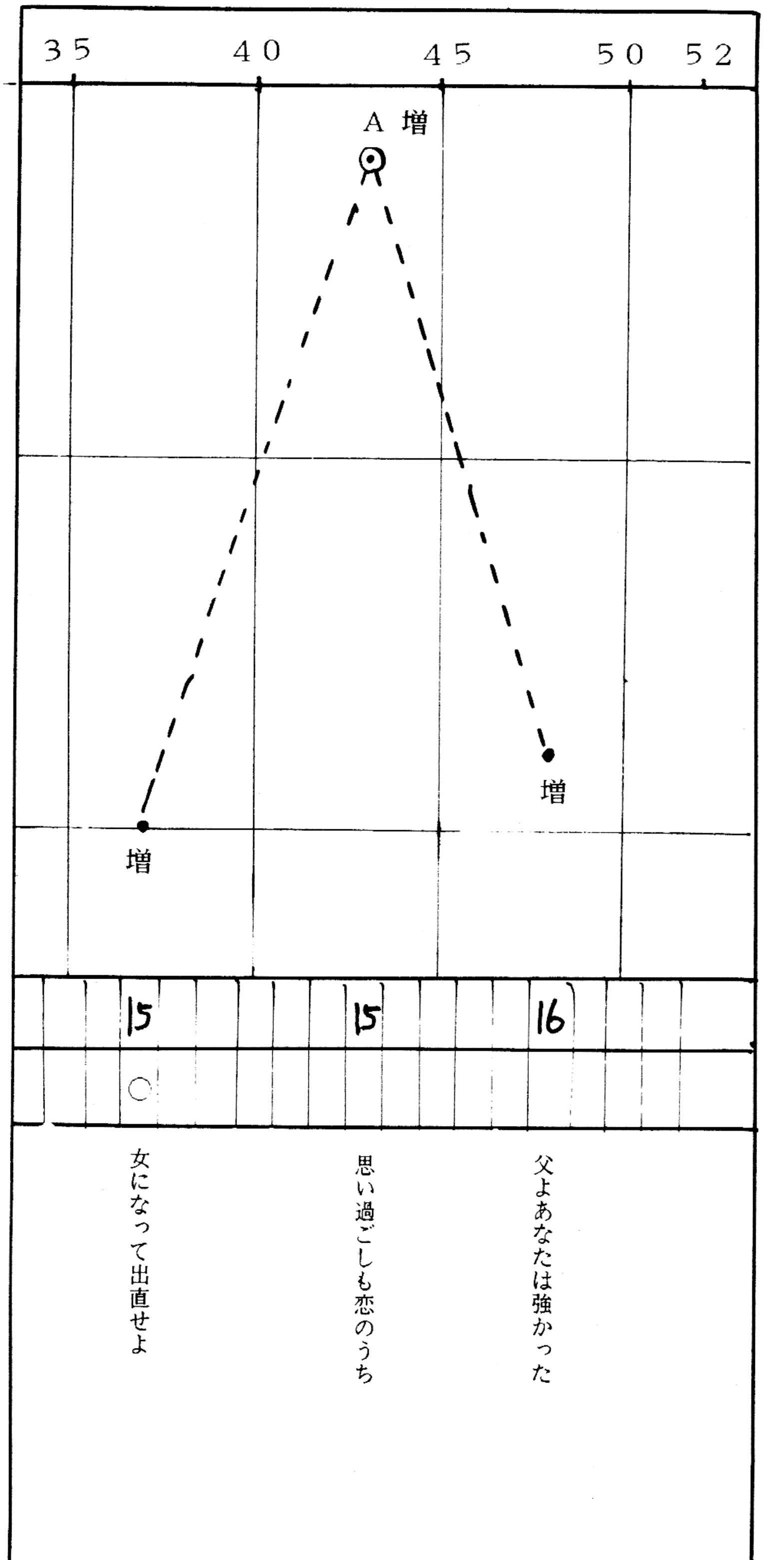
しかしながらこの女子大生が、小学館の巨大なドル箱となろうとは、一体この時誰が予想したでしょうか。



総漫画数	14	16	14	15	15	15	15	15	15	14
表紙	○	○	○							○
サブタイトル	憎みきれないろくでなし	いい日旅立ち	大勝負	性	系図	あやつり人形	いまだ浮上せず	幸せの黄色いリボン	ディスコ・インフェルノ	さよならを言う気もない

御存知のように、幻の『うる星やつら最終回』を見た年でした。下降線をたどっているのが気になる所ですが、それでも２１号で表紙を飾っている事実から人気があったことは容易に想像できます。もちろん御承知のようにこの最終回は卒論のためだったのですけれども。

１１話（大勝負）にして早くもサンデーの桧舞台である巻頭オールカラーに輝いていることからも、サンデーの期待をかけられていたことがうかがえます。



内容的にはクラマ姫が登場し、あたるのキャラクターが初めて崩れます。これにより、『事件に巻き込まれる』というパターンに変化が起こります。これまでは、あたるはまだ常識的な一高校生だったのですが…（凶運、というのはありましたが、それ以外は普通人です。あの程度のスケベさはむしろまともと言うべきでしょう）。

スペースが余っているので、この年のサンデーの他の作品についてもコメントしておきましょう。

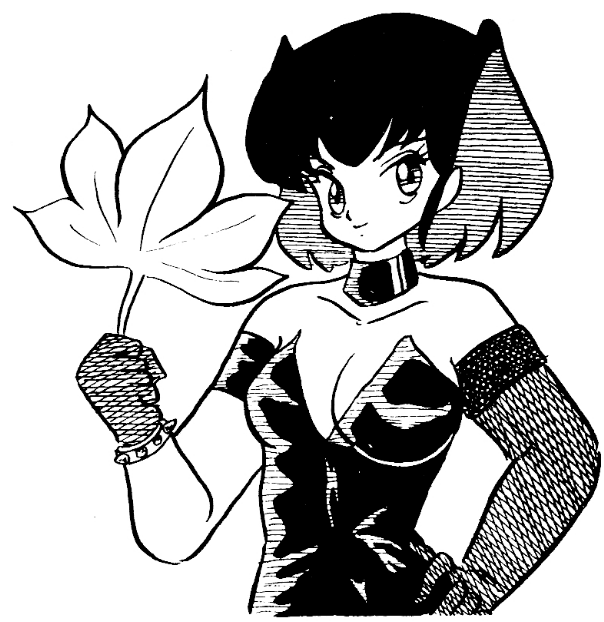
当時の看板は、何といっても『がんばれ元気』です。実に１９７８年より最終回（１９８１年初め）まで、５位より落ちたことがほとんどありません（１９７７年以前は未調査）。

ちなみにこれは『うる星』をはるかにしのぐ数字です。

また、この年『男組』が終了致しました。合掌。

他の人気作品は『ヒット・エンド・ラン』『まことちゃん』『おやこ刑事』『サバイバル』『できんボーイ』などです。

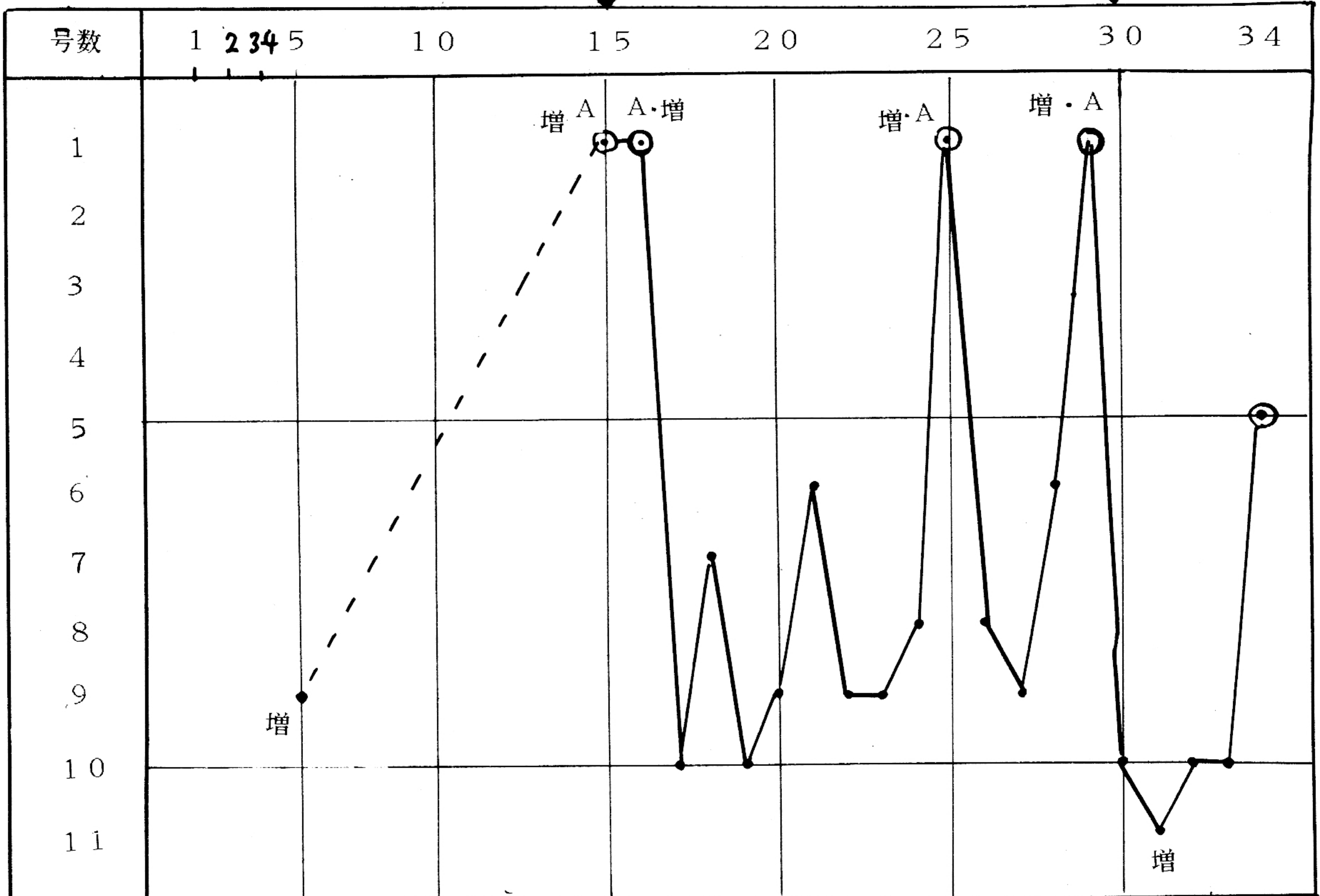
『番外甲子園』が連載開始です。またこの頃は手塚治虫・石井いさみ・スノウチサトルなどという面々も描いております。



Ｎｏ．１５８　植野知己

1980

【コミックス１巻発売】　【このころ担当大島氏になる】

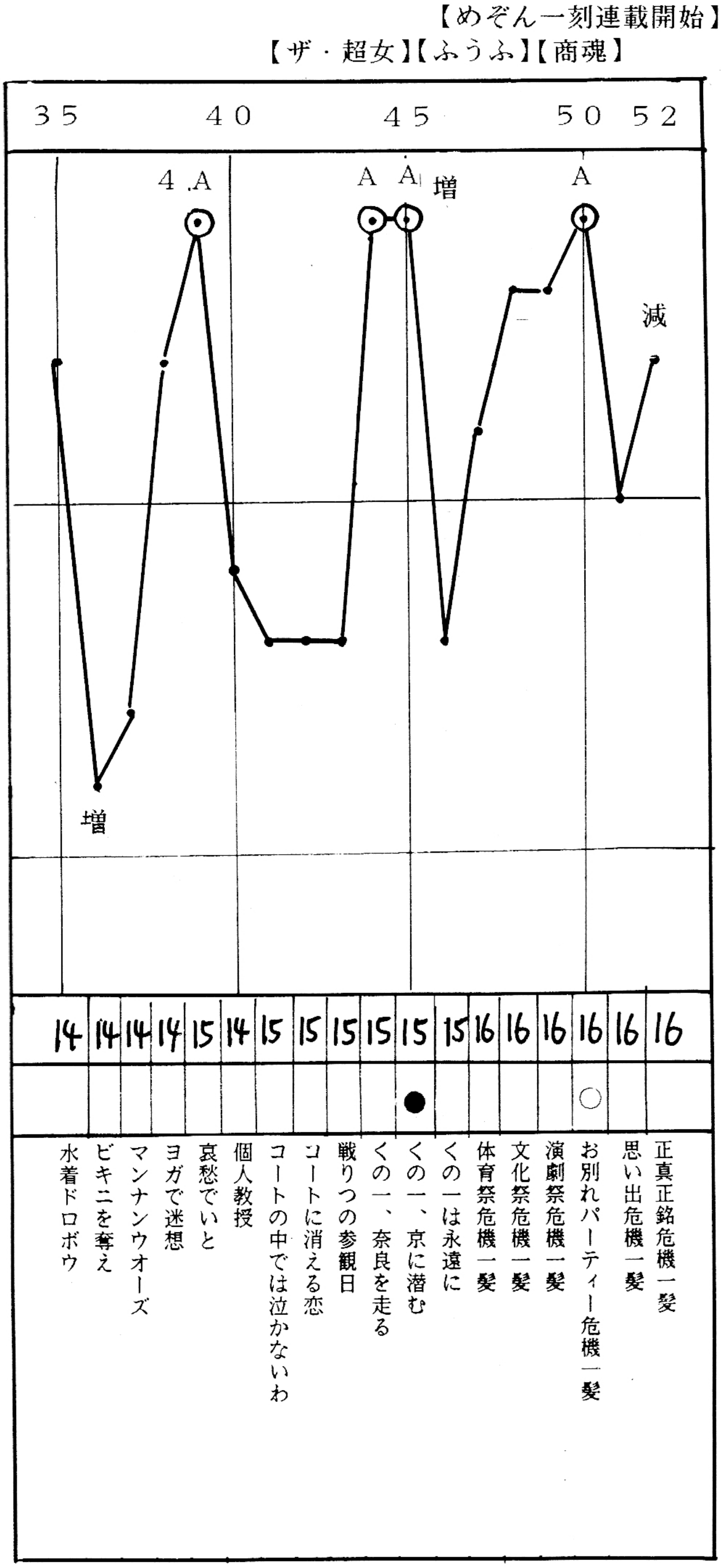


号数	総漫画数	表紙	サブタイトル
5	17	○	勇気があれば
15	16	○	トラブルは舞いおりた！
16	16	○	星座はめぐる
17	16		春のうららの落第教室
18	16		ツノる思いが地獄をまねく
19	15		君待てども
20	15		涙の日記
21	15		この子はだあれ？
22	15		迷路でメロメロ
23	15	●	目覚めたら悪夢
24	16	○	四次元カメラ
25	16		美しい旅立ち
26	16		君去りし後
27	15		妖花・サクラ先生
28	15		みんな雨ン中
29	15		魔のランニング
30	15	○	怪談・コピー人間
31	15		七夕デート
32	15		白球にかけた青春
33	15		怪人赤マント
34	15	○	サーフィンSOS

待ちに待った連載が再開しました。この頃は本当に一話一話が輝いていたものですね。思えばなつかしいことです（これでは年寄りの昔話だっ）。

面堂が登場した事により、しのぶとあたるの間にあった『恋人らしさ』というものが消え、さらに『君待てども』『君去りし後』といった作品群により、あたるの中のラムの比重が大きくなっていることが判明し、四角関係が完成します。

また、強引にサクラを保健医にしてしまうことにも成功しています。



『男大空』が始まりました。名作『男組』のコンビがくり出すギャグは、毎週明るい笑いを提供してくれました（シャレになってないなあ）。

他の人気作品はほとんど前年と変わりありませんが、特筆すべきは細野不二彦のデビューでしょう。当初は美少女の描ける漫画家として注目されたものでした。当時は一作品中にギャグとシリアスを混在させていたものが、現在のようにギャグのみ・シリアスのみの独立した作品を描き分けるようになったプロセスというものは、けもさんの変質とも比較してとても興味深いものがあります。

有名な話ですが、あの春日光広がこの頃サンデーに描いています（そして一度消えた）。現在の売れっ子振りからは、あまり想像できないことではありますね。



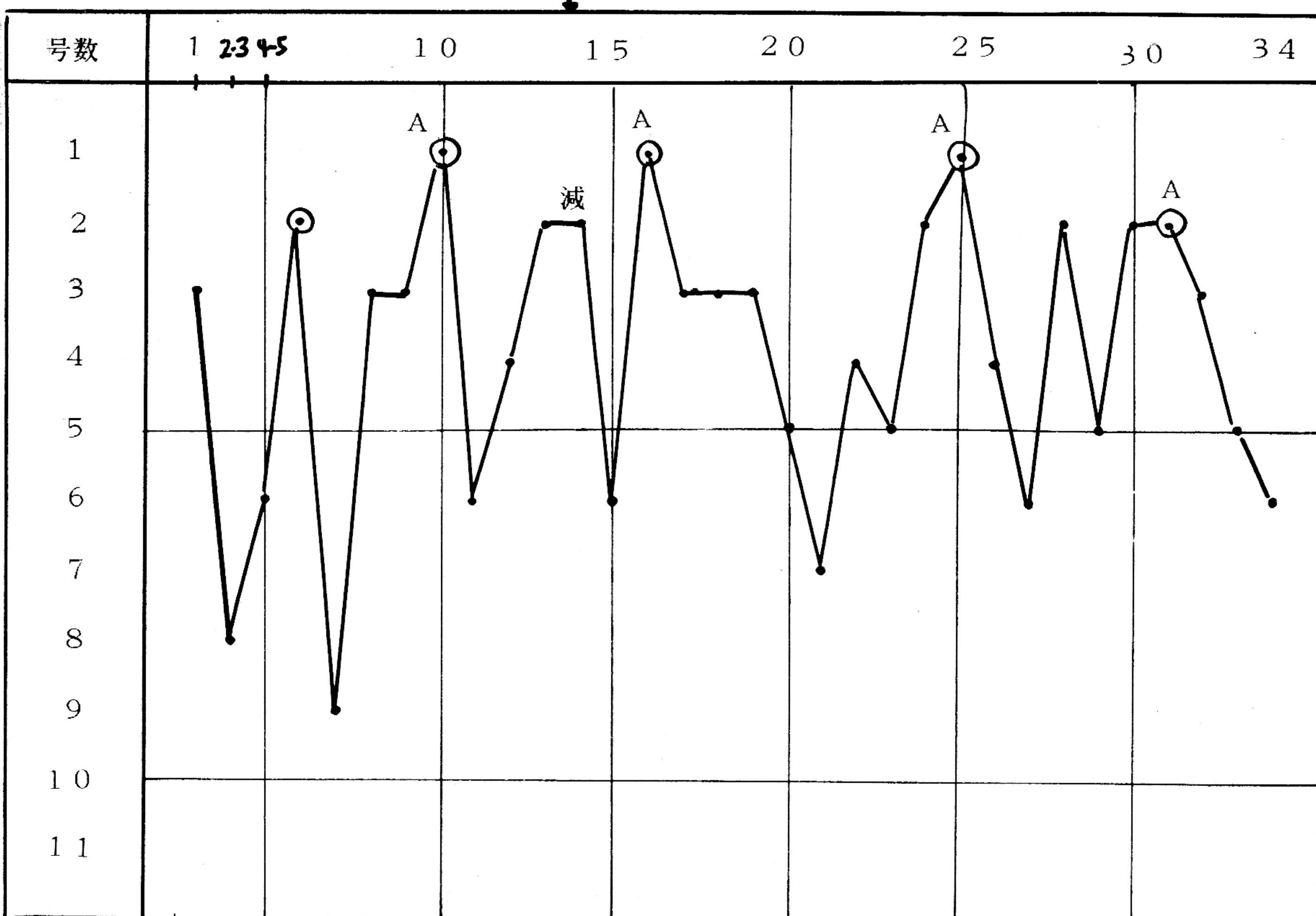
No. 130
岡浜哲也

後半に入ると新キャラクターのラッシュです。けもさんはこの頃キャラクターの開発に懸命だったようで、失敗したキャラクター（特に誰とは言いませんが…）もいますが、それでもトンちゃんやラシちゃんが登場し、現在のキャラクター表はほぼ完成したと言えるでしょう。特筆すべきはランちゃんの絶大なパワーで、このとき『あたるの出ない話』や『ラムが最初の１コマしか出ない話』があることからもそれがうかがえます。

また『めぞん一刻』も始まり、名実ともにけもさんの成長期と言えましょう。

私的な話ですが、私はこの頃の妖艶なキャラクターが一番好きです。

1981 【小学館漫画賞受賞】

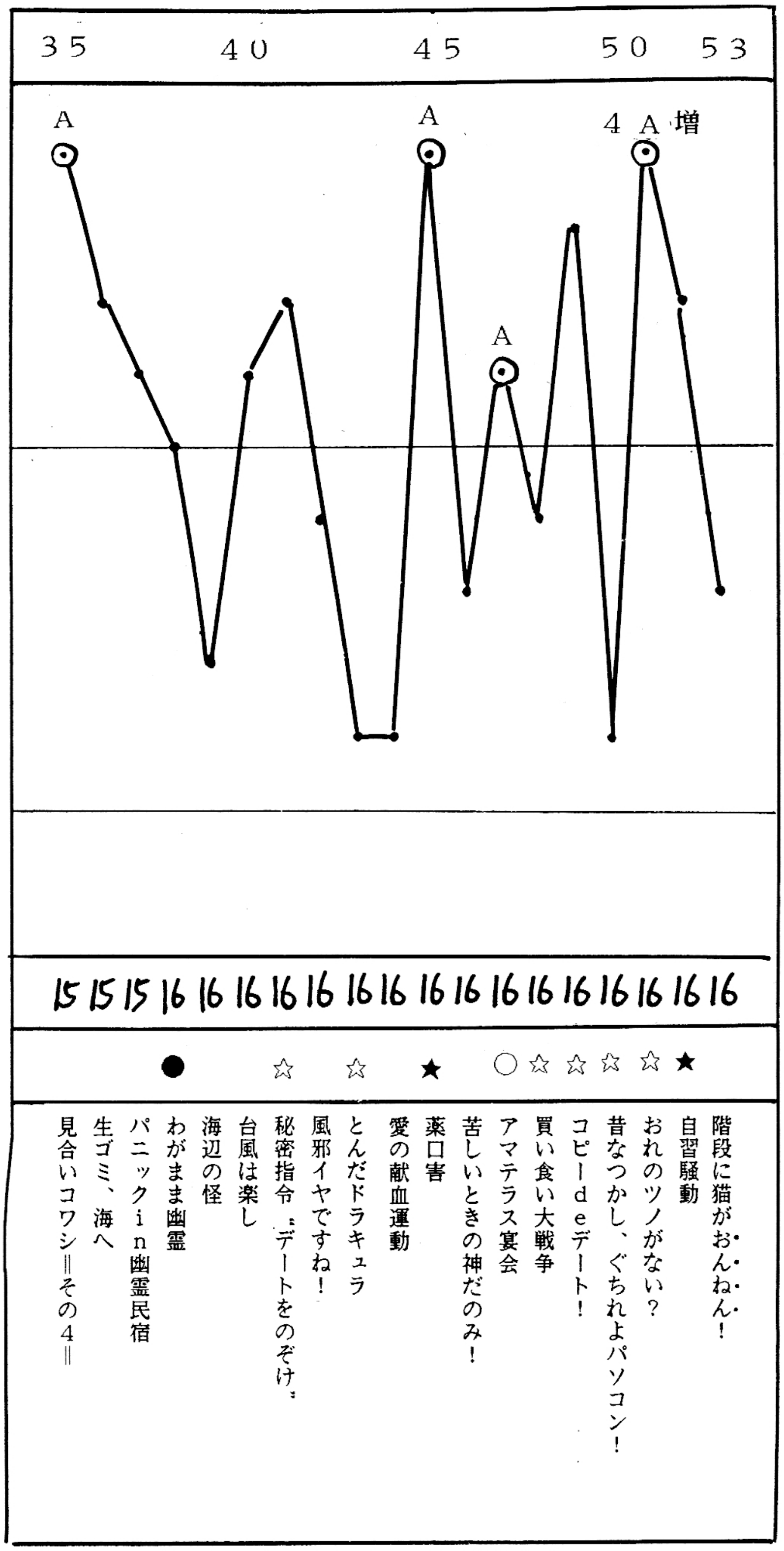


総漫画数	表紙	サブタイトル
15	○	あたるの引退
15		おみくじこわい
17		テンちゃんがきた
17	○	テンちゃんの恋
15		ふたりだけのデート
15		花から花へ
15	○	鬼に豆鉄砲
15	○	ミス雪の女王
15		バレンタインデーの惨劇
14	○	恋のアリ地獄
14	○	桃の花歌合戦
14		イヤーマッフルの怪
14	●	ニャオンの恐怖にゃ気をつけろ!
14	○	大空に舞うハチャメチャ4人組!
14		平安編　壱の巻
14		平安編　弐の巻
14	●	平安編　参の巻
15		"愛"それは校内暴力とともに
15		ああ、図書館
15		ああ、子供の日は恐怖じゃ!
15		幼児たちよ、大志を抱け!
15		ツバメさんとペンギンさん
15		3つ子の魂、百までも!
15	●	女王陛下と愛のラガーマン
15	●	原生動物の逆襲
15		雨よ降れ降れ、もっと降れ＝その1＝
15		雨よ降れ降れ、もっと降れ＝その2＝
15		雨よ降れ降れ、もっと降れ＝その3＝
15		住めば都
15		見合いコワシ＝その1＝
15		見合いコワシ＝その2＝
15		見合いコワシ＝その3＝

この年は何といっても『小学館漫画賞』受賞です。これでけもさんの現在の地位は確立したようなものであり、また巻頭オールカラーは恒例化しました。グラフを見ると、前年までは巻頭オールカラーを除いては7位付近に安定していたものが、受賞後は一気に4位付近になっています。ま、斜めに見れば『賞をとっただけで露骨に扱いを変える』小学館の方針と言うものがよく出ています。

また、賛否両論を含みアニメがスタートし、まさに黄金期といえましょう。

【ぴよぴよ創刊】【少年サンデー１０００】
【笑え！　ヘルプマン】【アニメスタート】

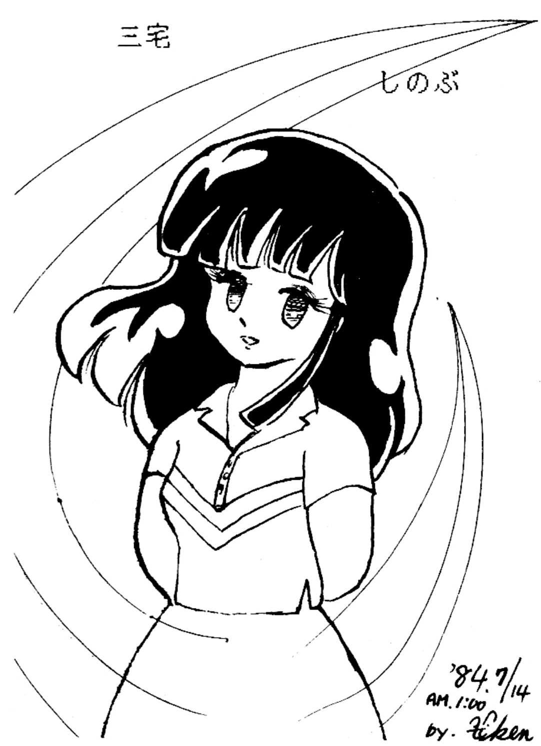


『がんばれ元気』が燃え尽き、『まことちゃん』がジリ貧になって終わり、『おやこ刑事』が何となく終わってしまいました。

『サバイバル』も昨年末に既に終わっているので、『うる星』が首位打者になりました（他に長い作品は３つありますが、その一つ『ダッシュ勝平』は下の方をうろついており、『ダメおやじ』『サイボーグ００９』は論外）。

また『さよなら三角』や『タッチ』といったしょーもねー軟弱マンガ（私は嫌いだ）が横行し、現在のサンデーはこの時期に形成されたと見るべきでしょう。

明るい話題は『どっきりドクター』の連載と浅利義遠のデビューです（木星ピケットライン）。また『六三四の剣』が始まりました。



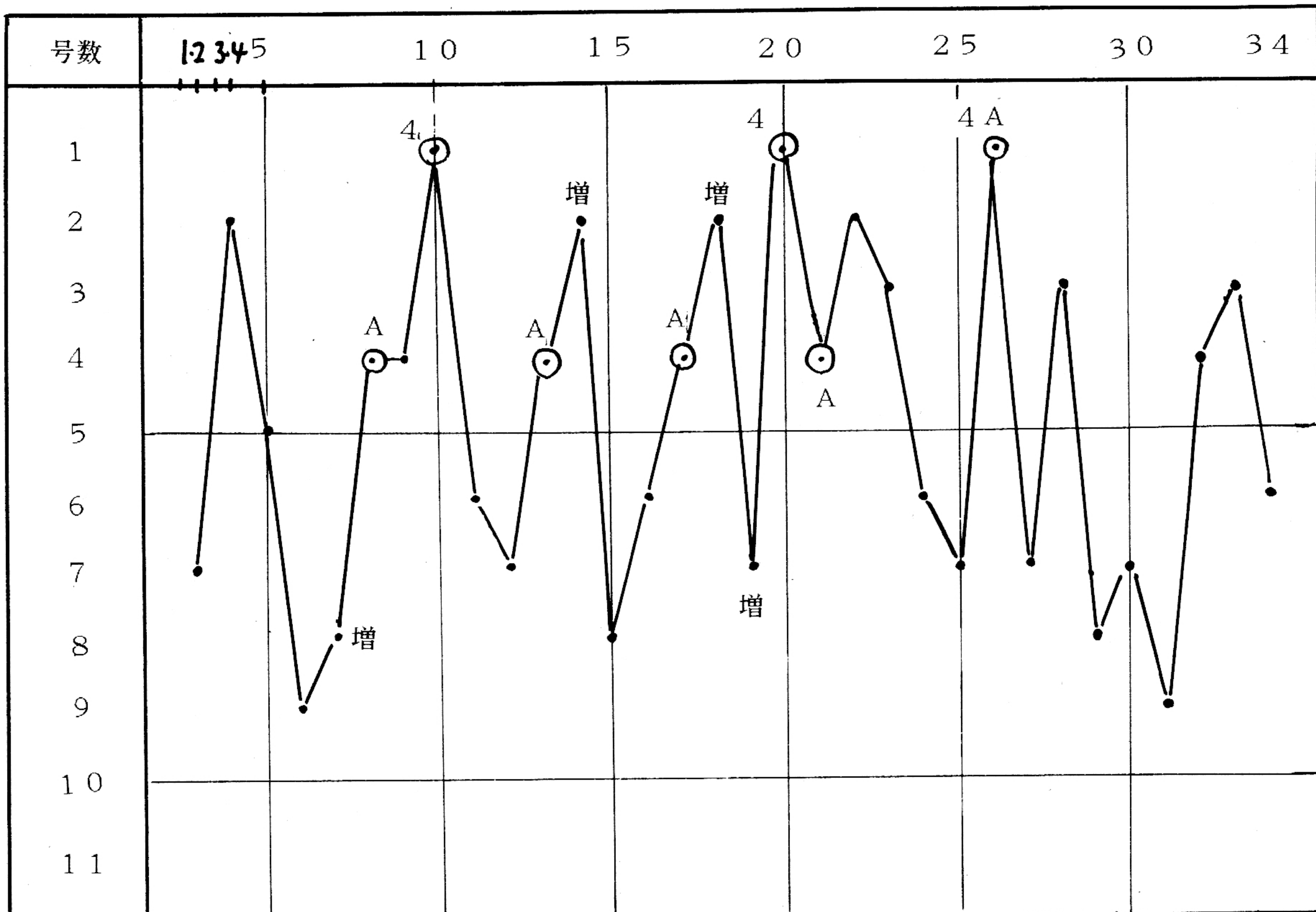
No.79 SHIBUKEN

アニメスタートの頃をオールカラーで固め、あまつさえプレゼントクイズをつけるというあたり、さすがは商学館、ぬかりはありません。

しかしながら作品的には『つづく』のパターンを使用し始めるようになり、ゲスト・キャラクターで２話使う、というパターンが多く、『うーん、ネタに苦しいんだなー　』と思わせる側面もあり、あまり明るい話ばかりではありません。

テンが登場し、ラムが『お姉さん』になってしまいました。

1982　【戦国生徒会】　【サンデーグラフィック①】【めぞん一刻①】　【闇をかけるまなざし】

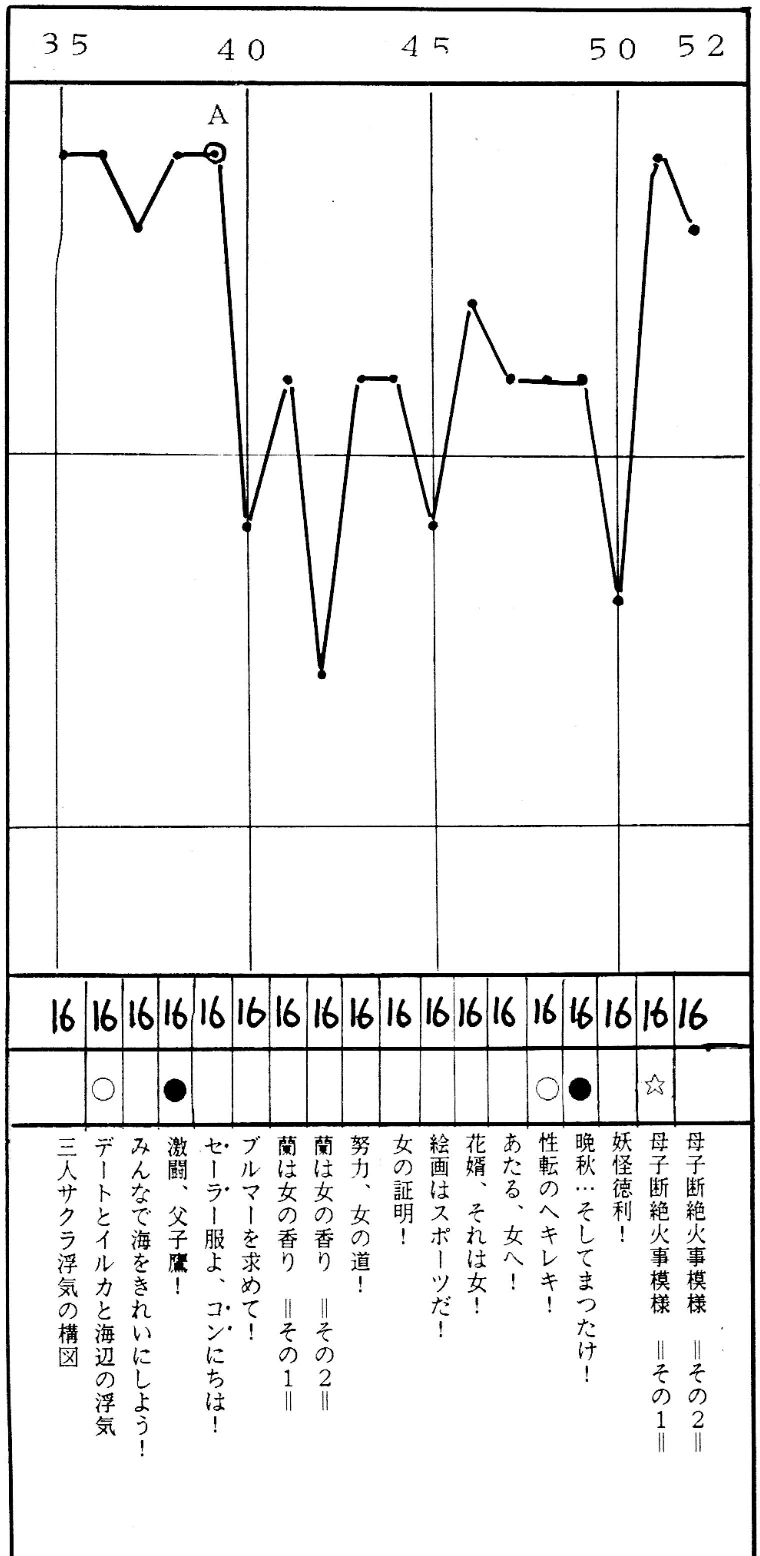


総漫画数	表紙	サブタイトル
16	●	酔っぱらいブギ
18		忘年会じゃあ！
18		面倒邸新年怪
17		旅の雪ダルマ情話
17		喫茶店への出入りを禁ず！
16		所持品検査だ！
16	●	部外者ちん入
16		惑わじのバレンタイン
16		命かけます、授業中！
16		面堂兄妹！‖その1‖
16	○	面堂兄妹！‖その2‖
16		セーラー服よ、こんにちは！
16		スーパー武蔵、天までダッシュ！
16		武蔵、ただいま修業中！
16		ダメッ子武蔵、男やないか！
16	○	柳精翁の恐怖
16	●	テン敵
16		テンからの贈り物
16		化石の僻地
16		虫歯WARS！
16		湯舟に浮かぶ銭の花を流せ！
16		夫婦ゲンカ始末記
16	●	タヌキが〝ツルの恩返し〟
16		クラマ再び！
16		口づけと共にちぎらん！
16		おきて、おさらば！
16		面堂家仮面ぶとう会
16		ビン詰めの誘惑
15		食べれば恐怖！
16		校内賭博球技大会
17	●	辛いキャンプに明日はない
16		桃源境奇談！

あまり気がのらないんですよね。駄作メーカー了子は登場するわ、竜之助は登場するわで…。ま、了子はこの頃はまだましですが、何といっても竜之助ですね。竜之助登場当時は皆、一様にわけのわからぬ不安感を口にしたものです。私もその一人でしたが、当時は単に『主役のカゲが薄くなってつまらん』と思った程度でした。が、今思うに実はその奥にあるものを本能的に感じていたようです。

これはあくまで私の分析結果ですが、そのものとはつまり『アクション・ギャグ』の事です。うる星を順を追って読むと気がつく事ですが、つまりそれまではあたるたちは全員ただの人間であった（しのぶの机投げは発作という極限状態によってのみ可能であった）

【うる星カレンダー】【少年サンデー1000】



ものが、竜之助父子の活動をきっかけに、以後やたらと跳びはね、怪力を出し、派手なアクションを繰り返すようになってしまったという事です。そしていつしかこのアクションがうる星の本質であるような解釈をされるようにまでなってしまいました（例えば『うる星3』におけるラムのいなくなった後の友引高校の解釈。あれはけもさんの作品ではない、という事は今無視する。ファンの『解釈』について論じているのですから）。(↗)

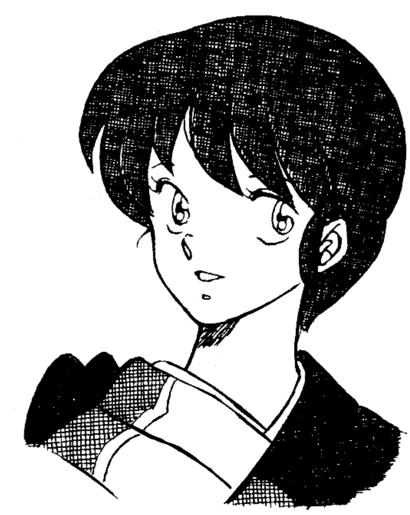
(↘)

これを『うる星の変質』という表現を使うのは簡単です。しかし私としてはうる星の魅力はこんな所には感じません。キャラクターが跳びはね、物を壊し、『ばき』と『ちゅどーん』の繰り返しで終わってしまうような話など、うる星とは思いたくないのです（従って、私は現在のうる星はほとんど乗れないし、評価する気もない）。

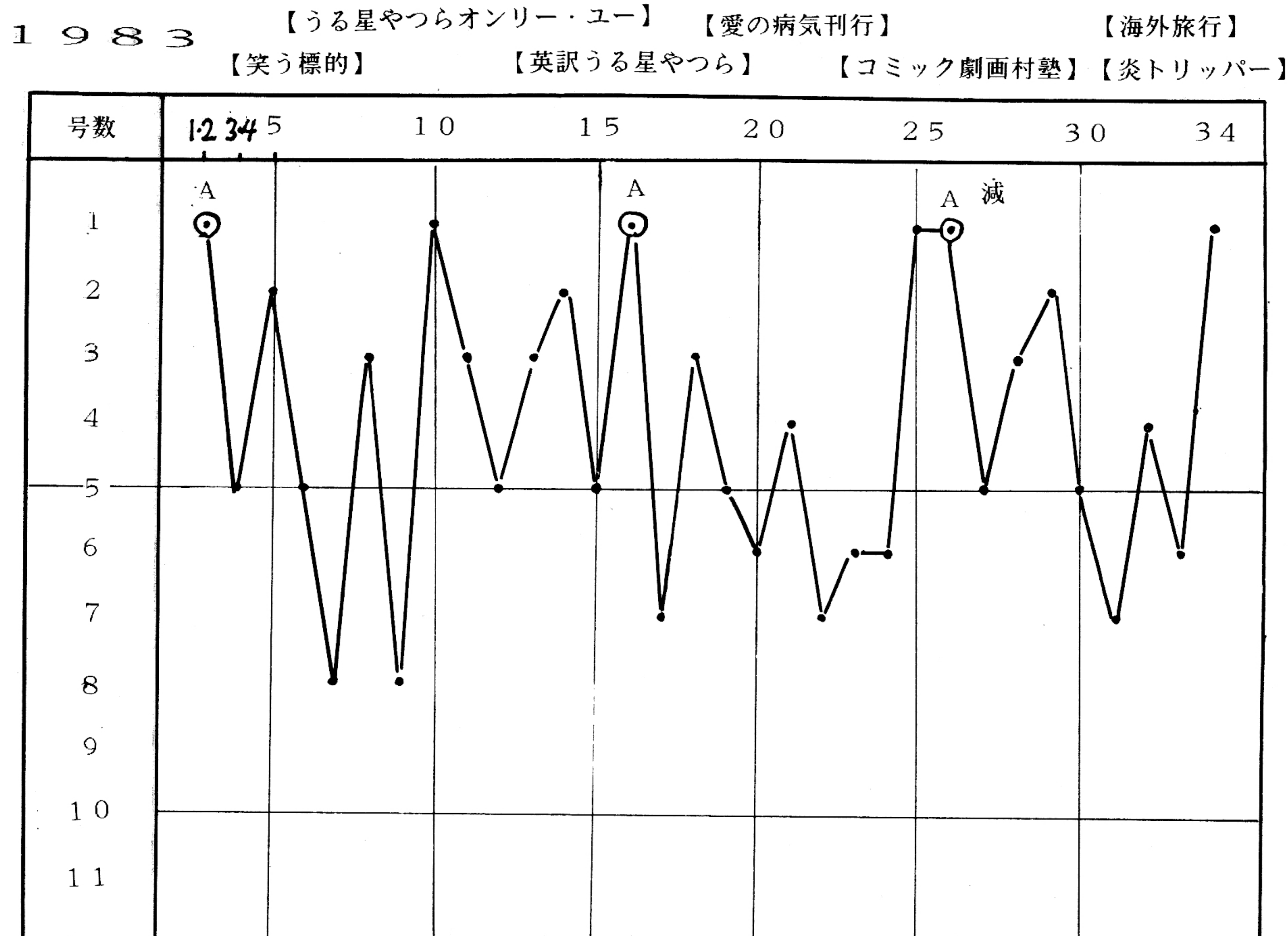
また、この事と関係があるのか不明ですが、増刊でひたすら重い作品を描くようになり、賛否両論を起こすようになります。

内容以外のことにも触れますと、皮肉にも後半になってから上位に安定します。これは『サンデーグラフィック』『めぞん一刻①』の異常な売れ行きに小学館サイドが気づいたからに他なりません。このため小学館は3ヶ月後に急いで『グラフィック②』を作りましたが、これが涙が出る程情けない物であったことは、皆さん御存知の通りです。以後隔月ペースで③、④、…と発行するようになりました。私たちはそのあこぎなやり口に不満はあったものの、日記の為に大枚を投じておりました。また、表紙のみけもさんというカレンダーが出たのも御存知の通りです。

この頃けもさんはハイマッキーの味をしめるようになるが、おおむね不評のようです。



No．207　石橋かずみ



号数	総漫画数	表紙	サブタイトル
1·2	16	●	愛ラブダーリンの危機！
3·4	17		クリスマスツリーわいわいパーティー！
5	18		家宝は寝て待て！
6	16	●	竜之助一家団らん！
7	16	●	怒りのラムちゃん！
8	16		さらば温泉マーク！
9	16	☆	うちらの節分ケンカ祭りだっちゃ！
10	16		父と娘の愛のバレンタイン！
11	16		必殺ケンカ少年、すっぽんのテン
12	16	○	あんこ悲しや、恋の味？
13	16		き・え・な・いルージュマジック！
14	16		埋没教室！
15	16		艶姿桜御払！
16	16	●	花見デスマッチ！
17	16		想い出ボロボロ？
18	16		想い出のアルバム
19	16		みじめっ子、終太郎！
20	16		逆上、終太郎！
21	17	●	惑星教師ＣＡＯ—２
22	17		無我の妙薬！
23	17		トンちゃんの駆け落ち！
24	17		夜を二人で！
25	17		あこがれを胸に！ ‖その１‖
26	17		あこがれを胸に！ ‖その２‖
27	16	●	水中ラブ三角形！
28	16		ミス友引コンテスト：予備選
29	16		本選
30	16		水着審査
31	17		戦う女たち
32	17	●	結果発表
33	17	●	テンちゃん宙に浮く？
34	17		岩石の母：前篇

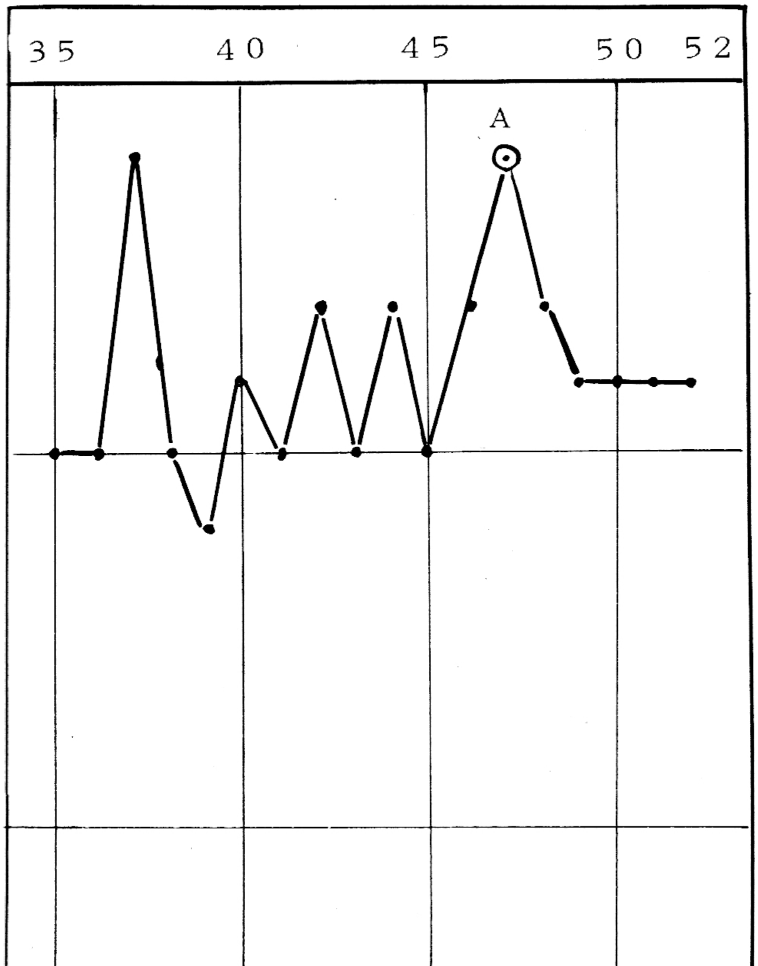
この年に入るとグラフィックも『けも・こびるの日記』にアシストが侵略を開始し、これはあのひんしゅくものの『まき・くに日記』へと進化します。

またこの年より『英訳うる星やつら』『小説うる星やつら』といった暴利本の刊行を開始します。悪名高きＦＭレコパルのカセットレーベルが始まったのもこの頃ですし、宣伝用ののれんを売りに出したのもこの年から、けもさんの付録ポスターで何の脈絡もない高い（写真の）アルバムを売りつけたのもこの年です。

このような暴挙に対して、私たちはこれを毅然として拒否する、というわけにもいかず、ただ黙々と買い続けていたので、ますます小学館サイドを増長させることになります。

【うる星やつらソングブック】【小説うる星やつら】

【この頃担当有藤氏に】　　　　　　【少年サンデー１０００】



17	16	16	16	17	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16	16	16	16
		○									★						
岩石の母：後編	缶につめた小さな青春	ああ夜店	わたしはサ・カ・ナ	哀愁の幼年期・サクラ	失われたモノを求めて：前編	激闘３ｖｓ３	完結編	トＬＯＶＥル・レター：前編	トＬＯＶＥル・レター：後編	愛の行方	華麗なる落葉の舞い	愛は国境を越えて	恋人泥棒：前編	恋人泥棒：後編	愛がふれあうとき	青春ラグビー地獄	空を飛ぶ童女

(↘)またアニメの方もこの年は押井守が頃合いを見て自己主張を始めたために、悪夢のごとき作品（あえて実名は挙げないが）が随分出たものです。まさに、原作ファンにとっては悪夢の一年でした。

（コメント）前年より本年前半にかけ、サブタイトルに“！！”（ダブル・エクスクラメイション・マーク）を多用している事が指摘できます。私にはこれがかえって内容の貧弱さを象徴しているように見えて仕方がありません。

ここらへんはもはや記憶に新しいのではないでしょうか。連載陣も現在のものとほぼ変わりありません。

安永航一郎・三鷹公一・中津賢也・島本和彦・上条淳士・とり・みきといった面々が続々と本誌に描き始めます。

本誌から消えた名前としては、さいとう邦子（！）・野部利雄・鈴宮和由などです。

またこの年、あの『梶原事件』がマスコミをにぎわせ、以後梶原一騎の名はサンデーより抹殺されます。

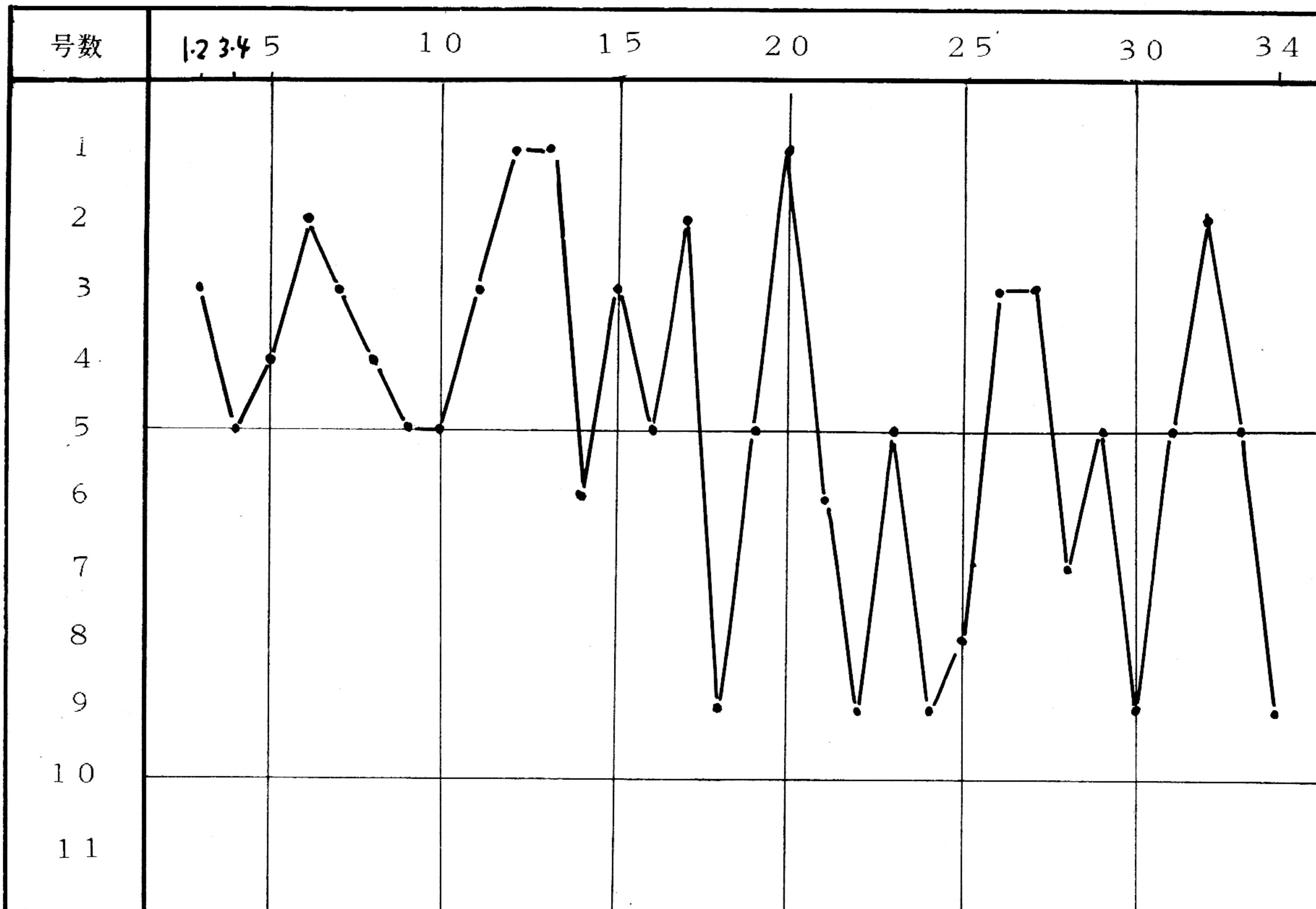
またけもさんはこの年より長者番付に登場しました。『おめでとう』という気も確かにありましたが、それと同時に、ただ金を貢いでいるだけのような現状にとても『馬鹿らしさ』を感じ始めたのもまた否定できない事実です。このような時にあの『ミス友引』が出たのですから、熱意に水をかけられるのもむしろ当然というものでしょう。(↗)



No．１３０　岡浜哲也

１９８４

【忘れて眠れ】　【われら顔面仲間】　【めぞん一刻考】
【ビューティフル・ドリーマー】【るーみっく・わーるど刊行開始】【人魚は笑わない】



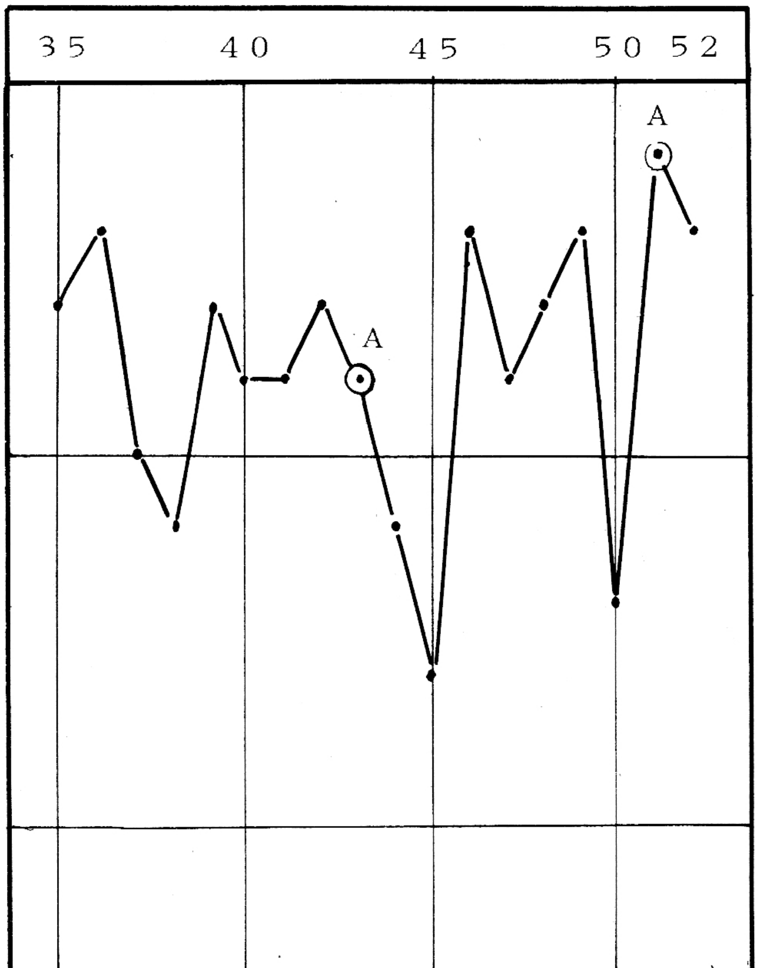
号数	総漫画数	表紙	サブタイトル
1·2	16	○	魔境！　戦りつの密林
3·4	17	●	密室！　ケーキ屋敷の恐怖
5	17		シェイプアップ・羽根つき
6	16		芸道一筋いばら道
7	16		愛と闘魂のグローブ
8	16	☆	蒼白き炎の怒り：前編
9	16	☆	：中編
10	16	★	：後編
11	16		変身スプレー
12	16		ラムちゃん、ウシになる
13	16	○	水之小路家の娘＝その１＝
14	16		＝その２＝
15	16		＝その３＝
16	16		＝その４＝
17	16		月夜のキツネたち
18	16		竜之助式男女交際
19	16		遊び人金さん始末記
20	16	●	逆転！　三人組
21	16		悩み多き青春
22	16		豪華けんらん正義の味方
23	16		あな恐ろしや、ワラ人形
24	16		秘密の花園
25	16		勇気ある決闘：前編
26	16		勇気ある決闘：後編
27	15		テンちゃんの息子
28	15		飛鳥ふたたび　＝その１＝
29	16		飛鳥ふたたび　＝その２＝
30	16	●	飛鳥ふたたび　＝その３＝
31	16		必殺・ヤミナベ！
32	16		アイスクーラー・リラックス
33	16		ザ・障害物水泳大会：前編
34	16		ザ・障害物水泳大会：後編

この年はそると有藤の大チョンボ＊で始まり、けもさんの苦悩がうかがえます（関係ないと思うかもしれませんが、担当に自分の作品を理解されていないというのは、漫画家にとって最大の不幸だと思いませんか？）。

アニメの方は押井が好きなように荒らしてから去りました。過ぎたことをとやかく言う気はありませんが、結局うる星は押井に利用されただけであり、まして今でもその押井の亜流でしかないアニメなど、もう見る気はないんですよね。

＊編集部注：『忘れて眠れ』のページの順番入れ間違いの事。

【語り尽くせ熱愛時代】



16		合戦！　面堂家花火大会
16		浜茶屋繁盛記
16		非道なる商売人
15		最後のデート
15		大脱走・大騒動
15	●	スケ番グループ色気大作戦
15		コタツにかけた愛
15		妻は面影の中に
15	●	夢で遭えたら　現実篇
15		夢で遭えたら　大決戦
15		執念の形
15		嵐を呼ぶデート＝その１＝
15		＝その２＝
15		＝その３＝
15		＝その４＝
15		＝その５＝
15	★	オデンに秘めた恋
14		更け行く秋のイモの悲しさ

内容的には約１／４を水之小路飛鳥が占め、また明らかな駄作も散見し、ネタ切れ極まれり、という感じです。さらに昨年来の傾向として『カラーがない』ことが挙げられ、その上サンデーが４色を使わない方針になったため、まことに味のないサンデーと化しています。加えてビューティフル・ドリーマーの入りが今一だったこともあり、中盤の落ち込みようはひどいものです（昨年のグラフと比較して下さい）。

ここに至って小学館はようやく切り札を出します。すなわち『るーみっく・わーるど』の刊行です。あるいはこの売り上げ次第では『ザ・デイ・アフター』は現実のものと化したかもしれません。しかしながら（遅きに逸した感はあるものの）当然の売れ行きを示し、これが後半の順位上昇につながっています。

内容の方も前述のように薄い作品が多いとはいえ、何本か傑作も存在し、後半では上昇ラインを描いており、２色も復活し大島氏も復帰した事により、かすかに光明が見られます。

しかしながらこの光明を打ち消すかのごとき一つの黒い影、平井和正が我々の前に姿をあらわします。

これに関してはもういちいちコメントを入れる気はございません。とにかく、呆れるの一言です。そしてまた、他を顧みない盲目的なミーハーというものがいかに恥ずかしく、失笑を得るものであるかという事を我々に教えてくれた事件であります。

そしてまたこの事件は、小学館・キティに加えて第３の敵、徳間書店の出現をも意味していたのです。

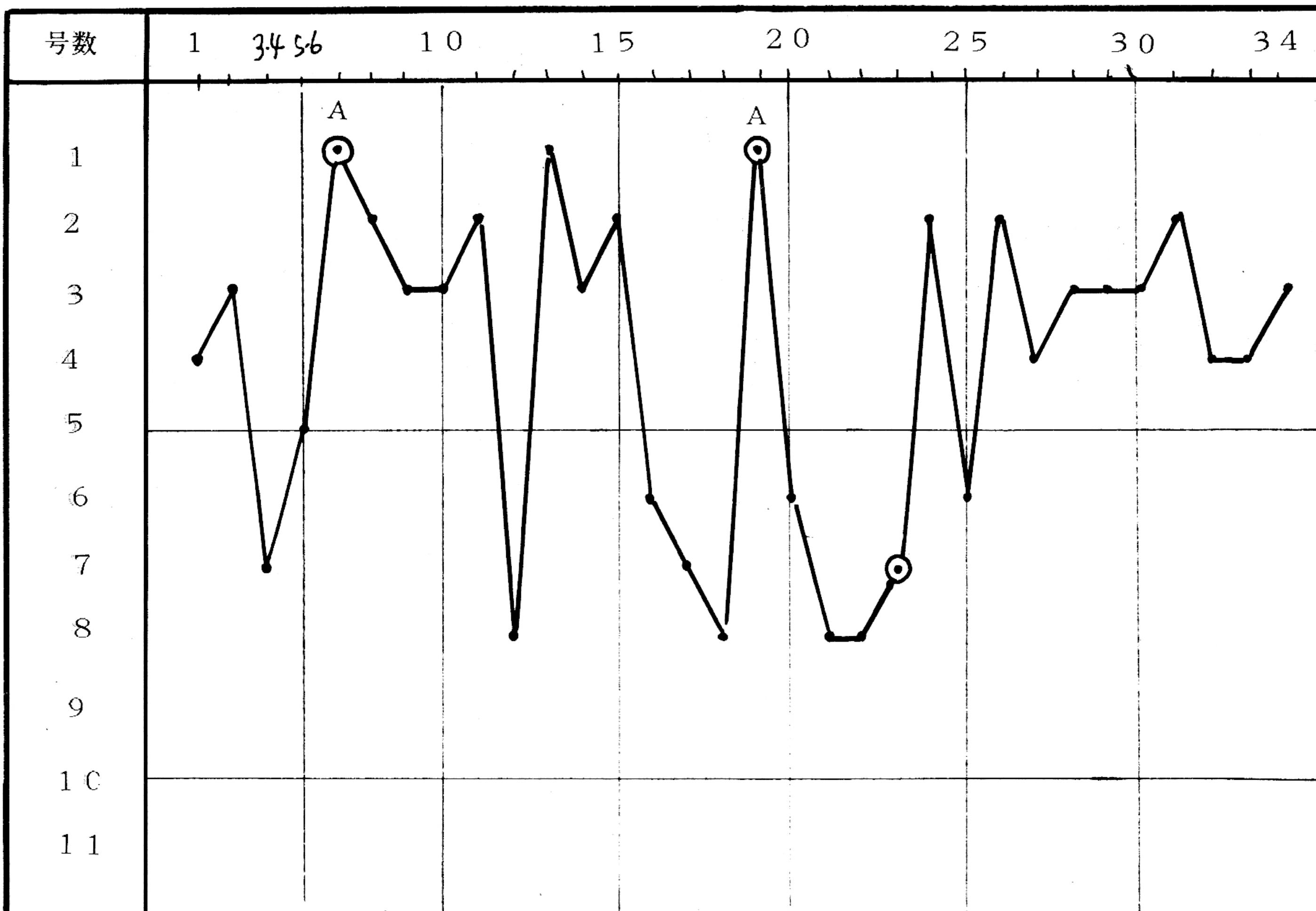


Ｎｏ．８５　諸星羅夢

1985

【アンケート・システム導入】

【リメンバー・マイ・ラブ】　【ウルフランド】　【闘魚の里】

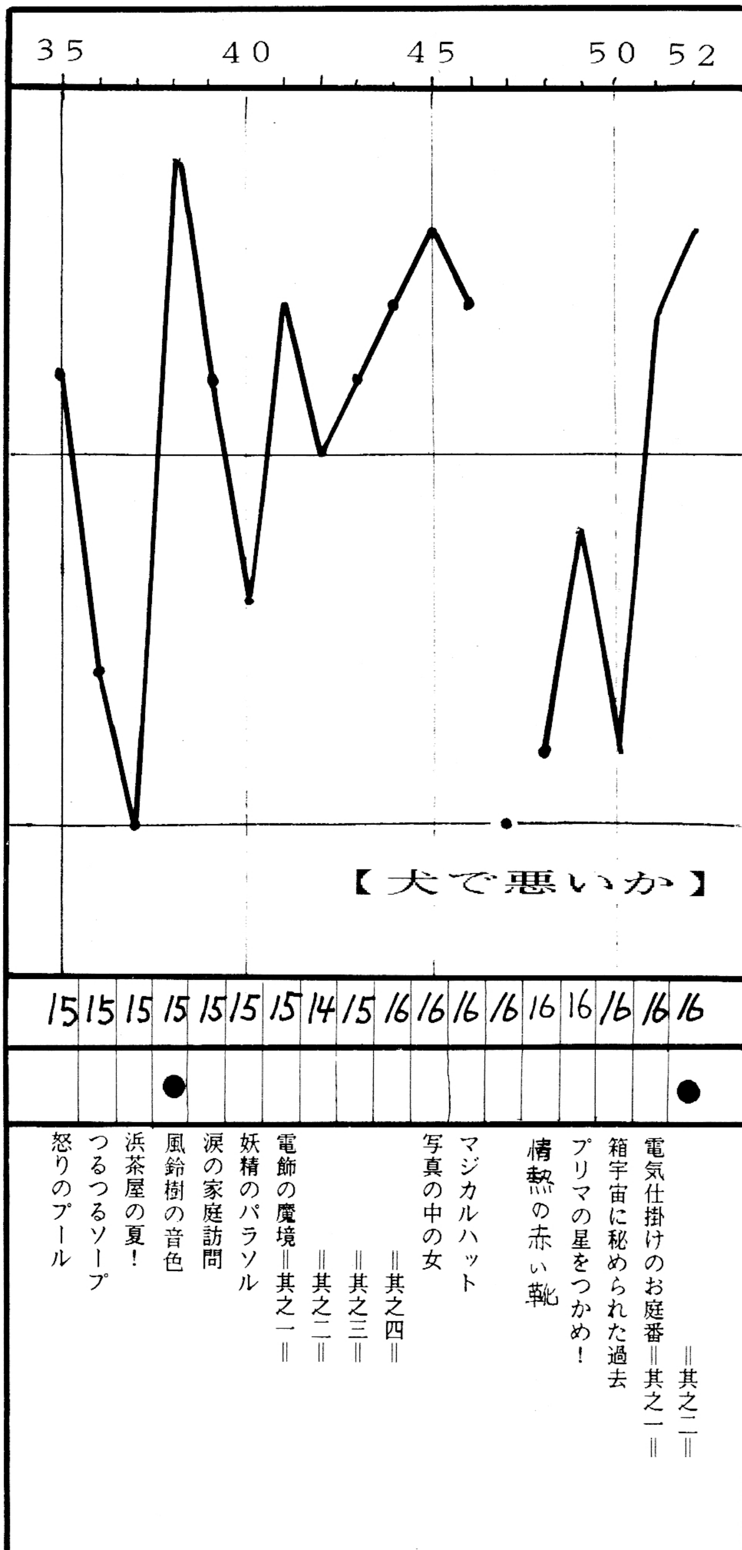


総漫画数	表紙	サブタイトル
15		風邪ひかば
14		モチ争奪校長胸像杯
15	●	歳末は鐘鳴り
16		かむかむエブリボディ
15	★	ハートブレイクCrossin':前編
15		:後編
15		節分危機一豆
15		決闘!女VS女:前編
15		中編
15		後編
15		大ビン小ビン
14		風邪見舞い
15		あやかしの面堂
15		妄想フーセンガム
15		宇宙からの侵略者
15		愛の使者どすえ
15	●	おはらい三すくみ
15		キツネの嫁取り
16		強食惑星
16		かってな幸福、青い鳥
16		母の心、子の心
15		とんでけ!肩こり
15		スケ番三人娘、動物作戦
15		活魚つかみどり
14		十年目の真実
15		はんぎゃ摘み
15		水着ラプソディ
15		反省座禅会
15		星に願いを
14		口づけ 速達小包
14		兄妹★愛の闘い=その①=
14		=その②=

作品的には昨年の低迷期からは脱しているような気がします。もちろん、駄作は相変わらず存在しますが、傑作の比率は上がっているのではないでしょうか。数値的な裏付けとして、連作（２週以上の作品）の数は昨年の２１に比して今年は１３と、明らかに減っています（私は『うる星』の連作に関しては、当初から基本的にネタ切れゆえの引き伸ばし、という見方しかしていないし、今でもその考えに変わりはありません。極論すれば連作＝駄作と言ってしまいたい位です。特にどれとは言いませんが…）。

しかし残念ながらサンデーの扱いは大きく後退しています。４位付近の安定は既に過去の話ですし、恒例の『海ばなし』で巻頭に出る、という事もなくなってじまいました。

【パラオ旅行】　　　　　　　　　　　【ビデオ・炎トリッパー】



いつの間にかＦＭレコパルのカセットレーベルもなくなりましたし、何と言ってもサンデーの表紙登用回数が激減しています（もっとも、これは今年からサンデーが表紙にアイドルタレントの写真を使い始めた事にも一因があるのですが）。

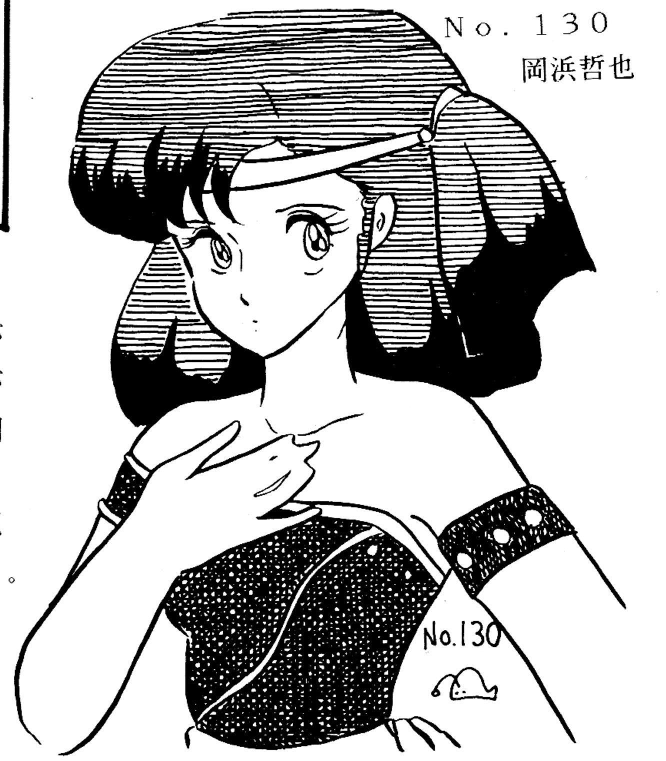
さらに、今年の一大事件として、『うる星』の連載記録がストップした事が挙げられます（『犬で悪いか』）。

はっきり言ってこれは一大事であり、その意味ではサンデー本誌はこの事をもう少し考えてみるべきではなかったのでしょうか。客観的に言っても、『犬で悪いか』を巻頭に載せる位の事はしても良かったのではないでしょうか。しかるに『犬で悪いか』の異常な位置（１０位）。さらには４８号の予告に『うる星』はなかった事など（単なるミスだとは思うが）、編集部の態度はあまりに冷たいのではないだろうか。

これらの事実から導かれる結論はただ一つ。すでに編集部は『うる星』を見切っている、という事です。アニメの不振はもう誰にも否定できない事実であるし、サンデーのアンケートも良くない（一時的ファンが離れ、旧来のファンはこんなものを出さない）、本も売れない（在庫の山のグラフィック）キャラグッズも売れない（ＦＭレコパルがレーベルを止めたのは、売れなくなったから以外には考えられない）と来れば、もう商学館がけもさんをバックアップする理由はない訳です。

うーん、話が暗くなってしまったなあ…。

Ｎｏ．１３０
岡浜哲也



今後の展望

これを書いている１９８５年１２月現在、『うる星』はまだ終わっていないので、この報告はひとまず未完という事になります。’８６年（以降）の分は、まとまり次第『ぴよぴよ』か『なぜ描か（会報）』で発表致しましょう。

それでは、ここまでの展開に続いて今後はどうなるであろうかの推定を述べて幕と致します。

どうもサンデーはけもさんを見切ったらしい。この推定が正しければ、『ザ・デイ・アフター』は時間の問題です。そこで、この推定を裏付ける重要な証例をもう一つ挙げましょう。

それは、’８５．２７号より導入された『アンケート・システム』の事です。言うまでもなく少年ジャンプに追いつこうとするサンデーの戦略の一環で、こういうものを導入したからには、間違いなくこれを編集の再重要資料として用いている筈のものです。すなわち、これ以後のサンデーは露骨に読者アンケートの順位で扱いを決めている事は想像に難くありません。

さて、そのような色眼鏡をかけたうえで、’８５．２７号以降の―――編集のタイム・ラグを考えて３０号以降の―――『うる星』の動きを見てみましょう…

…順位が下がっている。１０位を記録している（受賞後は初めて）。カラーページがない。連載が切れている…これはひょっとして、かなりヤバイ状態なのではないでしょうか。少なくとも、今が『うる星』にとって重要な時期である事は、まず間違いないように思えます。疑えば『犬で悪いか』は次回作のための布石であったと疑えぬ事もない。

すると、現在小学館が総力を挙げて宣伝している『るーみっく・ビデオ』は、けもさんの将来にとって重要な意味を持っているのではないのでしょうか。小学館にとっては原作ファンとアニメファンの違いなどどうでも良いし、そもそも区別ができない。従って仮にビデオが売れなければ、それは即『留ー美ック・ワールド』の衰退と判断されるでしょう。もちろんこの論理は、売れた場合にも適用できるのですが…。

ワレワレトシテハ、アニメノ『ウルセイ』ガデキルダケナガクツヅイテホシイト、キョウリョクシ、イノルシカナイノデアロウカ。

何を言う。もう『うる星』は止めて、次の作品を描いた方が良いんだよっ。実際『うる星』が終わればけもさんは終わりだ』、と言う考えはおかしい。『めぞん』を考えてもわかる事であるし、そもそもこれだけ稼がせてくれたけもさんを小学館がそう簡単に手放すわけがないではないか。

イヤイヤ。『イシモリショウタロウ』ノレイモアルデハナイカ。ウレナクナレバミステルノガ、ショウガクカンダ。

―――――皆さんは、どうお考えですか？

余談ですが、サンデーの不人気作品のグラフというのは、とても哀愁があります（古くは『グリングラス』、新しい所では『舞』など）。筆者はけもさんと平行して、サンデーのすべての作品（’７８－）のグラフをとっております。希望者には実費でお分けします。面白いよ。

宛先は編集部気付グラフ係まで。往復葉書に『ぴよで見た』と書いてお送り下さい。



"Back To The Dream" (W&M: NAZCA)

'85 BRIDGE☆STONE Nov. 15 (FRI.)


JAPAN
ぐゎあんばぁれ
にっぽぉん!
'84 3す
いばまやじ
No. 52 わるだ久美

段階別

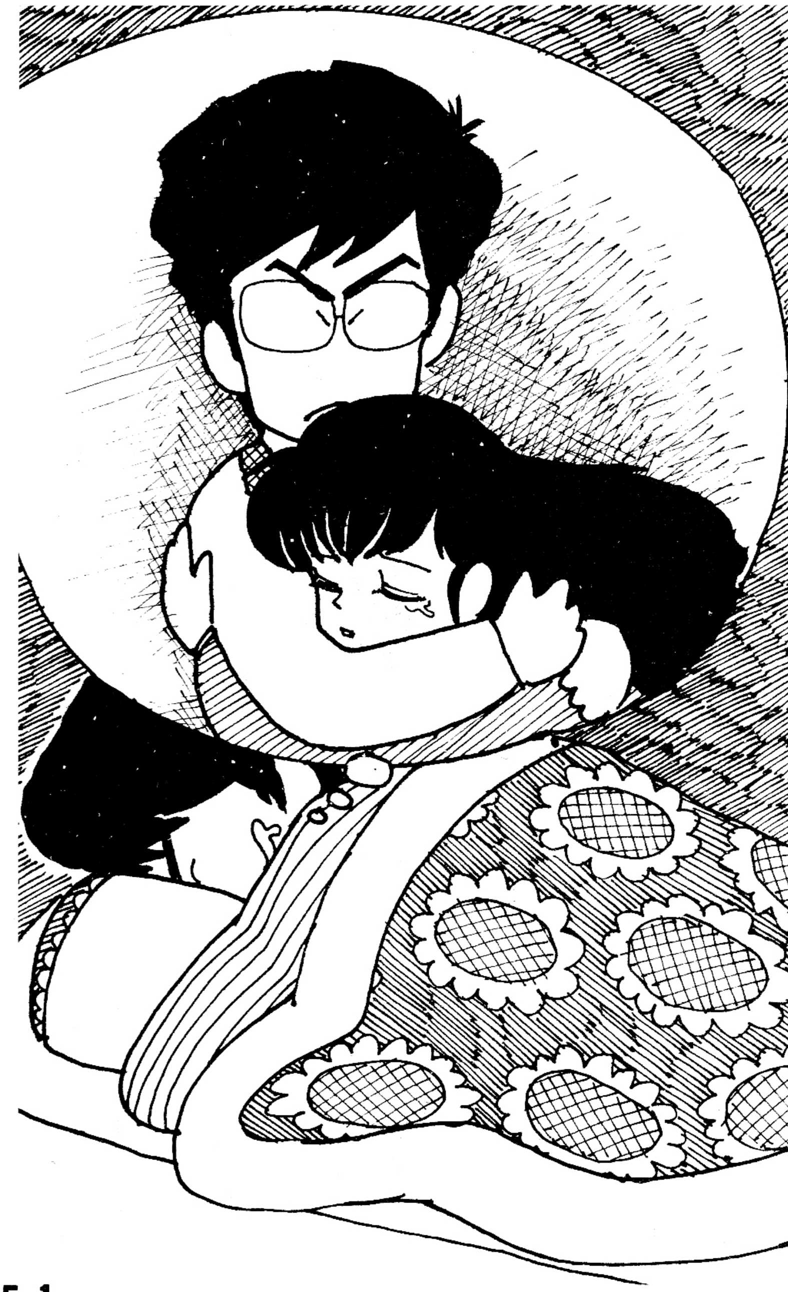
留美ック キャラクターに会う法

by No.1 ヌム一作
カット No.3 二重橋前長太郎

留美子世界のキャラクターに会ってみたい、話してみたいという願いは、留美子ファンの大多数が抱いている永遠の願望ではないでしょうか。しかし、果たせるかな、相手は二次元の人で、こちらは三次元。思うに任せず毎日を悶々と過している人も数多いことと思います。

中には、自らを二次元化し、漫画作品の中に自らの分身を作ることで、この願望を満たそうとする人もいるようでうが、絵の下手な私としては、それもできない。第一、ここはやはり、相手を三次元へ連れて来たいと思うわけであります。

それで、相手をこちらへ連れて来ちゃうための方策をSFマインドを働かせて考えてみたので、この記事を読んでくれる君にだけ、こっそり教えちゃいます。



1．夢で逢いましょう

ものぐさなあなた、めんどくさがりの君にはこれが一番。最も手軽にできるのがこの方法。特別な設備も装置もなーんにもいらなくて、今すぐにでもできます。

用意するもの
　寝れるスペース
　眠気
　空想力
　髙橋留美子作品の本・イラスト

方法
　巷でよく言われている方法として、以下の二法があります。

イ）入り浸り法
　眠る前にひたすら留美子作品世界にのめり込み、漫画、イラストなどを、とにかく眠くなるまで、ひたすらひたすら見続け、しっかり網膜に焼き付けて、布団に入る。

ロ）禁断法

一人倍の留美子ファンを自負する人ほど効果的。

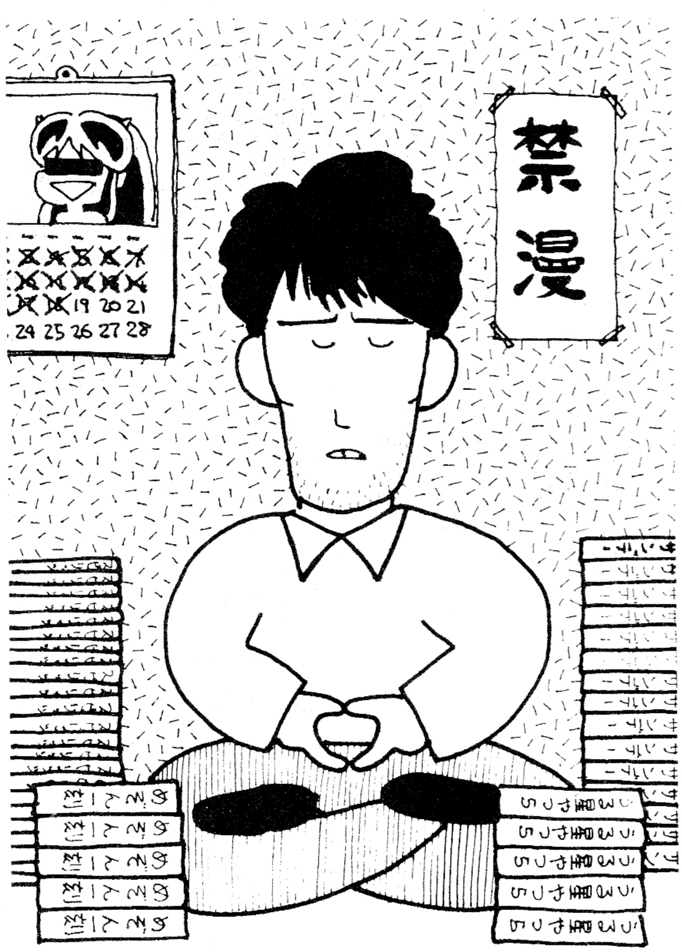
作品断ちをします。どんなに苦しくとも、イラスト一枚ちらとも見ないで数日過します。もうとても耐えられなくなったと思ったらチャンス！その夜はきっと夢で逢えます。

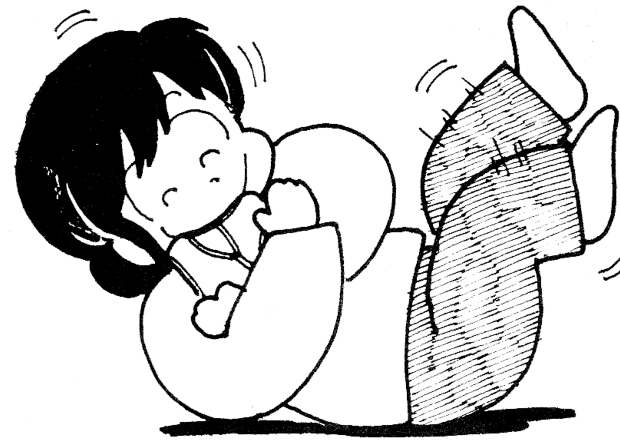
使用上の注意

入り浸り法を用いますと、マニア度がますますひどくなり、とてもまともな社会生活が営めなくなり、誰からも相手にされなくなる恐れがあります。

また、禁断法を多用しますと、マニア病が治ってしまい、健全な社会人に復帰してしまい、本書のような楽しい同人誌に浸るといった悪い趣味も無くなってしまうことがあります。

ちなみに、筆者は、この方法では逢えない（夢に出てくれない）ため、2．以降を考えるハメになりました。





2．思い込んだら命がけ…

五代君に負けないほどの、たくましい妄想力の持ち主である君に、是非勧めたいのがこの方法です。

用意するもの

並はずれた妄想力

人形、ポスターなど妄想をかきたてるもの（五代君なら電柱？）

方法

何か特定の物品をひたすらそのキャラクター自身であると思い込む。

さあ、後は思い込み一筋。もう君には、その××が○○にしか思えない！やったね。そこまで思い込めればもう大丈夫。しっかり可愛がってあげましょう。

使用上の注意

ここまで来ればマニアの鑑。誰もあなたをまともだとは思わなくなるでしょう。一般人の目の前でもこの妄想が臆面もなく抱けるようになれば、狂人扱いまであと僅かです。

なになに、いんちきじゃないかだって。早まってはいけません。今までのはすぐにでも実現できるお手軽法。メインはこれからでっせ。

3．我は、ロボット

もうおわかりですね。実在しなきゃいやや という人には、ロボットをお勧めします。

近年のメカトロニクスの目覚ましい発展を見れば、本物そっくりのロボットも金さえあれば、簡単に作れるのです。

用意するもの

サイバネティックスの知識と技能

十分な資金

多少の思い込み

方法

本物そっくりのロボット人形を作れば、後はあなたの思い込み一つ。

使用上の注意

しょせん人形じゃないかと悟ってはいけません。世の人がするように、ひたすら外見だけに捉われましょう。そうです。みんな普段よくやることなんですから。簡単でしょう？

4．未来の二つの顔

いいなりの人形じゃ嫌だというあなた。そんなあなたには意思・意識を持ったロボットはいかが…。

用意するもの

前述の本物そっくりのロボット

自意識を持つようなコンピュータ

コンピュータの持つ性格をあなたの望むキャラクターそのものにするための教育ノウハウ

十分な資金

十二分な開発期間

コンピュータ工学の発展

僅かな思い込み

方法

3．で述べたロボットに、あなたの望むキャラクターの性格通りにプログラムしたコンピュータを載せれば、ちょっとの思い込みで、そのキャラクターの実在を感じられます。

使用上の注意

残念ながら現在のコンピュータ技術では、自意識を持つようなコンピュータは作れません。しかし、ただ諦めてしまうのもしゃくです。○木君みたいに、こうしたアンドロイドの実現を目指して、大学院や研究所に身を投じるのも一興です。

なお実行に際しては、くれぐれも HAL9000 やスパルタクスのようなコンピュータを用いて悲劇を招かぬよう御留意下さい。

5．地底超特急西へ

血の通った生き物がいいんだい、とアンドロイドでは不満の方。これならいかが。

用意するもの

飛躍的なバイオテクノロジーの進歩

そのキャラクターの生物学的特徴を発現させるための、遺伝子工学的情報

方法

目的のキャラクターを人工合成する。

使用上の注意

そのキャラクターが実在しない生物だったりすると、実現は非常に困難でしょう。その分野での専門家になるよう努力することが必要です。他人がやってくれるとは絶対に思えませんから。

また、できたところが赤ん坊だったり、M1号みたいだったりすると、後々大変です。

そんなの気味悪いという人には…。

6．ガニメデの優しい巨人

用意するもの

自意識を作り出せるコンピュータ

人間の五感をコンピュータと完全にリンクすることが可能な I/0端末

例：パーセプトロン，

ブレーンストームのマシン

方法

コンピュータ内部に望みのキャラクターの人格を形成しておき、上記の端末を使って、自分の五感ごとまるまるその中に入ってしまいます。

使用上の注意

ガニメアンに出会うのは、望みのキャラクターに会うよりも、もっと難しいかもしれません。また、自ら開発すると、ブレーンストームのように軍部に狙われたりするかも知れません。それに、多用すると抜け出せなくなったりして。

7．我が愛しの…

何だ、何だ、しょせん作りものやんか、という現実主義の人には…。

用意するもの（人）

彼女あるいは彼

その相手への思い込み

方法

そのキャラクターそっくりの彼女、あるいは彼を見付けます。

または、すでにいる彼女あるいは彼に、そのキャラクターになりきってもらいます。

使用上の注意

そー都合よくいるもんが!!と思っているけど、トラ〇マ氏のように、一時はこの方法に成功したとの噂の人もいるし…。狼〇国氏の場合もそーかな？

8．星の彼方に…

だめだめ、しょせん本物ではないし（第一そんな相手なんかおらんわい！）、という君には…。

用意するもの

金

暇

行動力

方法

金と暇にあかせて本物を探す。

地球には45億から人がいるんだぜ。きっとどこかに私の〇〇ちゃんが…。（こら、女子高でバイトしながら“千草”って娘を探しているのは誰だ！）

なになに、オレの好きなのは地球人じゃない？それならば、SETI（地球外文明探査）計画に参加されては？野辺山の天文台はそんなあなたをお待ちしていますわ。（誰だ、筆者もその一人なんて言っているのは。そんなわけあるはず…ないとはいいきれないけど、証拠がないんだからあやまるべきだっちゃ!!

（うる星やつら11巻P.31参照）

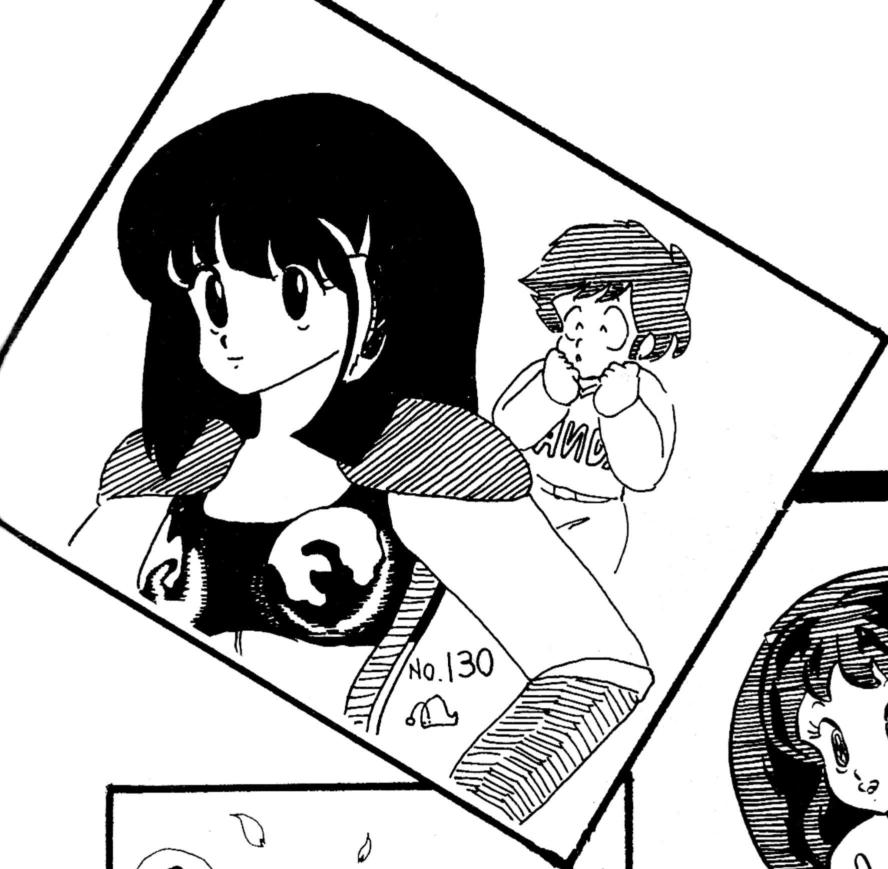
使用上の注意

まあ、まず見つからんでしょうなぁ。

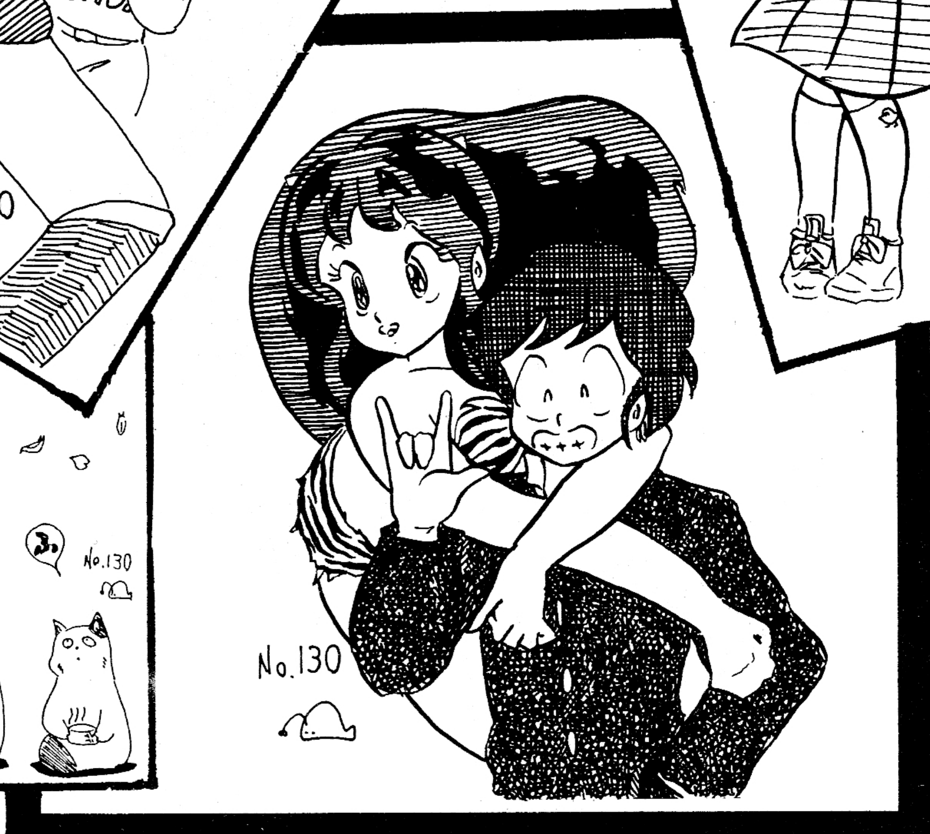
9．ああマニアの夜はふけて

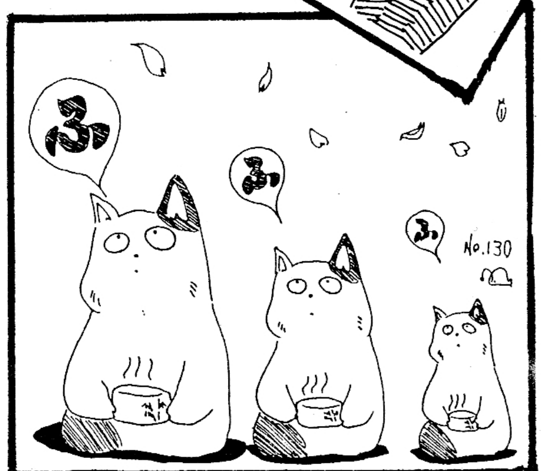
なに、まだ満足いく答えがないって。もう考えつかんわい！（開き直りっ）これでも駄目ならもう、これっきゃない。

いつまでも悶々としてなさい。

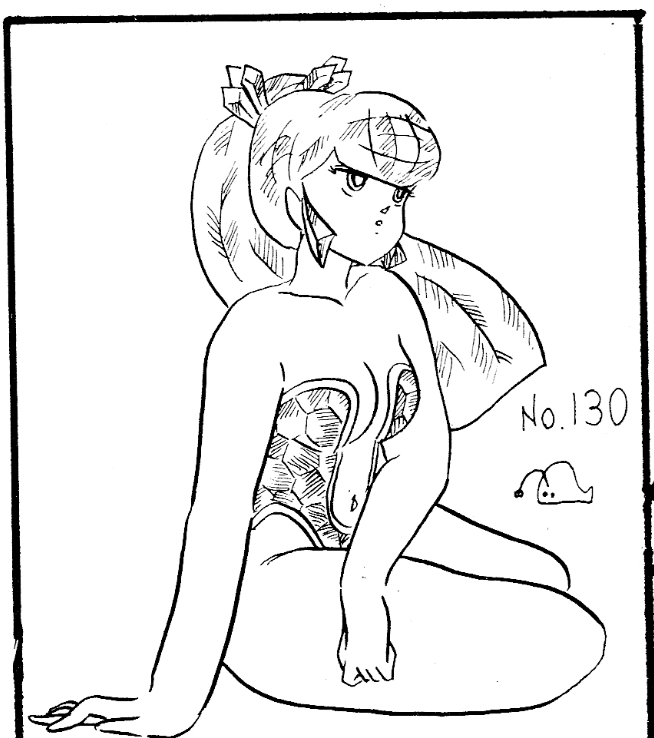


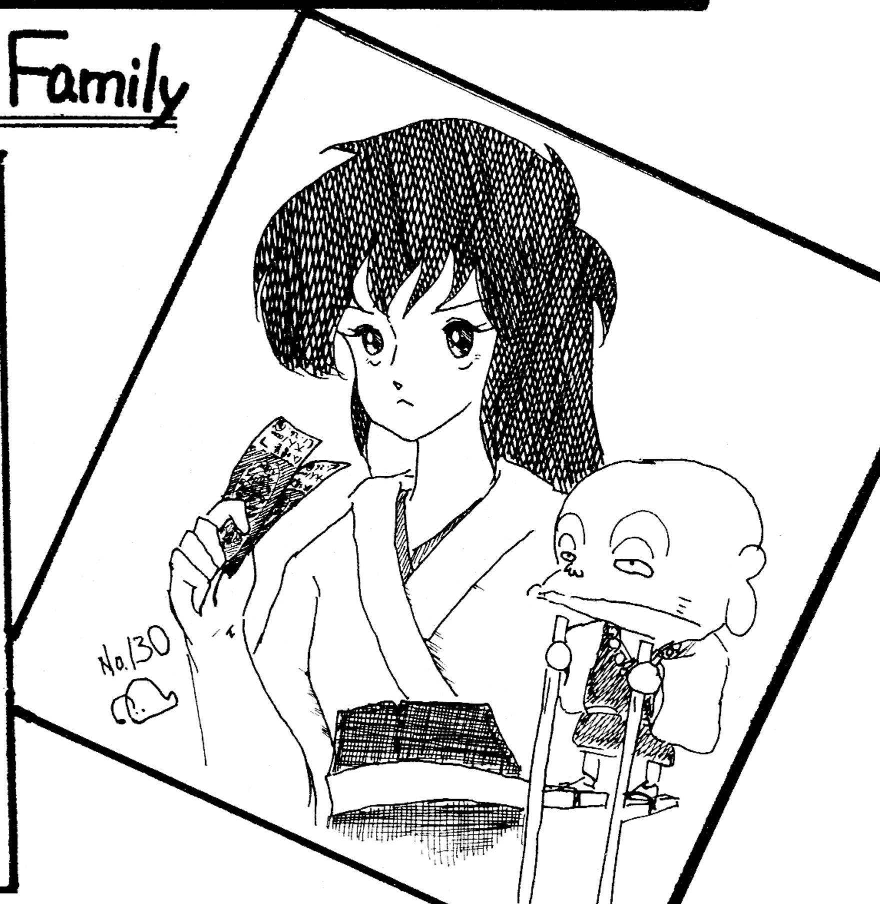


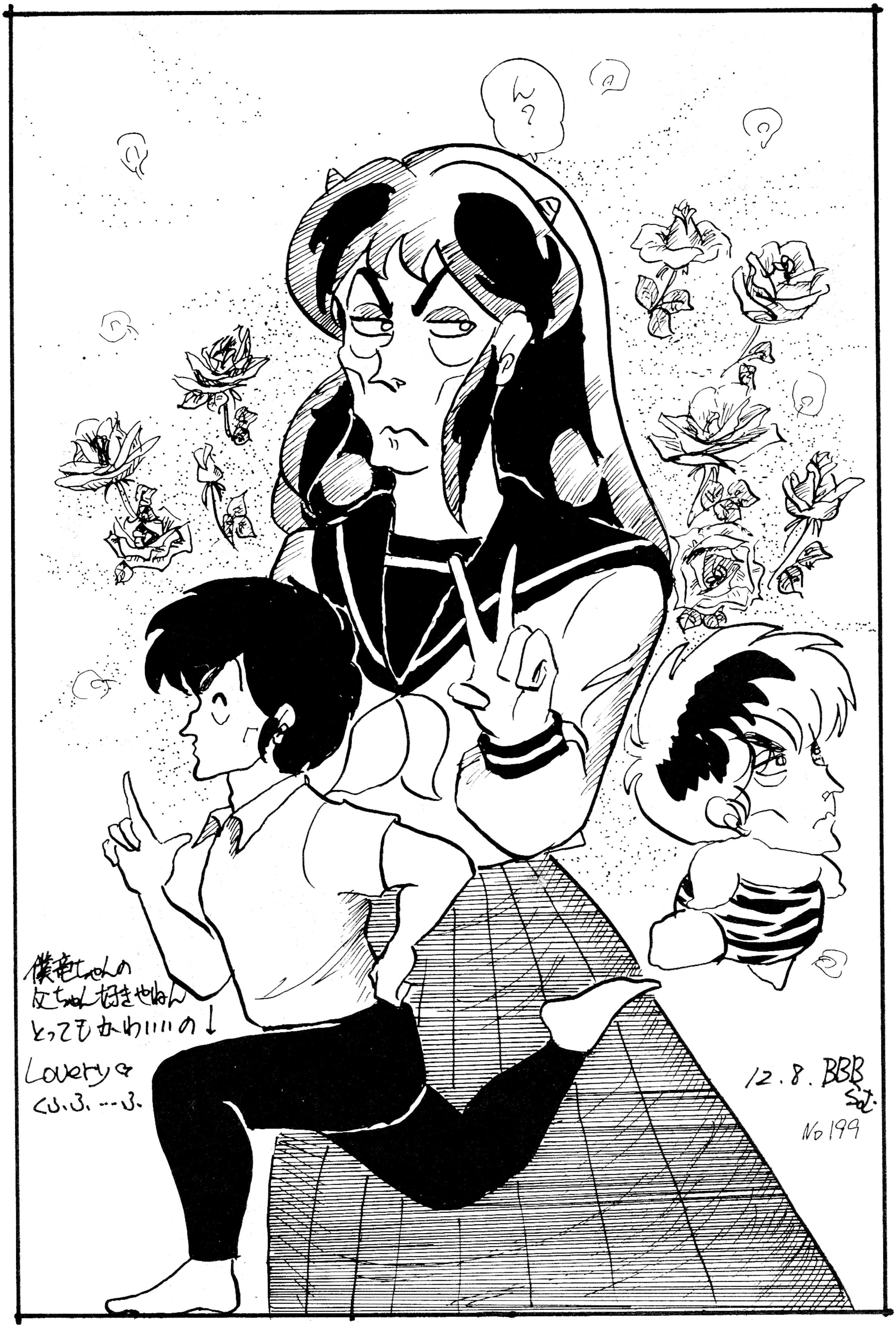




The 's URUSEI Family







ん？
僕竜ちゃんの
女ちゃん好きやねん
とってもかわいいの↓
Lovery♡
くふふ…ふ
12.8. BBB
Sat.
No199



え～前号でよせばよいのにラムちゃん人形のディテールアップ講座をやった時、つい手がすべって『次回はお病気編やりまほか？』などと書いてしまったのをあの意地クソ悪い事ム局長メがしつこくおぼえておりまして『やれーやれー』と私のシリをつつきます。

Ｆ－４ＪとＦ－４Ｆをたして２で割ってスパイスかけてＦ－４Ｓを作るとか、ＴＡ－４ＪをＯＡ－４Ｍに改造するとか、そう言う記事でしたら目ェつぶってても書けるのですが、キャラ物から９９％足を洗った上に１／４８以上のフィギュアをいじらなくなってひさしい私メには現在ではこれはとてもむつかしい。大体人体なんて曲面がフクザツなんだよなー。Ｍ－３ブラッドレーでもフルスクラッチする方がらくなぐらいです（キット出たけどネ）。

うーん、まァそんなワケで忘れかけてる手法をぼちぼち引っぱり出してならべてみましょうか。（前回から１年以上たってるもんナー）

しかし、この間にガレージキットブームのせいか、ツクダ・ニットーなんぞのメーカーからも、色々とフィギュアキットが出ているようですし、バンダイさんも着せかえ人形出しましたネェ。コミケで、このお人形さん胸ポケットに入れてうろついているヤツが居るけど、何を考えてるんでせう。ちょっと、不気味ですナ。

何を考えているのかと言えば、ツクダの１／４ラムもすさまじいですネェ。あんなの（といっては悪いか）部屋の中に置いといて彼女にでも見つかったら、人生の終わりですネ。と人ごとのように言う。

☆バンダイの１／１２ラムは一度絶版になったと思ったらミンキーモモともどもまだ店頭に顔を出しているようですネ。今回はこのラムと、ツクダの人を殺せるラムをとり上げたいと思います。（ＴＡ－４をＯＡ－４にする方書きたいナー…。だめ？）（だめ！！㊊）

グス。それでは、まず、１／１２ラムの髪とビキニのディテール・アップから。



①髪のディテールアップ

　ラムの髪は不思議なレインボー・カラー（？）をしております。まァ最近のカラーイラスト等はアニメの影響か、面倒なのかモノトーンになっちゃたけど…。
で、このレインボーカラーを再現してみようと思うのであります。
　まず、Ｖｏｌ．５の要領で、髪を作り（Ｖｏｌ．５を持っていない人は、ちゃんと買うように。えっもう在庫ないの？　残念ネ。）
　これを原型に、シリコンゴムで型どりをいたします。

α．型の内側に筆で透明レジンを塗り、硬化後、これに内側からカラーをグラデーションをかけるように塗り、後にこの２つをくっつける。

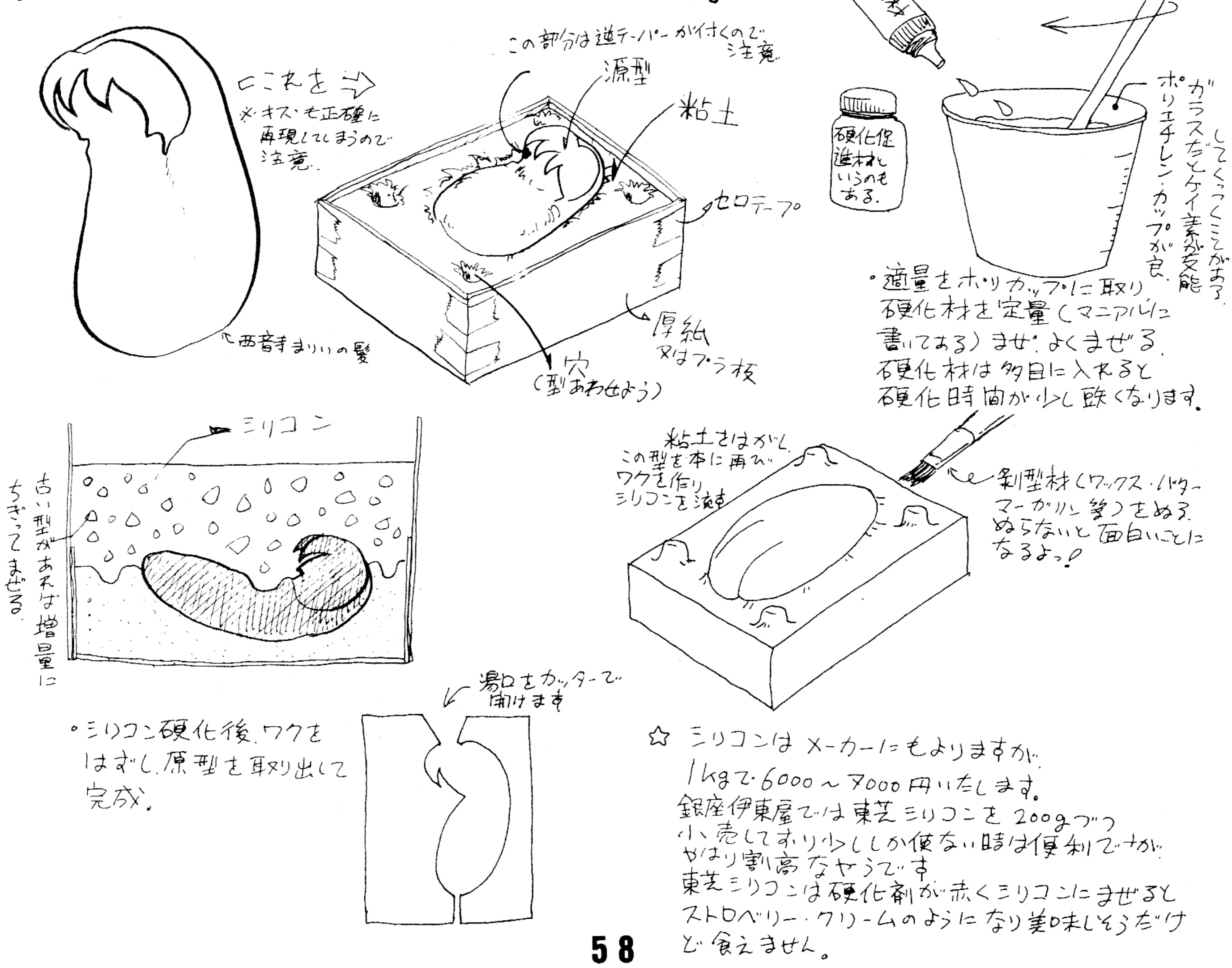
β．色が変化して行くジュンにカラーレジンを流し込んで行く

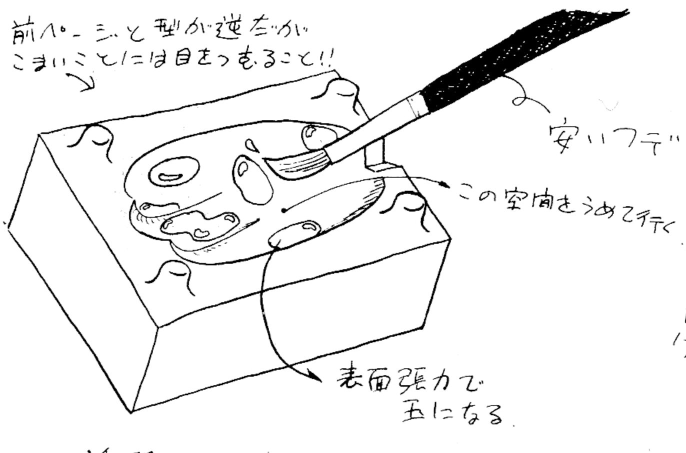
γ．αで作った『から』にβのように色レジンを流していく。

　などです。

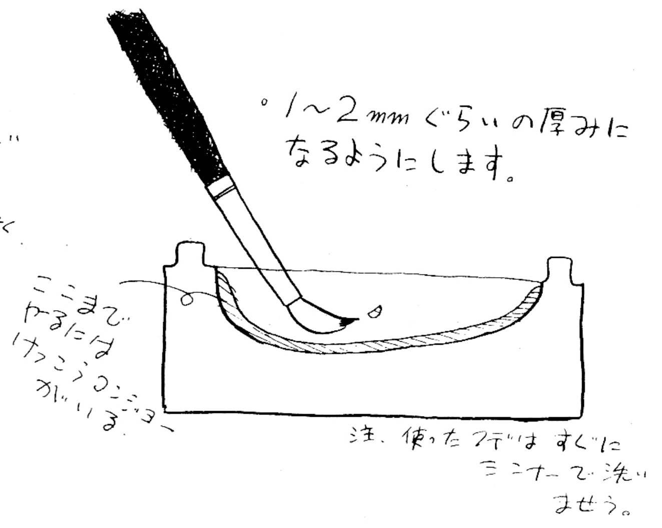


☆知っていると思うけど、シリコン型の作り方。

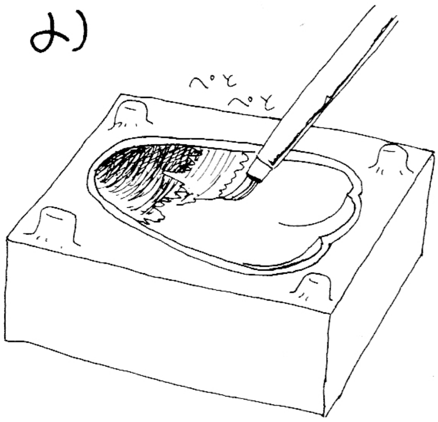




・透明レジンをフデで塗ります。



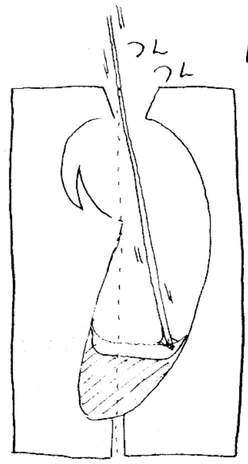
α)



αの場合、髪自体が空洞となり軽く作ればよいのですが、レジンを型に塗る時表面張力の大きいシリコンがはじいてしまいきれいに塗れず、レジンを点々と置いて行き、面を作らねばならないのと、パーツの合わせ目と色目が目立ってしまうのがデメリット。

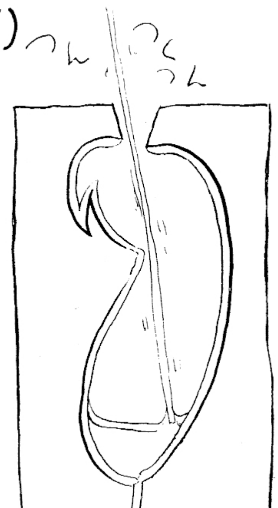


β)



βでは色の境界がはっきりしてしまうので、前の色が硬化する前に、次の色を少しまぜ、これで針金なんぞでついて適度にまぜあわせてやらなければいけません。とてもめんどい。

γ)



γではα、βの苦労がダブルでせめてまいります。しかし、αのようにして作った『から』の内側にカッター・彫刻刀等でヘア・ラインを入れておくと、ラインにそって毛細管現象により、色が上下するためこれらの中では割と理想どうりのものが造れると思います。

うーん、しかしなんでこんなことでなやまナァいけないんだろう…



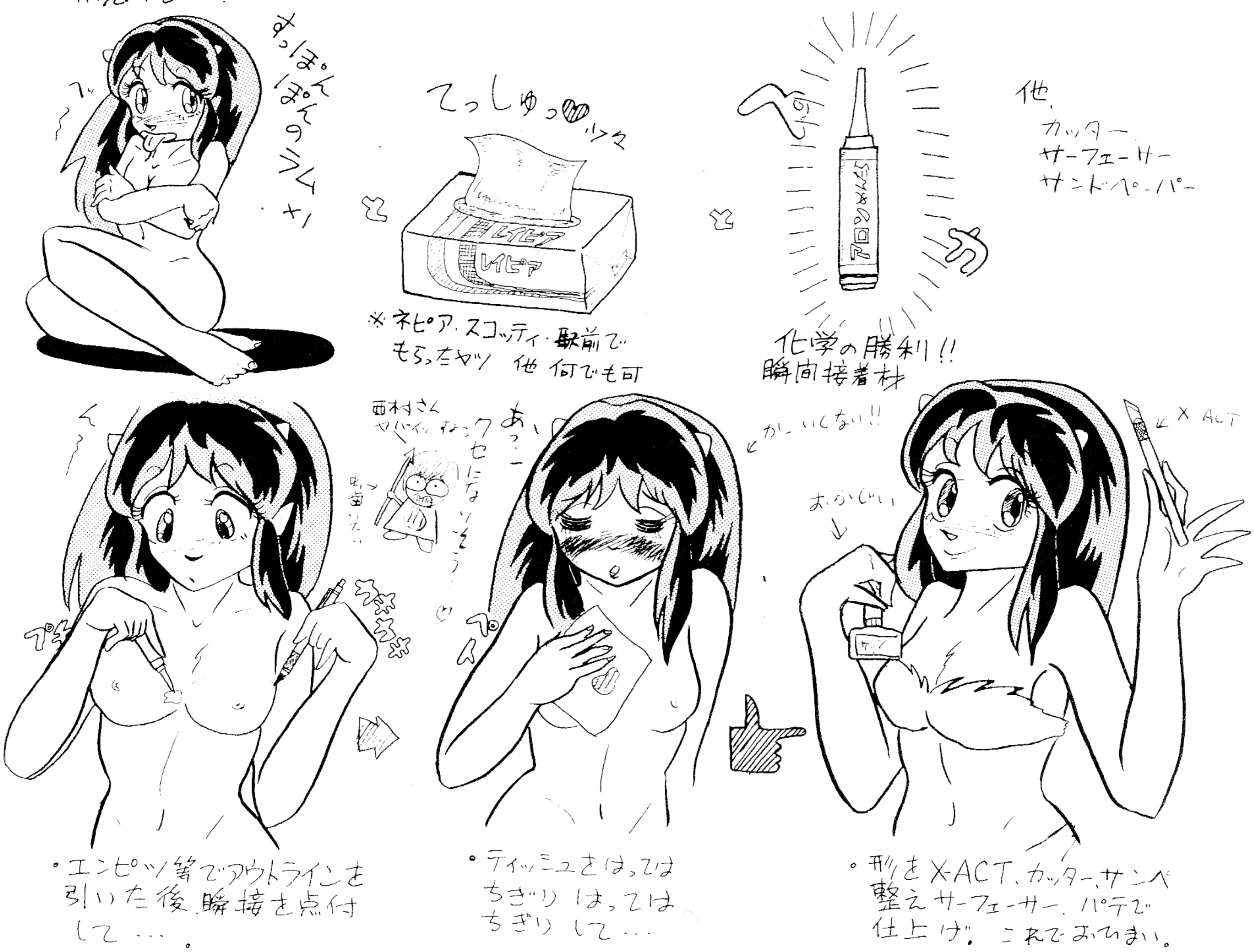
②ビキニ

これは髪の加工にくらべるとカンタンです。毛皮らしさと立体感が出るように加工します（私はラムのビキニは毛皮だと信じている）。

まず、これも『ぴよ５』の要領でベストプロポーションのボディが出来たら、パーツの工作する部分にブラやショーツの粗いラインをエンピツ等で入れます。

そうしたらこのラインに沿って瞬間接着剤でティシュペーパーをはってはちぎりはってはちぎりして行くだけ。こうすれば、ときパテで描くより、よりいっそう毛皮らしくなりますし、立体感も出て来ます。はみ出た部分はサンドペーパー・カッター等でけずり型をととのえます。仕上げはサーフェーサーで面の粗（あれ）をととのえるのを忘れずに。

・用意するもの



ここでちょっと塗りのお話し。

１／１２以上の大きさの人形の場合筆塗りですと、均一な塗面を作るのが非常にむつかしい。そこで文明の利器、エアブラシの登場です。

あまり一般的な道具だとは言えませんが、広い面積を一気に塗り上げるにはなかなか便利です。

まず、全体にサーフェーサーを吹き付け、次いで、ラッカー系の肌色を吹きます。エアブラシはただでさえツヤがおさえられぎみになるので、気をつけましょう。

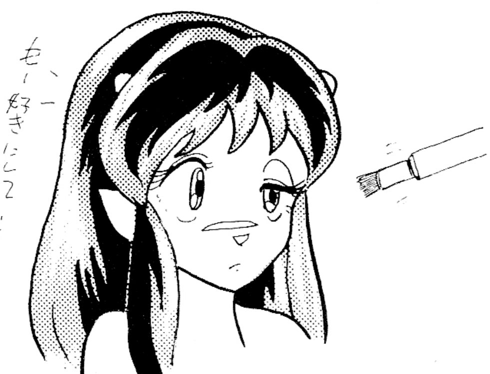
後は影・ハイライトを、筆で入れるだけです。







◦ドライブラシでハイライト
シャドーを入れるす



おでこ.ほっぺ.胸.肩
等凸部…ハイライト
わき.首.うでの裏
等凹部…シャドー
ハイライト.シャドーは基本色に
白.赤を少量まぜて作ります



最後に
水性カラーで
目を入れ
お化粧して
おしまい。
目は水性カラー
ならミスっても
水で洗えます.

資生堂ビューティー
ブックなる本が
良い資料になるそうです.
MA 1月号.(参)

☆つづく☆
で秘密兵器だ!!

さんげのぺへじ

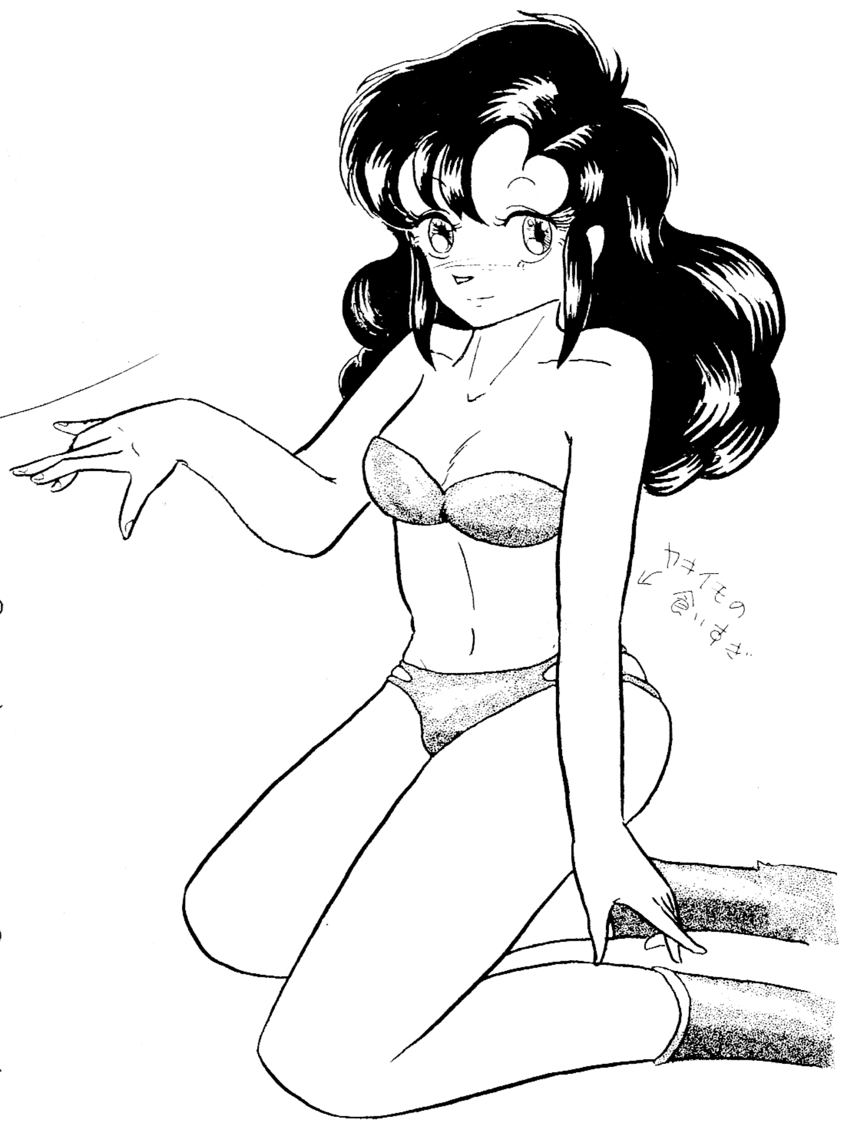
まず、最初にあやまってしまおう。ごめんなさい！！

　あと２Ｐ使ってツクダＪＦ編をやるつもりだったのですが、次回に予定している『でてーるあっぷ　おぶ　ラン』と重複する点が多すぎる上、シリコン型の話など、今回のものとも、内容的に類似点が多すぎるので、まとめて次回まわしとなりました。
　冒頭ででかいこと言ってごめんなさい。

　と言うのは建前、実は時間なくて２Ｐ落としただけです。
原稿描きはじめてから、Ｍｅ２６２は出るわ、モノグラムからはＦ－４ＪとＣが出るワ、大体〆切４日前タミヤのメルカバをいじったりしたのが悪い！！
ゆーわくに負けた私がみーんな悪いんです。

実は卒制もあったんだけどネ…。





　モノグラムの１／１２Ｆ－４はなかなかの出来です。
　なんであれでパネルラインが　ラインなんだろー。クソー！！

　タミヤから出た１／３５チャレンジャーもまだ買ってないけどすごいです。
　今月中に買うぞー！！（作るぞーでないのがなさけない…）

　ボークスの１／４８ウーフーも作りたいです。

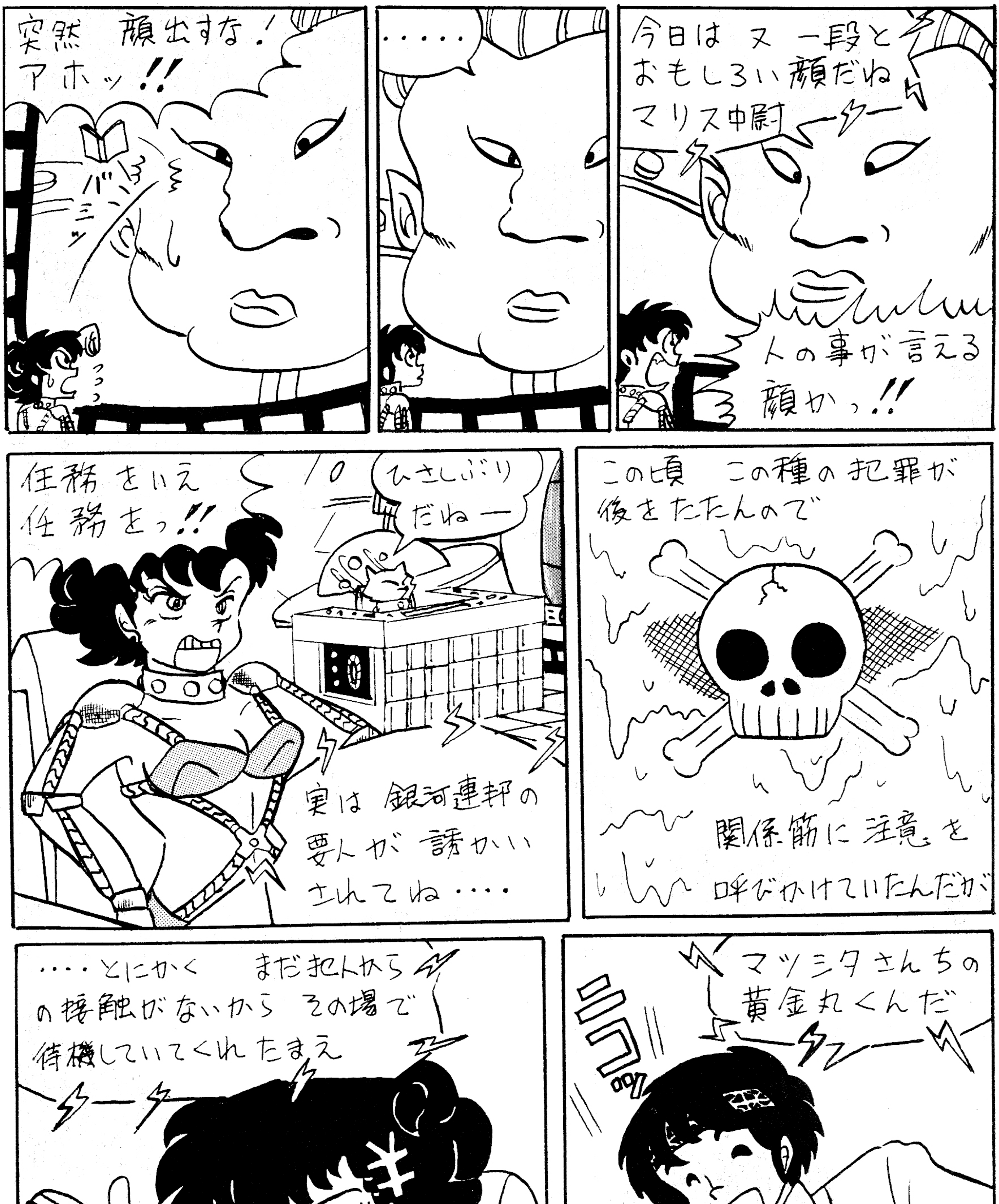
　あーマスがうまった。

1985.12.8.SUN.
By. KISHIMARE.



作・絵　NO.52　わるだ久美


ぶへへへ〜
ピー
カチカチ
692,873
716,820 の
-23,947 と…
パートナーの
マーフィー
銀河連邦警察
スペシャルポリス
マリス 中尉
……
ふむふむ
ゼゼコをためる方法
ゼニ
じっはっ
ぱっ
わっ
ブッ


突然 顔出すな！
アホッ!!
・・・・・
今日は ヌ 一段と
おもしろい顔だね
マリス中尉
人の事が言える
顔かっ!!
ひさしぶり
だねー
任務をいえ
任務をっ!!
実は 銀河連邦の
要人が 誘かい
されてね・・・・
この頃 この種の犯罪が
後をたたんので
関係筋に注意を
呼びかけていたんだが
・・・・とにかく まだ犯人から
の接触がないから その場で
待機していてくれたまえ
了解！
・・・で 誘かいされ
た要人って誰の事？
マツシタさんちの
黄金丸くんだ
ずるっ


きりっ
わっ黄金丸!?
ニコッ
ひょいっ
わ～～ん!
助けて下さぁ～い!
無理矢理 ボクを
連れ込んだんですっ!!
ちょちょっと…
ばっ
どたたっ
なんとっ!!
PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PIYO PI…
長官っ! マリスが
犯人だったなんて
ボクは ちっとも
知りませんでしたっ!!
うらぎりもん!
黄金丸君を誘かい
したのは マリス中尉
だったのかね～っ!!
あたしが
そんな事する理由ないでしょー!


長官っ！
あたしの目を見てちょうだい！！
・・・・・・・
この目が犯罪を犯す目に見えますかっ！？この目だっ！
しくしくしくしく
見える
・・・・それで身代金の要求額はいくらかね？
・・・・・・
プツッ
あ～あ
また修理費がかさむな・・・・
黄金丸っ！
れーせーに
れーせーに
バチ
バチッ
人質を手荒にあつかうのは良くないぜ
ぽつり
このっ・・・
どかーん
わっ！！
・・・・いたたたたっ
何事よいったい！


マリスっ!! 死にたく
なかったら 私のダーリン
を おかえしっ!!
ジャキーン
わっ!スー!?
ばひゅーーん
ズボッ
きゃっ
あ、あたしが 何を
したと言うのだ…
ばしゅっ
ばしゅっ
黄金丸っ!あんた
この事態を どうする
つもりなのよっ!!
ん?
じわ〜
あっ!
どろん
ひきょうだよっ!
赤貧女っ!!
ぼひゅ
ぼひゅ


ぼしゅっ
なによっ！
あんただって
もともと
ひょい
ひょい
ひょい
ビニボーんだろーが
どごっ
ひょい
やかましい!!
ど、どうしたの？
なんか 理由が
あるみたいね？
この一件・・・・
こちら本物
じつは ですねっ！マリスさん・・・
にょきっ
あの事件の後
ボクは晴れて スーちゃんと
結婚したんだ
お父さまも引退して
ボク達は幸福な日々
を送っていたんだけど
ボクは
元々 会社の仕事
が 好きじゃなく
てねえ・・・
時々 スーちゃんに
手伝ってもらったりした
んだ
で、その内 全部やって
もらうようになっちゃって
げっげっ
へらへら
売上げ
報告書
今じゃあ スーちゃんが
実質的に社長なんだ
よね
じゃあ 良かった
んじゃないよ？
ところが うまく
いかなかった・・・


いっつも 頭の中は
仕事の事でいっぱい
ねえ みてみて
うまい字だろ?
それ
何のけーやく書?
おはよっ!
さっ
おやすみ…
朝は早いし帰りは遅い
たまの休みだって
他の会社の人とゴルフ
この3週間は
ろくすっぽ口も
聞いてくれないんだよ…
ねえねえ
今度の休み
さあ
だめ!
ゴルフっ
それが 正常な
結婚生活と
言えるのだろーか?
ぐぐぐっ
そう 考えた時
ボクは….
この計画を思いついた
彼女の本当の
気持ちを
確かめたかった
こ、この…そんな事で…
ギシッ
ギシ
ギシ
でもそれは間違いだった!
いちいち
近よんな!
びっ
あたった!!
さあマリスっ!! ダーリン
をおはなしっ!!
ぶす
ぶす
アホ マリスっ!!
せっかく逃げるチャンスを
作ってやったのに…何を
やってんだよっ!!


待ちたまえ！
スーちゃん！
すっく
ボクは
ここだよっ
はっ
あ、あんた…
じーーん
からん
心配かけてごめん…
やっぱり スーちゃんは
ボクを愛してくれていたんだねっ！
そんな事…あたり前
じゃない ダーリン!!
うええ〜〜 生まれて始めてキスシーンを書いちまったぜ…
スーちゃん♡
あんたあぁっ♡
がばっ
どどーーん
仲良きことは
美しきかな
↑ミドリムシにあらず…きゅうりです


さっ早く帰って
オセロゲームでも
しましよっ♫
わーっ
それは
いいや!
金持ちの考えとる事は
さっぱり判らん….
まあ何にせよ
良かった良かった
人前で
いちゃいちゃ
と….
これ以上こわされ
ちまったら ヌ
バイトだもんな
何が良かった
だっ!!
やっぱり
ビンボが
悪いんやっ!
フォン フォン
フォン フォン
そこの
ゆうかい犯
止まりなさいっ!!
END 59.11.5

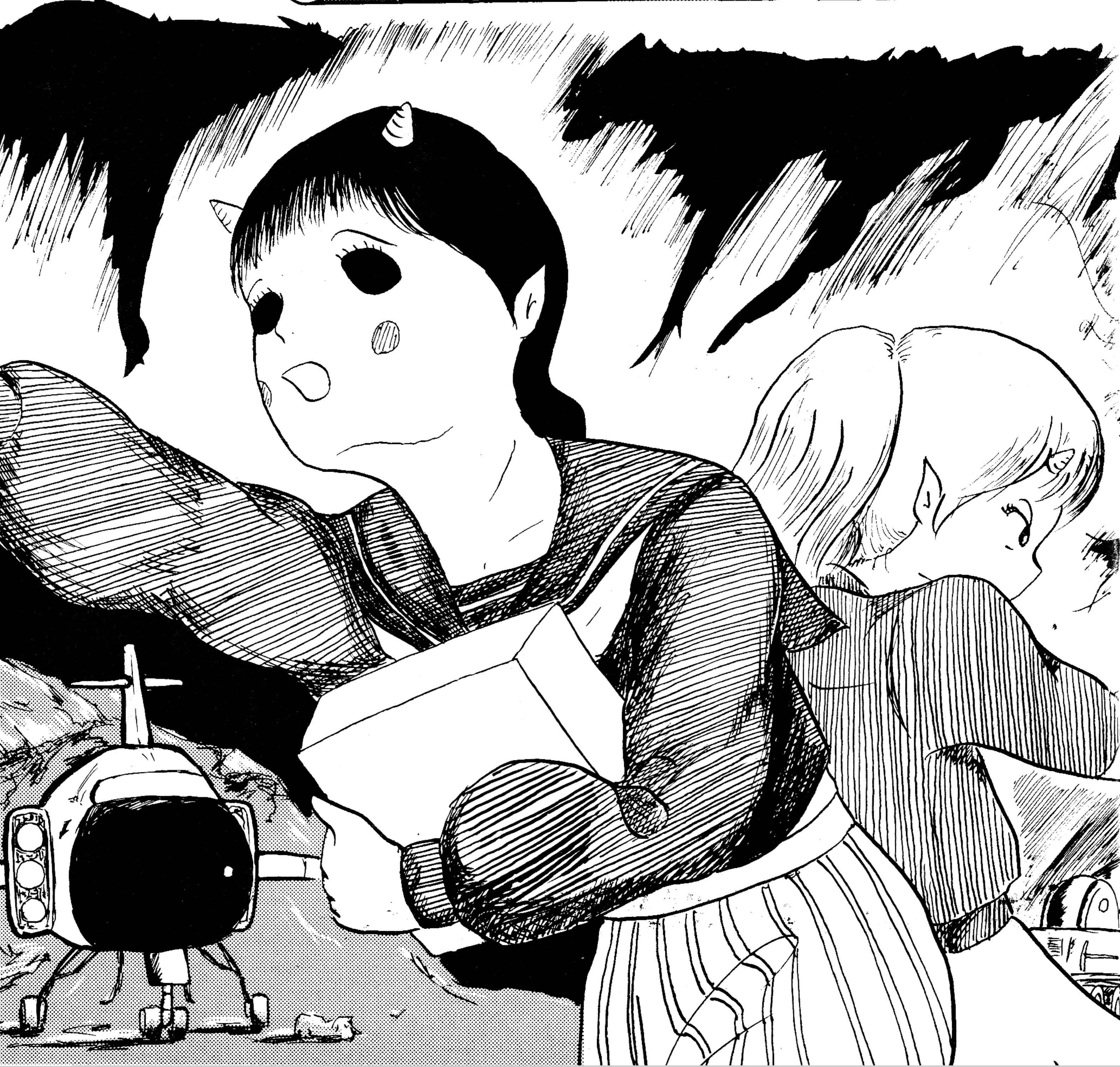

困ったわ…


BF〇〇五年頃
オギアムという惑星に二人の
勇敢な少女がいた。名は
ラエバス、ムラと言った。二人
は、異星人からのメッセージが
記録された石板を偶然手に
したことから、二人の悪者に
誘拐され、彼らの宇宙船に
閉じ込められた。ラエバスは
なんとか脱出しようとして、誤って
出口を溶接してしまった。ムラは
疲れたので寝てしまった・・・・・・

二重橋前長太郎

C. Nijubashimae Presents…

THE GOBLINE



CHRONICLES

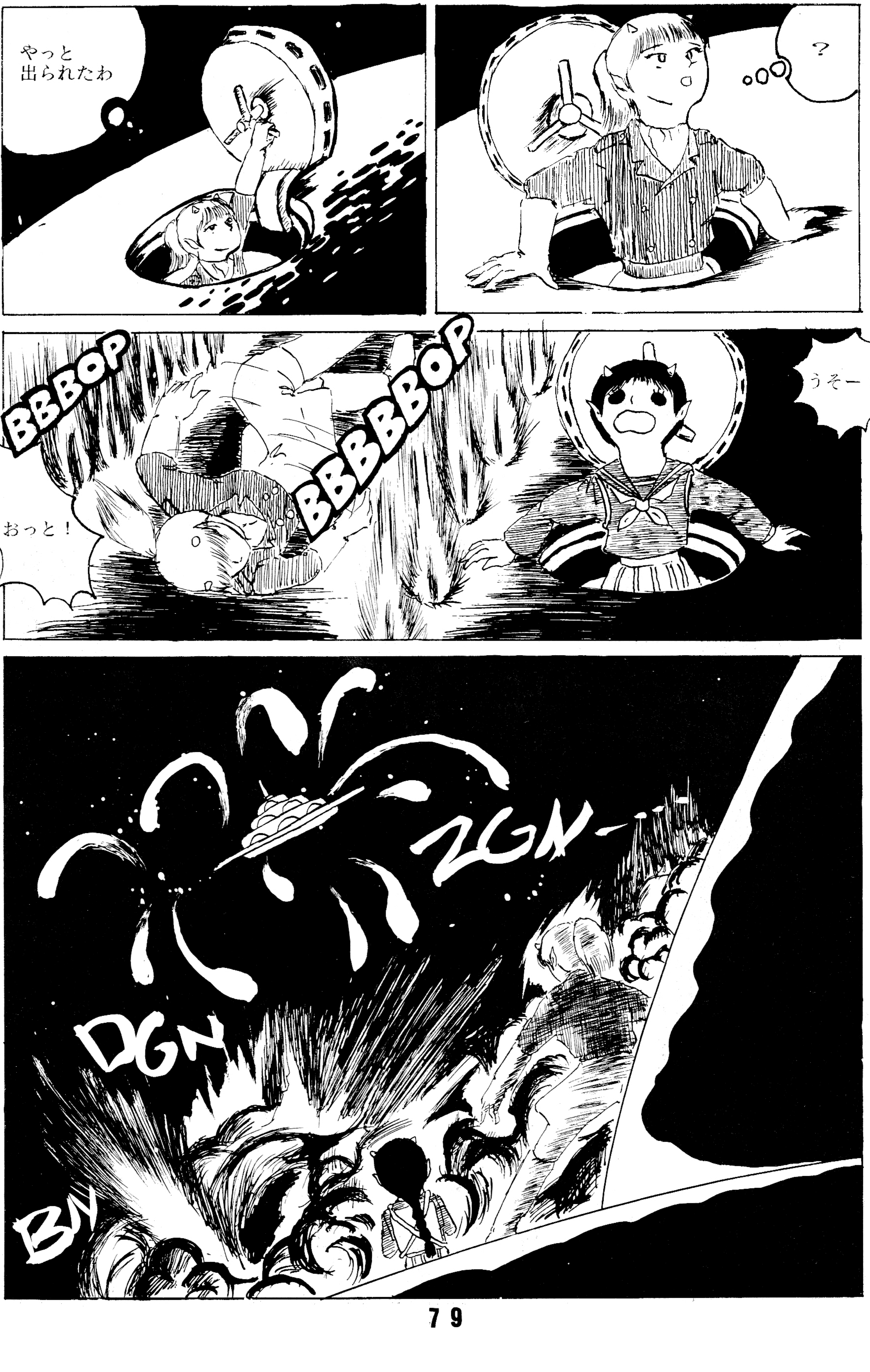



さうだわ！！
この人も
レイガンを持っていた
はずだわ
あったわ！
これで
脱出できるわ
ぐた～
あなたのことは
一生忘れないわ…


ダ
ッ
ああ、私って
スペース・オペラの
ヒロインのように
かっこいいわ…
JUMP!
さようなら
!!



あ～
もう少しなのに
な～
あっ
とどかない
ガブ
私も
つれてって～！！
はっ
あっ自分だけ
逃げようとしてるー

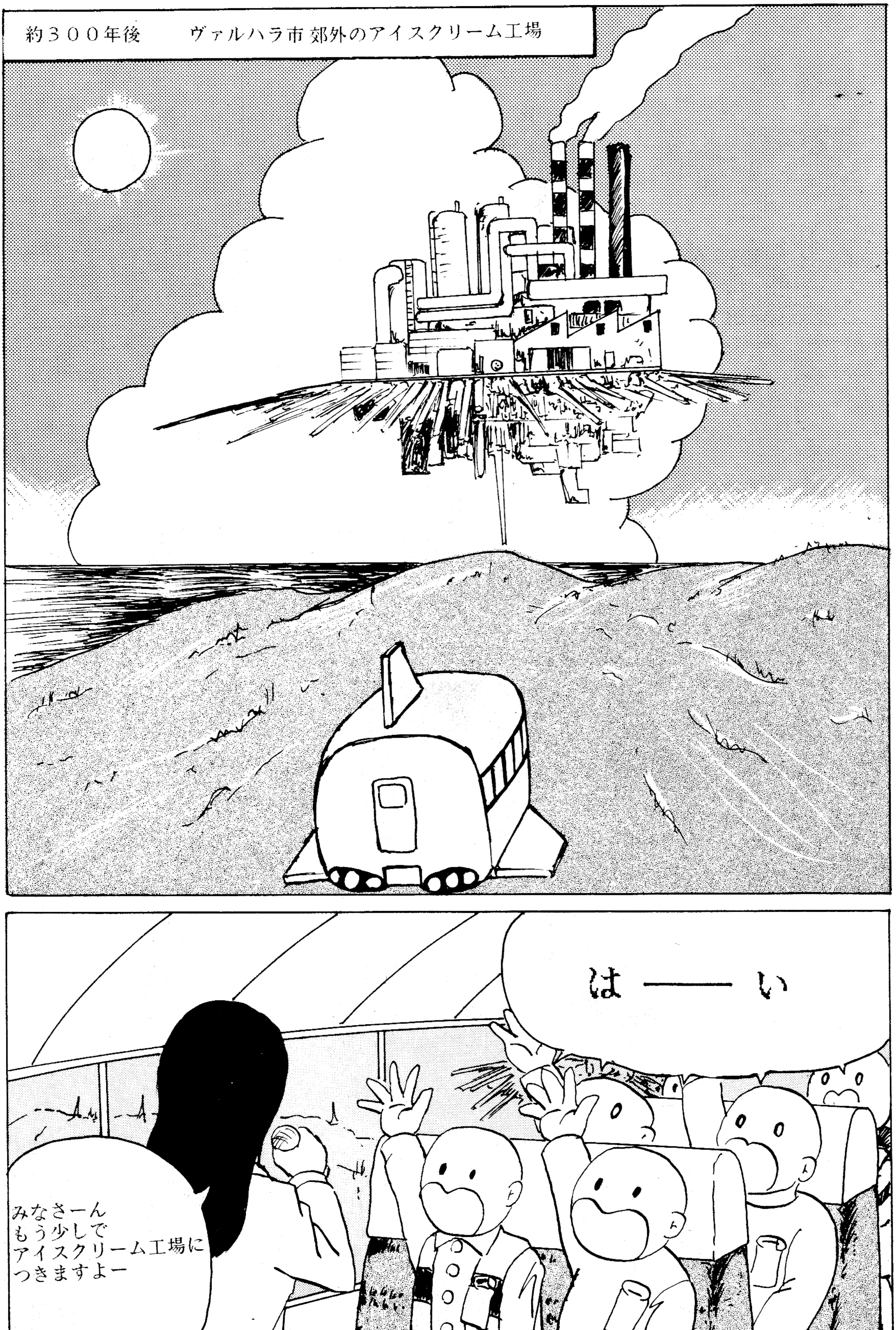

やっと
出られたわ
?
BBBOP
BBBBBOP
うそー！
おっと！
ZGN
DGN
BN


3年後　オギアム
今日がいよいよ宇宙人が来る日ね
どきどき
コリヨ国際空港
わっ急にいうな！
ここよここ！


宇宙人さんが
来るのは
どこかしら？
いよいよ宇宙人に
会えるのね
来たわ

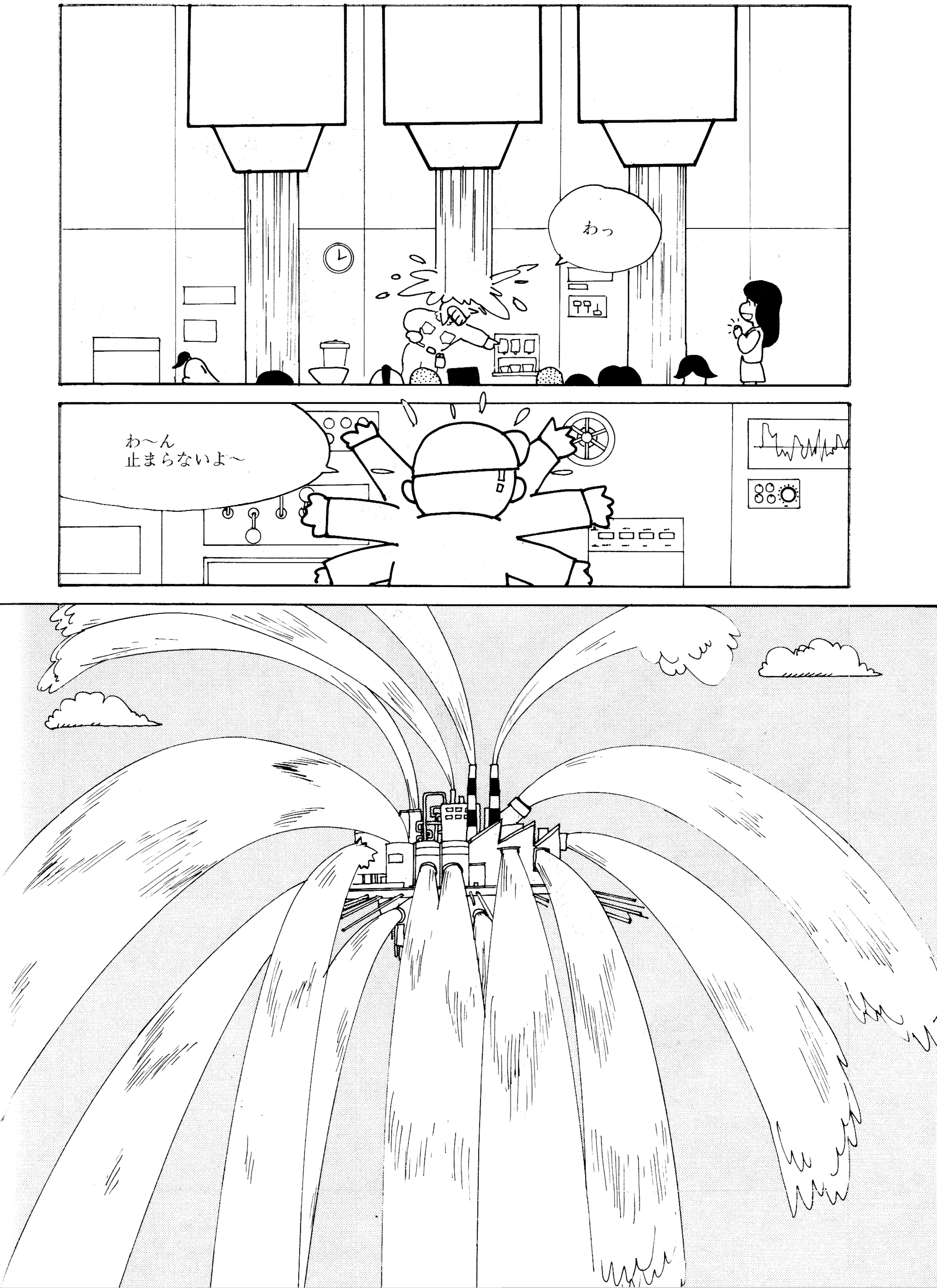

カッ
ヒュ

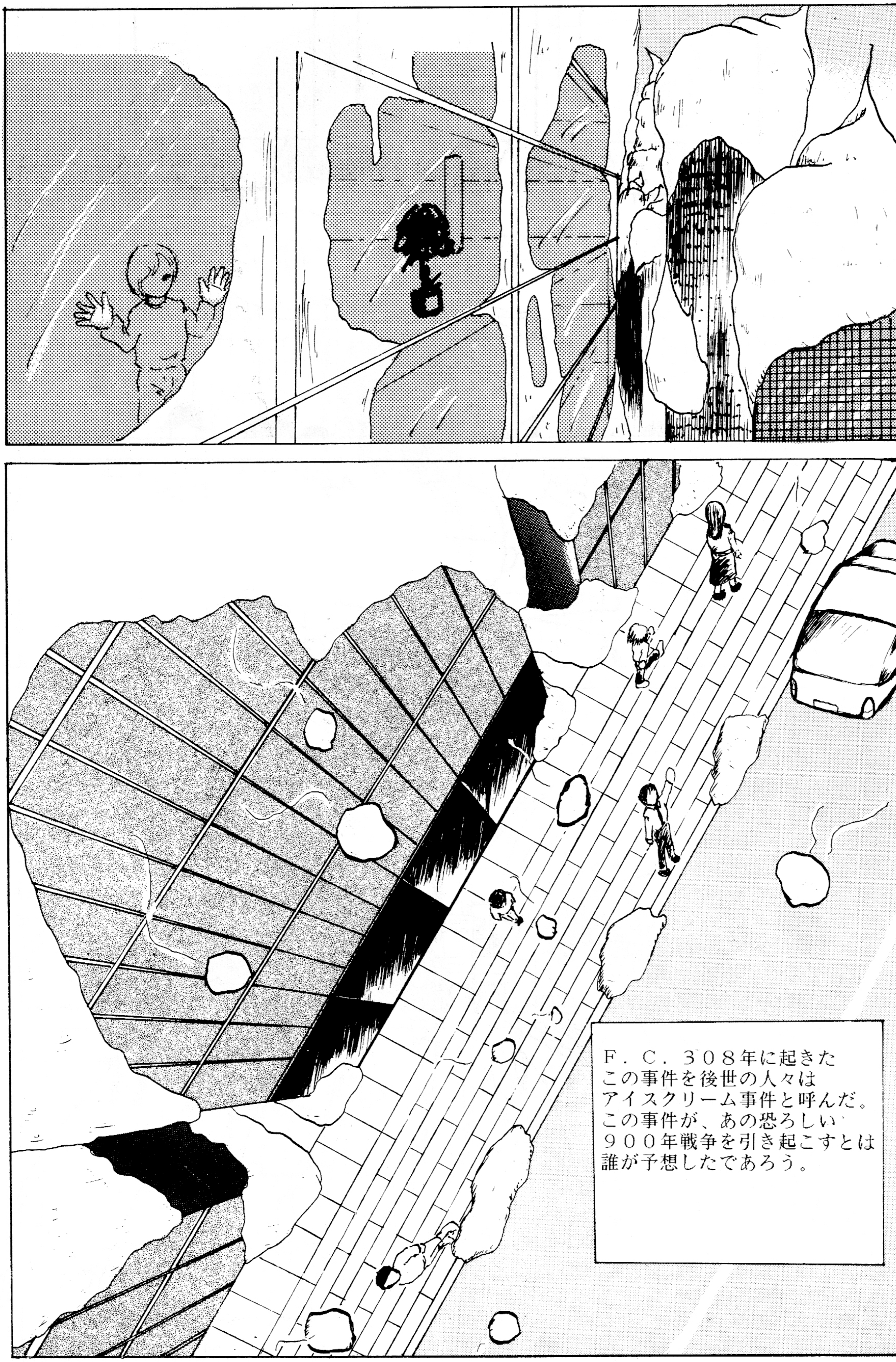

私が宇宙人の江戸川橋太郎だよー
やあやあやあ
宇宙人 江戸川橋
Ｆ．Ｃ．１年
これがとても衝撃的な
宇宙人とのファースト・コンタクト
であった。
君たちの活躍は知っていたよ


約３００年後　ヴァルハラ市郊外のアイスクリーム工場
はーーい
みなさーん
もう少しで
アイスクリーム工場に
つきますよー


見学の前に
アイスクリームの説明を
します
アイスクリームのできるまで
みなさんはアイスクリームを
食べたことがありますかー？
はーい
ふん！
それでは
見学に行きましょう
鬼永
ふん？


これは何だろう？
ピッ
わっ
ピピピピピ
しーらないっ
それではスイッチを入れてみましょう
がっちゃん
ここからアイスクリームが出てきます


わっ
わ〜ん
止まらないよ〜



To be Continued
C.Nijubashimae

鬼星年代記

GOBLIN CHRONICLES

地 球 編

企画・原案　半田　利弘

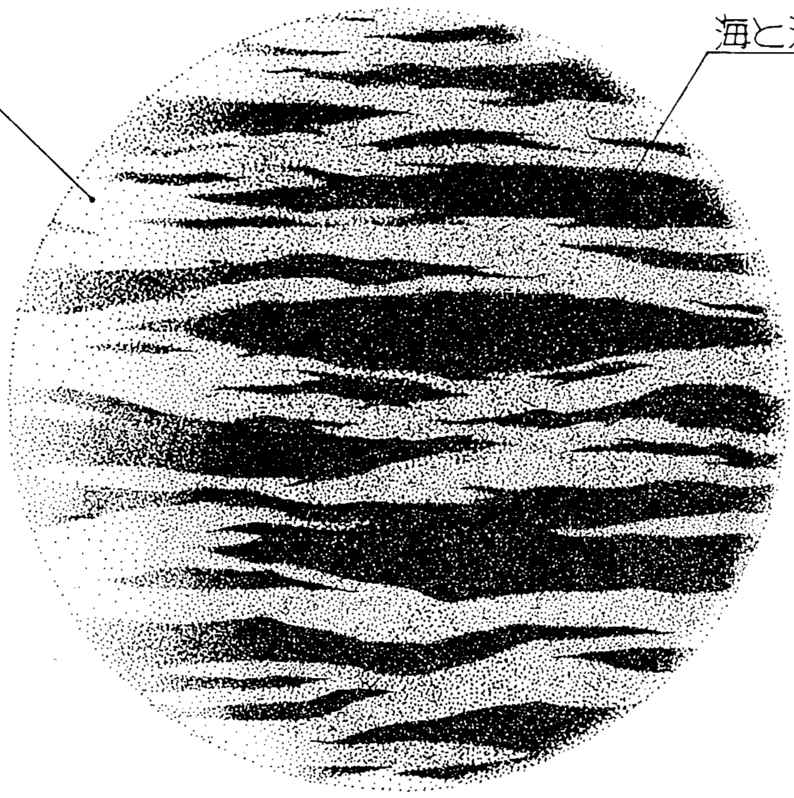
原作　弘　一作　&　二重橋前長太郎

本文　弘　一作

協力　ᛊ.ᚾᛊᚺᛁᛞᚢᚱᚠ　・　橋本　知明

方言監修　O原（仮名）

鬼星：鬼族王国首都惑星　首都　　ナブラ
人口　　650万
重力　　1．06G
海陸比　1：3



超兵器ぐももの影響により超新星化した元祖鬼星系より現星系へ移動，再生された惑星

第一部のあらすじ

いにしえの大戦の悲惨さに、すべての軍備を放棄した星間文明・千年文明。武力による事態の解決を捨て去った千年文明人（ミレニアン）にとって戦乱に明け暮れる星の発見は大いなる驚異であり、かつ脅威であった。この悪魔の星－地球を非武装化するために、千年文明評議会は1つの作戦を決定した。「プロジェクト・インベーダー」。そう名付けられたこの作戦は、ミレニアンが自ら侵略者を演じ、地球人を心理的に圧迫し、占領の後、非武装化するというものである。そして、侵略者を演じるミレニアンとして選ばれたのが、鬼族首席行政官の赤鬼と、その娘ラムであった。

第二部　侵　略

宇宙船、千年一角獣は、重力エンジンを駆り、鬼星系を離れつつあった。目的地は地球。光ですら何十年もかかる、彼の地までは、当然のことながら、実質的に超光速飛行を行わなければならない。しかし、時空変換による鬼族の超光速推進システムは、転移誤差を小さくするために、恒星の重力ポテンシャルが充分小さくなるまで、作動できないのである。そのための、通常空間飛行である。

高加速性能を持つ重力推進システムのおかげで、既に光速の60%の速度を得た千年一角獣は、星間塵デフレクターを展開し、鬼星系惑星間空間に散在する塵やいん石を蹴散らしながら航行を続けている。転移限界まであと僅かであった。

その千年一角獣の中央船室には、二人の鬼がいた。ラムとその父である。

「どやラム。日本語はちゃんと覚えられたか？」

「うん。わりと簡単だったっちゃ。しゃべってみようけ？」

鬼星を立ってからの数十分、ラムは、日本語の睡眠学習を受けていたのである。異星人との交流が盛んな千年文明圏では、この類の学習技術は、ハード・ソフト両面で、著しく発達していた。

「うむ。ま、ええわ。ところでな、ラム。」

赤鬼は居ずまいを正して娘に言った。

「ええか、これから行く星でな、わしは、お前に、ちょっとした勝負をさせよ、思っとんのや。」

「勝負？」

ラムはけげんな顔をした。

「そや、地球の人間と、十日間の鬼ごっこをしてもらお、思っとるんや。」

「それに勝ったら、毛皮をくれるっていうのけ？」

「そや、約束したる。」

「うれしいっちゃ。で、うちの相手は？」

ラムの問いに、赤鬼は一枚の平面写真を示した。

「こん男や。」

「ふーん。普通の男の子なのけ？」

ラムは写真を手に父に尋ねた。

「そや、地球人としてはな。そいつに、ツノを捕まえられん様に、十日間逃げおおせたら、お前の勝ちや。もっとも、地球人は、空飛べんさかい、お前には、ずい分と、有利かもしれへんな。」

「それなら、もう毛皮は、もらったも同然だっちゃ。」

「そかな？　油断大敵やで。」

「わかってるっちゃ。全力を尽くして、頑張るっちゃ。」

ラムは、うれしそうに父の顔を見上げた。

その時、船内通話機の呼び出し音がした。赤鬼は、通話機のパネルを見た。

「なんや。」

パネルが明るくなり、鬼の姿を映し出した。

「まもなく、転移限界になりま。」

「そか、限界を出たら、すぐに転移や。」

「分かりやした。転移後、予定通りやと、二時間位で地球大気圏突入になりやすが。」

「分かった。大気圏突入時以降のことは今からそっちへ行って指示する。」

「承知しやした。何か御用は。」

「ない。」

「それでは。」

パネルが暗くなると、赤鬼は、ラムの方に向き直った。

「聞いての通り、あと二時間ぐらいで到着や。あんじょう準備しとくれや。」

「うん。」

ラムはこくりとうなずいた。

「じゃ、わしは、艦橋へ行くさけな。」
赤鬼は席を立つと、船室を出ていった。

二時間後、千年一角獣は、超光速推進による転移を終え、通常航法により、地球の上空数万kmの所まで来ていた。
「うわ〜、きれいだっちゃ。」
一通りの準備を終え、中央船室へ戻っていたラムは、ビデオパネルを、船外カメラに切り換え、そこに映った、青く輝く地球の姿に見とれていた。
「いよいよだっちゃね。うちの相手はどんな奴かな？」
ラムは、写真で見た相手のことを考えるうち、ふと素朴な疑問にとらわれた。
（けど、父ちゃん、どうして急にこんなこと言い出したのかな？）
しかし、生来の楽天さから、自分勝手な口実を見つけると、あっさり納得してしまった。
（きっと、うちが、レイにうんざりし始めたのに気づいてくれたからだっちゃね。ここらでうさばらしさせようと思ってしてくれたに違いないっちゃ。）
同じ頃、ラムの父は、艦橋で、主スクリーンに映し出された地球を見ていた。
（いよいよ正念場やな。吉と出るか、凶と出るか。いずれにしても、これからのわしの行動で決まるんや。気ィいれなあかんな。）
赤鬼はスクリーンから目を離すと、生来の大声に、一層力を込めて号令した。
「大気圏突入開始。航路は、さっき指示した通りや。頼むで。」
千年一角獣は、地球の重力を偏向して、徐々に高度を下げ始めた。
（そろそろやな。）
赤鬼は時計を見ると、傍らにあるコンソールの一つに近ずき、スイッチを入れた。地球の日本に向けられた強力な電磁ビーム回線が開かれ、それに載せて、あらかじめ決められたメッセージが送られた。それは、地球に対する宣戦布告文であった。
「惑星降下プログラム始動。」
たった一人の船員は、船を手際よく操っていた。航法管制コンピュータは、地球に関するデータや船体外殻の温度等を判断しながら、最大速度で降下するよう、重力偏向機を制御している。
スクリーンの青い球面は、みるみるうちに膨れ上がり、やがて、青々とした太平洋上に、ちらほら浮かぶ白雲が見え始めた。
「まもなく予定高度になりやす。」
「よっしゃ。予定の進路で微速前進や。」
船は、ゆっくりと、雲のすぐ上まで降りると、水平飛行に移った。重力制御による千年一角獣の飛行に、気流など影響しようもないが、実に穏やかな日和であった。
と、突然、船のコンピュータが警報を発っした。乗員の声が飛ぶ。
「一時の方向から、飛行体二、接近中！高度は本艦と同じだす。」
（予想通りやな。）
ちらりと時計に目をやり、赤鬼は思った。
「停止して、星間塵デフレクター展開や。」
「デフレクターをでっか？大気中でっせ。」
「分かっとる。ぐずぐずゆうとらんで、さっさとせんかい。」
赤鬼の指示に、舵手は、けげんな顔をしながらも、その通り従った。
「停止しやした。星間塵デフレクター展開完了。」
デフレクターが、船を包むように力場を形成するや否や、電磁波モニターが、飛行体からの言語情報を含んだ電磁波をキャッチした。その瞬間、自動翻訳器がリンクされ、作動し始める。領空侵犯に対する警告であった。
飛行体は、やがてスクリーンに二つの点として現われた。それは、ゆっくりと大きくなっていくと、戦闘機の形となり、船の前方を斜めに横切って行った。しかし、物体センサーは、二機が後方へ大きく回り込んで再び接

近して来るのを、はっきりと捉えていた。
「速度1／4。雷雲発生機作動用意。デフレクターはそのままやで。」
「了解。」
千年一角獣は、ゆっくりと前進を始めた。といっても、マッハ0.9は出ている。戦闘機はじりじりと距離を詰めてくる。船内の緊張は、いやが上にも高まった。

航空自衛隊、百里基地司令は重大な決断を迫られていた。先程、TV・ラジオの全周波数帯を通じて送られて来た宇宙人の宣戦布告文。それに引き続き現われたUFOにスクランブル発進した二機は、目標が、地球外の物であることを裏付けるような報告を送って来た。
全世界の通信機関は、宣戦布告は自分たちが発した物ではないと表明していた。中部方面隊司令部へ指示を仰いでも、上部へ問い合せ中との回答が送られて来るばかりであった。
（返答を待っている間にも、目標は、刻々と、日本へ近づいて来る。これ以上待っているわけにはいかない。）
「よし。」
長い沈思黙考の末、司令は覚悟を決めた。基地にアラームが鳴り響く。自衛隊発足以来、一度としてなかった全機出撃である。
「緊急事態、緊急事態。全機直ちに出撃。目標は鹿島灘上空二万二千。総力を挙げてこれ以上の侵入を阻止せよ。」
スピーカからの声に、基地の緊張は一気に高まった。次々と離陸する戦闘機の金属音。それは、まさしく戦争の前奏曲であった。

「次は、威嚇ではない。直ちに、領空外に退去するか、我々の指示に従うか返答せよ。」
編隊長は、そう言いながらも迷っていた。アラートでラジオを聞いていた時に、突然、混信して来た、宇宙人の宣戦布告。そして、現に、目の前にある巨大な葉巻型UFOは、地球人をあざ笑うがごとく、無言のうちに、かなりの速度で、東京へと、刻一刻と接近し続けている。こういう状況下で、果たして威嚇以上の行動に出て良いものかどうか。編隊長は大いに迷っていたのである。
「機長。GCIより入電。侵入阻止の為ならば、火器の使用も止むを得ないとのことです。」
ナビゲーターの知らせに、編隊長は内心ほっとした。
（これで迷うことはなくなった。決断は、上部でしてくれた。）
こう思うと彼の心は決まった。
「各機、AIM－9発射。」
FCSは目標を完全に捕捉していた。トリガーが引かれると同時に、主翼から白色の棒が伸びていった。ところが…。
「ば、ばかな。」
弾道を、なかば無意識のうちに目でいた各機の乗員は、異口同音に叫んだ。
二機から発射されたAAMは、皆、近づくにつれ、みるみるコースを変え、全く見当違いの方向へ飛んでいってしまったのである。
「一体どうなっているんだ。」
編隊長は思わず叫んだが、どうすることもできなかった。
「機長、後続です。」
ナビゲーターの言う通り、遙か彼方に、幾つもの輝点が見えて来た。
（しかし、それでどうなるというのだ。）
これだけの技術力の差が、数を揃えたからといってどうにかなるものではないことを編隊長は漠然と感じていた。
変化が起こったのは、後続編隊が、充分に接近した時であった。
「あ、あれは…。」
ナビゲーターの指さすあたり、後続編隊と葉巻型UFOとの間の空域に、突然、黒雲が現われた。黒雲は、みるみるうちに大きくなると共に、その数を増し、あっという間に、

葉巻型ＵＦＯを包み込んだ。黒雲は、さらに広がると、やがて、あたりにいた、全ての自衛隊機をも包み込んでいった。
　スクランブル編隊の編隊長機も例外ではなかった。一面、漆黒の闇に覆われた機は、乱気流の為、激しく揺れ始めた。
　「空雷がひどくて、交信できません。レーダーも駄目です。」
　ナビゲーターの言葉を裏付けるかの様に、キャノピーの外に、青白く、稲光が走り始めた。
（何てことだ。奴らは、天候さえ自由に操るのか…。）
　編隊長は、自分の対していた“敵”の科学力に驚くと共に、背筋に冷たい物が走るのを感じた。
（日本は、いや、地球は、奴らに占領されてしまうかもしれん……。）
　そう思う編隊長の顔は、恐ろしさに引きつっていた。

（やはり、地球人の乗物は、雷雲には弱いようやな。）
　赤鬼は、ことが予想通りに運んでいるのに満足げであった。
　迎撃に来た自衛隊機が、完全に、戦闘力を失っているのを確認した上で、赤鬼は言った。
　「よっしゃ。雷雲発生機、停止！　大気圏内最大船速で、奴らを振り切るんや。こんどは、デフレクターは切るんやで。」
　「了解。」
　舵手は、スイッチ類を手際よく操作し、スロットルを最大船速に合わせた。
　航法管制コンピュータは、指示に合うような速度が得られるよう、重力推進機を調整する。千年一角獣は、鈍い衝撃音を残して、迎撃機群のいる空域を離脱した。
　「針路は、予定通り。東京上空へ、まっしぐらや。」
　赤鬼は、そう言うと、傍らのコンソールに近づき、地球人への第２のメッセージを送るべく、スイッチを入れた。
　大気をつんざき、爆進する千年一角獣の行く手を遮るものは、もはや、何もない。
　十数分後、東京の家並みが見え始めると、千年一角獣は、速度を落とし、再び、雷雲の内へ、その身を隠した。
　「まもなく、予定地点へ着きやす。」
　「そうか。」
　赤鬼は、うなづいた。
　「ほな、留守は、頼んだで。」
　ラムの父は舵手にそう言うと、艦橋を出た。
　「父ちゃん。」
　艦内の廊下を転送室へ向かっていると、中央船室の方から、ラムがやって来た。
　「こら。わしがええ言うまで、部屋で待っとれと、さっき、言うといたやないか。」
　「だって…。」
　「だって、やない。今が一番、大事な時なんやから。」
　「わかったっちゃ。」
　ラムは納得のいかない顔ながら、しぶしぶ返事をした。
　「ええな、わしが降りてこい言うまで、部屋におるんやで。」
　「う、うん…。」
　ラムは、つまらなそうな顔で、中央船室へと戻って行った。
　赤鬼が、転送室にたどり着いた時、千年一角獣は、既に、予定地、東京都練馬区の上空に停止していた。赤鬼は、転送機の設定を確認すると、転送台に乗った。自動モードになっている転送機は、すぐに作動し、赤鬼を地上へと転送した。
　ゴロゴロゴロ…、ピシャーン。遠雷の様な音に続いて、鋭い、落雷の様な音と閃光とが地上へ走った。赤鬼は、今、地球上に、その第一歩を印したのである。

　東京、永田町の首相官邸には、その日、次

期防衛計画の打ち合わせの為、防衛庁長官と官房長官とが訪れていた。鬼族侵略の知らせをもたらしたのは、自衛隊統合幕僚本部からの電話であった。

「何ィ!?全機出撃しただと!?」

電話を受けた防衛庁長官は、百里基地がＵＦＯ迎撃体制を取り、全機出撃したという知らせを聞いて、思わず大声をあげた。

「それで、目標の確認はしたのか？…。えっ!?」

長官は、目標が地球外の物らしいということを聞いて、一瞬、絶句した。

「うん、うん。判った。事前に怪しげな放送があったのだな。」

長官は、鬼族の宣戦布告の放送の件を確かめて、受話器を置いた。

「うん？どうしたね。」

全身を、ぶるぶると震わせている防衛庁長官を見て、〇〇たけお首相は、問いただした。

防衛庁長官は、震えをおさえながら、喉の奥から、絞り出す様な声で答えた。

「し、侵略です。何者かが、日本に攻めて来たのです。」

「何だって？」

首相の隣りで様子を窺っていた官房長官が、素っ頓狂な声を上げた。

「有事立法も、まだ、まとまってないというのに…。で、敵は？ソ連か？北鮮なのか？」

「そ、それが。」

防衛庁長官は、答えに戸惑った。

「まさか、米国ではあるまいね？」

首相は不安げに尋ねた。

「違います。　全くもって正体不明なのです。」

防衛庁長官は、百里基地では、敵が、地球外の物であると思っていることを知っていたが、そのことを、敢えて口には出さなかった。地球外の敵など、彼らの理解を超えていたからである。

首相ら３人が、どうしたものかと、互いに顔を見合わせていた時、入口の扉から、秘書官が血相を変えて、飛び込んで来た。

「そ、総理、大変です！　う、宇宙人の、宇宙人の侵略です。」

「何だと!?」

３人は、一斉に声を上げた。

「今、ロビーのテレビで、宇宙人の放送が…。」

秘書官の話に、真っ先に、ロビーへ向かったのは、防衛庁長官であった。

テレビには、２機のＦ４ＥＪファントムIIが映っていた。そして、その翼下から発射されたミサイルは、何者かに、押し曲げられる様に、その針路を変え、画面の端へと消えて行った。

その映像にかぶって、荒々しい男の声が聞えた。

「地球人の武器なんぞ、わしらには、通用せんちゅうことが、これで、ようわかりまっしゃろ。今度は、わしらの武器を見てもらいまひょか。」

画面が、切り換わった。今度は、接近して来る、迎撃機編隊の遠景である。しかし、その姿も、次の瞬間、目の前に現われた、雷雲に包み込まれてしまった。

「地球人の武器は、たわいないもんやおまへんか。ちっと、雷でも鳴らせば、手も足も出ん様やな。」

画面が、また切り換わった。そこには、牙をむき出しにした、真赤な大鬼が映し出された。首相ら、３人は、まだ、何事が起きているのか、よく理解できないまま、テレビに見入っている。

画面の赤鬼は、その口を開くと、ゆっくりとしゃべり出した。

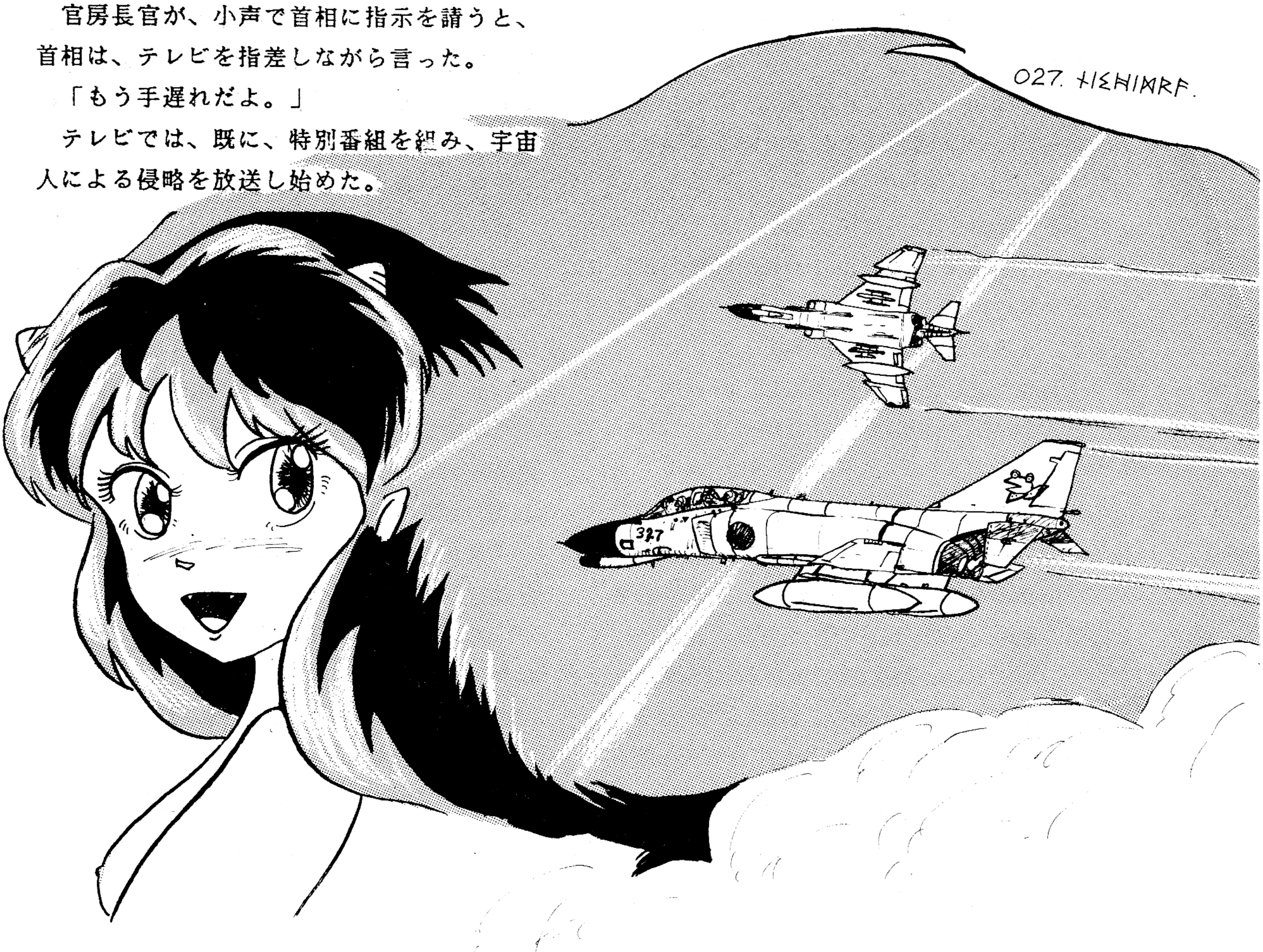
「これは、ついさっき、わしらを出迎えてくれた、地球人たちへのお礼や。どや。」

赤鬼は、ひと呼吸、間を置いた。

「無駄な抵抗は止めて、おとなしゅう、地球をわしらに寄こしなはれ。」

「まずい。」
防衛庁長官は、ショックから立ち直るといった。
「こんなものを、一般国民に見られては…。報道管制をひいて、戦意高揚を図って…。」
彼は、そこで口ごもった。首相と官房長官の耳には、彼の言葉など、全く、入っていなかった。国防基本体制の一つである自衛隊機が全く役に立たなかったのだ。戦後、憲法の目をかいくぐりながら築き上げた、今日の国防体制とは、これほどまでに、無力なのか。そうした思いが、彼らの胸に去来していた。
「まあ、そないゆうても、生まれた星やし、そう簡単に、くれるわけおまへんわな。
けど、わしらは、この星を無傷のまま、手に入れたいんや。美しい野山を焦土と化しとうはない。」
テレビの赤鬼は、地球人たちの思いを先読みするかの如く話し続けた。
「そこでや。地球人にもチャンスを与えることにした。」
赤鬼は、この言葉の持つ意味が、地球人の頭によく理解できるだけの間を持たせた。
（我々には、まだ、独立を保てるチャンスが残っているというのか？彼らの言うチャンスとは一体何なのだ？）
テレビ、ラジオを聴取していた大多数の人々は、こう思った。徹底抗戦を考える者は、少数派になってしまっていた。
「侵略するか、あきらめるかは、わしら、宇宙人の間でやられとるやり方で決めることにする。もしもわてらが負けたらおとなしく帰りますわ。
で、そのやり方というんは、地球人とわてらとから一人ずつ代表を出して、一対一で勝負さすという方法や。」
「なるほど、一対一なら何とかなるかもしれん。」
首相は、赤鬼の術中に、完全にはまっていた。しかし、はめられたのは、ひとり首相のみならず、大多数の人々も同様であった。
「代表の選出は、時間をかけとうないんで、わてらのコンピュータで、〝適当に〟選ぶことにした。」
赤鬼は、そう言うと、画面からちょっと離れ、横の方を向いて、コンピュータの端末らしきキーボードを叩いた。もちろん、これは、ただの演出である。地球人代表は、既に、鬼星出発時に、鬼族にとって、〝適当な〟人物が選ばれていたのであるから。
しかし、多くの人々は、そんなこととはつゆ知らず、地球人の代表は、正しく、今、選ばれているのだと信じ込んでいた。
赤鬼は、しばし、黙ったまま、横を向いていた。やがて、カタカタという微かな音がすると、赤鬼は手を画面の外に伸ばし、一枚の書類を取って来た。
「地球の皆はん、お前さんらの代表が決まりましたで。こん男や。」
赤鬼は、画面に向き直ると、手に持った書類を画面に見せつけた。
そこには、ごく普通の男子高校生の写真があった。そして、氏名が、その下に小さく記されている。それは、諸星あたると読めた。
「地球の運命は、こん男の肩にかかったわけや。わしは、今から、こん男に勝負を受けるか確かめに行くことにしたさかいに、くれぐれも、邪魔などせんようにな。」
赤鬼が、そう言うと画面は、一瞬、間を置いてから、一面、砂をまいた様になった。鬼族の地球侵略の第２のメッセージが終わったのである。
「ど、どう致します？」
３閣僚と一緒にテレビを立ちすくんで見ていた秘書官が首相にうかがいをたてた。
首相は、何とか平常心を取り戻そうと努力しながら言った。
「まず、緊急閣僚会議だ。すぐに、全閣僚を招集するんだ。それから、あの地球代表に選ばれた子の素姓をすぐに調べるんだ。」

「わかりました。」
秘書官は、そう答えると、電話口へと、すっとんでいった。
首相は、それから、防衛庁長官の方を向くと言った。
「出撃した自衛隊機は、全て、帰還させろ。それから、全ての部隊を各基地に待機させておけ。まだ、攻撃してはならんぞ。あんな鬼どもと、まともにやりあっても勝てるわけがない。ひとまず、奴らの言う通りにしておけば、その間に、何か、チャンスが生まれるかも知れん。」
首相は、防衛庁長官の肩を叩いた。
「そうですね。すぐ、統幕本部へ伝えましょう。」
「米軍へも、まだ攻撃に移らぬ様、連絡しておくんだぞ。」
首相は、連絡の為、電話口へ向かった防衛庁長官の背中に向かって声をかけた。
「総理。報道管制の方は…。」
官房長官が、小声で首相に指示を請うと、首相は、テレビを指差しながら言った。
「もう手遅れだよ。」
テレビでは、既に、特別番組を組み、宇宙人による侵略を放送し始めた。



第三部　勝負

耳をつんざくような、もの凄い雷鳴と共に地上に転送された赤鬼は、あたりを見回し、すぐそばに、へたりこんでいる、小母さんを見付けた。近づいていくと、屈み込んで、顔を寄せ、言った。

「あのう、すんまへんが、諸星はん家はどこでっしゃろか？」

「ひ、ひぃ～」

悲鳴をあげるなり、相手は気絶してしまった。

「なんや、ひとがものを尋ねとるのに、寝てまうなんて…。失礼なやっちゃ。」

赤鬼は立ち上がると、もう一度あたりを見渡した。しかし、あたりには人影一つなかった。

（しゃあない。自分で捜そか。）

そう思って、目の前の家を見ると、そこには"諸星"という表札がかかっているではないか。

「なんや、ここやったんか。」

そう言うと、門を開け、ドアをノックした。

「諸星は～ん！」

「は～い。」

奥の方から女の声がし、かすかに聞える足音がドアの向こう側で止まった。ガチャガチャという錠をはずす音とともに、

「どなたですか？」

という声が聞える。

「！？」

ドアを開けた瞬間、相手はきょとんとして立ちすくんでいた。目に飛び込んで来た、黄色と黒の縞々の壁が何であるのか、理解出来なかったからである。

「こんにちは。諸星あたる君のお母はんでっか？はじめまして。」

赤鬼は屈み込んで挨拶した。

「ひっ!?」

あたるの母は、我と我が目を疑った。先程の縞々の壁の上の方から、鬼そのものの赤い顔が降りて来たのである。身の丈2m50cmは優にあろう大鬼が、牙をむき出し、その顔を近付けて来たのだ。大抵の人ならば、先程の小母さんの様に、気を失っていたであろう。しかし、あたるの母は気絶したりはしなかった。それは、彼女が気丈であったからというよりも、むしろ、あまりのショックのために、感覚がマヒしてしまい、開き直ってしまったためではあったのだが。

「そ、そうですが…。」

あたるの母は、やっとの思いで答えた。

「ＴＶ見とらんかったんでっか？お宅のあたる君が選ばれたんだっせ。」

「えっ？」

あたるの母は、確かにＴＶはつけてはいたものの、家事の傍ら聞き流していた上に、赤鬼の放送があった時は、たまたま洗濯のためにＴＶから離れていて、見逃していたのである。

赤鬼は、彼女がＴＶ放送を見ていないらしいのに気付き、日本人はＴＶばっかりよう見てるという報告が不正確であることに戸惑った。けれども、今更そんなことを気にしていても始まらない。多少の不正確さは致し方ない。赤鬼は、あたるの母に、自分たちは地球を侵略に来たのであり、その勝負の相手に、諸星あたるが選ばれたということを手短に伝えた。もちろん、地球人に対する演出を交えて、ボロが出ないよう細心の注意を払ったことは言うまでもない。

「あの…、でも…。あ、あたるは出かけておりますし…。」

彼女は、顔を引きつらせて、そう答えた。

「ほな、帰るまで待たせてもらいますわ。」

赤鬼はドアをくぐり抜けると、玄関先にド

ッカリと腰を降ろした。
「そ、そんな。困りますわ、そんな所に座られては…。」
あたるの母は、こんな鬼の化け物に、我が家に居座られてはたまらないと、必死に追い出そうとした。
しかし、日本語の微妙なニュアンスを、未だ良くは解せぬ赤鬼は、この言葉を正反対の意味に解した。
「そうでっか。すんまへんなあ。それなら、あがらせてもらいますわ。」
そういって立ち上がると、さっさと上がり込んでしまった。
「あ、あの…。」
「いや、かまいしまへんさかい…。」
赤鬼の勢いに押されて、あたるの母は、しぶしぶと、彼を茶の間に案内した。
（まったく、何だってあんなのがうちにこなくっちゃいけないのかしら…。）
あたるの母は、赤鬼を茶の間に通すと、ぶつぶつと文句をいいながら、台所でお茶を入れ、茶の間にいる赤鬼に出した。それは、来客にはお茶をという固定観念が生んだ無意識の行動であった。
「いやぁ、すんまへんなあ。」
赤鬼は喜んでお茶をすすり始めた。どうやら、鬼にもお茶はうまいようだった。
一段落つくと、あたるの母は、茶の間を出て、あたふたと電話に飛びついた。おぼつかない手付きでダイアルを回した。
「も、もしもし。あの、も、諸星を、諸星をお願いします。」
彼女がそう告げると、電話の相手が変わり、彼女の夫、即ち、あたるの父が電話口に出た。
「あ、あなた～。」
そう叫ぶと、あたるの母は、泣き出してしまった。夫の声を聞いて、いっぺんに気が緩んだからであろう。あたるの父は、妻から、何とか事情を聞き出し、さっき会社の同僚たちが噂していた怪放送のことを思い出した。
あれがまさか自分に直接関係することになろうとは…。半信半疑ながらも、彼はすぐに家に帰ると言った。
「とにかく、落ち着いて待ってなさい。すぐ帰るからね。」
電話を切ると、あたるの母は、その場にへたりこんでしまった。
しかし、そうしてはいられたのも、そう長くはなかった。10分ほどすると、諸星家の回りは再び騒々しくなった。赤鬼が諸星家に入ったことを、近所の人が新聞社へ知らせたからである。
「ここだ、ここだ。」
「諸星さ～ん。」
そうとは知らない、あたるの母は、ため息を一つつくと、気を取り直して応対に出ようと錠をはずした。次の瞬間、玄関のドアは開かれ、怒濤のような人の波が押し寄せた。
「諸星さんですね。あたる君は？」
「鬼はいまどこに？」
「うちと独占インタビュー契約して下さい～。」
マスコミの記者たちは、口々に勝手なことをわめきちらしていた。
「あ～。」
あたるの母は、記者たちにもみくちゃにされ、ついに気絶してしまった。

（なんや、騒々しいなぁ。）
赤鬼は、玄関の騒音にそう思い、障子を開けて、首を伸ばし、玄関の様子を伺った。
「あ、あ…。」
「お、鬼だ～。」
赤鬼の姿を生で見ると、記者たちは、外に逃げようとする者、上がり込んでインタビューしようとする者、腰を抜かして動けぬ者など皆が、まちまちの行動をとろうとした。そのために、諸星家の玄関は、一層混乱の様を深めた。
しかし、この混乱も赤鬼の一言で収まって

しまった。
「こおらっ！静かにせんかい!!」
赤鬼の雷のような大声に記者たちは静まった。
「あたるはんが帰ってきはるまで、外で待っとらんかい。」
記者たちは震え上がって、すごすごと外へ引き上げた。何しろ相手は人間ではないのだ。鬼なのだ。怒らせたら何をされるかわかったものではない。
こうして、報道陣は諸星家を遠巻きにして、注目の人、諸星あたるの帰宅を待った。

「おぬしの面相は物の怪にとりつかれておる!!」
「へっ、なにが物の怪だ！鬼でも宇宙人でももってこい!!」
報道陣が、諸星家に押し掛けて、一時間余りたった頃、諸星あたるは、奇妙な修行僧につきまとわれながら、自宅へ戻って来た。ふと見ると自宅の回りに人だかりができ、新聞社、雑誌社の小旗を立てた車が何台も止めてある。
「あれ？なんだろ………うちのまわりに……。」
あたるが不思議に思って立ち止まると、その姿を目ざとく見付けたやじ馬の一人が言った。
「あっ、諸星さんの坊っちゃんが帰られたわ!!」
「なに、あれが息子さんですか!?」
やじ馬の声を聞き付けた記者たちは、あっという間に、あたるを取り囲んだ。
「諸星あたるくんですね!?」
「ご感想を!!」
「な…なんですかだしぬけに…。」
あたるがあっけにとられていると、記者たちをかきわけて、母親が飛び込んで来た。
「あたる!!」
「かあさん、どうしたんだよ!?」
見れば、母は、自分の持っている、一番上等な着物を着ているではないか。
「なにがあったんだ!?」
「くればわかるよ!!」
要領を得ない息子の手を引いて、あたるの母は、玄関の中へ駆け込んで行く。
「ちょっと待って…。」
「何か、一言。」
記者たちは、後から、ばらばらと追いかける。
「あたる、帰ったか!!」
「あたるくん!!」
玄関には、急拠、会社から帰った父と、さっき別れたばかりのガールフレンドのしのぶが待っていた。よく見ると、あたるの父も、一張羅の背広を着ている。あたるの両親は、どうやら、マスコミが来たというので、二人とも見栄を張って、一張羅を引っ張り出したらしい。
とにかく訳のわからぬまま、あたるは茶の間へと追い立てられた。
「気をしっかり持つんだよ!!」
「しっかりもなにも、わけがわからないじゃないか！いったいだれがき…たわ～。」
障子を開けると、あたるの目の前に信じられない光景が開けた。
「お帰りやっしゃ～!!」
そこには赤鬼が、（記者たちの騒々しさにイライラして）苦々しい顔で座っていたのである。

千年一角獣の転送室で待機していたラムは、父親からの指示が、表示スクリーンに現れたことに気がついた。ラムは、転送機が、自動起動モードになっているのを確認し、10秒後起動にセットした。転送台に乗るとまもなく、転送機はかすかなうなりを上げて作動し始めた。
（この転送機っていうのは、どうも気に入らないっちゃ。大体うちの体を、隅々まで調べ

られるなんて気持ちが悪いっちゃ。）

ラムは不機嫌そうな顔のまま、地上へと転送された。落雷にも似た閃光や音と共にラムは地上に現れた。

「ああっ!!」

諸星家を取り巻くやじ馬たちは、新たに現れた鬼の姿に、びっくりした。それは、昔話にいわれる鬼の面影はあるものの、既に諸星家に上がり込んでいる、あの赤鬼とは違った、“女の子”の鬼だったからである。

ラムは、びっくりした面持ちの、やじ馬たちを気にも留めずに、諸星家の方へ近づいていった。

「もろ…ぼし…。」

ラムは表札を確かめると、開けっぱなしの玄関を通り、茶の間へと進んで行った。

幸いなことに、うるさい記者連中は、みんな、赤鬼とあたるにインタビューするために茶の間の中にいたので、ラムは、誰にも邪魔されずに、ここまで来ることができた。

「オニはあんさんだっせ!!」

「鬼にオニよばわりされるいわれはない!!」

茶の間で、喋っている声が聞える。あたるの言葉尻を捉えて、ラムは、二人の会話に割って入った。

「勝負っていうのは、鬼ごっこのことだっちゃ！」

ラムは、ごく自然な調子で喋った。日本語の睡眠学習は完ぺき…のはずだったが、やはり研究不足のためか、どことなく変な言葉遣いである。しかし、それでも意味は立派に通じていた。

「えーっ、鬼ごっこ!?」

詰め掛けていた記者たちは、異口同音に、素っ頓狂な声を上げた。しかし、あたる一人は、はっとした顔でラムを見詰めている。

「ふーん、こいつがうちの相手かや!?うちラムだっちゃ!!」

ラムは、これまで写真でしか見ていない相手をしげしげと見詰めた。

（ふ〜ん。顔はあいつほどじゃないけど…。）

ここでいう“あいつ”とは、ラムが愛想を尽かした元婚約者レイのことである。特別に意識する程のものでもなかったが、ラムは、この相手、あたるのことが、ちょっと気になった。

「かっ、彼女と鬼ごっこするのか!?」

あたるはどもりがちにいった。

「そうだす!!あんさんがオニになって十日以内にラムのツノをつかんだら勝ちや!!」

赤鬼はあたるにそう告げた。

「しかし…」

あたるは、ちょっとためらいがちに言った。

「ツノをつかむには体をつかまんと…。」

「あたるくん!!」

しのぶがかんしゃくを起こした。

「うちは、そう簡単にはつかまらないっちゃ！」

ラムは、自信を持ってそう答えた。

「そうはいかん！必ずこの手に抱きしめてみせる!!」

間髪を入れずにあたるは叫んだ。隣に居たしのぶは、あたるのこの言葉に顔色を変えた。

「なんですって！この女ったらし!!」

しのぶは、あたるを捕まえると、顔じゅう引っ掻きまわした。

「ギェー！」

二人の痴話喧嘩に、回りは呆気にとられていた。

「ふん。もう知らないから。」

と言い残すと、しのぶは、足音も荒く帰ってしまった。

彼女が、あっさりと引き揚げてしまったのは、ただのヒステリーからだけではなかった。愛想を尽かしたように言ってはいても、心の底では、

（結局、本心から惚れているのは、私にだけなのだから。）

という自信があったからである。

一方、あたるの方はといえば、

（ちょっとくらい、浮気心を起こしたって、しのぶは最後には許してくれる。）
という自負があった。そう信じていたからこそ、目の前の美少女（！）を見逃す手はないと思ったのである。確かに、これまでの二人の中は、そうして続いて来たのであった。

「地球のためです、しかたないやりましょう。」

あたるはカメラを意識しながら、勝負を受けることを表明した。

けれども、ラムは、二人のやりとりを全く違った風に受け止めていた。

（ふ〜ん、こいつ、恋人に愛想を尽かされてもかまわないほど、うちに気があるのか。）

そう思うと、まんざらでもなかった。

赤鬼は赤鬼で、思った通り、あたるが勝負を受けてくれたので満足であった。地球〝侵略〟計画は着々と進んでおるわいと内心ほくそ笑んでいた。

こうして四者四様の思いのうちに、地球の、そして千年文明の運命を賭けた鬼ごっこは成立したのである。

明けて翌日。あたるとラムは、数メートル離れたスタートラインに立っていた。沿道には、マスコミ各社の報道人を始め、見物人で黒山の人だかりであった。官公庁、学校、主な企業は、総て臨時休業となり、日本一億の全国民が、この鬼ごっこに注目している。

いや、日本ばかりではない。鬼ごっこの模様は、衛星中継で、世界中に放送されているのである。

「On Your Mark!! Gets Sets! 」

スターターが、鬼ごっこ開始のピストルを構える。あたるは、一発勝負と踏んで、クラウチングスタートで身構る。ラムの方は、余裕でつっ立っていた。

ダーン。号砲と共に、あたるはダッシュした。ラムは走ろうともしない。

（しめた。）

あたるは、こう思い、手を伸ばした。

「つかまえ……」

次の〝た〟は言えなかった。ラムが飛んだのである。あたるの両腕は、空しく宙をつかんだ。

観衆もどよめいたが、一番びっくりしたのは、他ならぬ、あたるだった。女の子、それも、かわいい女の子を捕まえることに関しては、豊富な経験を持っていた彼も、相手が飛んで逃げるとは予想していなかったのである。

「ひきょうだ！飛べるとは聞いてなかったぞ!!」

あたるは文句を言ったが、無駄であった。

「たんなる研究不足だっちゃ!!」

ラムの言う通り、鬼族を始めとする千年文明人総てが、この日のために、地球人を充分に研究していたのである。諸星あたるは、そして地球人類は、赤鬼のわなに、まんまとはまったのであった。

二日目、三日目と、あたるの徒労は続いた。飛べるラムとただの高校生に過ぎないあたるとでは、所詮勝負にならなかった。

（飛ぶといったって、ジャンプ力が桁外れなだけなんだから、何とか着地のチャンスを狙えば…。）

あたるは、そう思って、自らを励ましてみたものの、日が経つにつれ、無力感は増すばかりであった。

ラムは、始めは、こんな勝負でも夢中になるなんて、地球人って、何て純真なんだろって思っていたのだが、あたるの顔が、日ごと悲壮になり、辺りの雰囲気も、トゲトゲしくなっていくのに気付き、不思議に思い始めた。

（ただの鬼ごっこにしては、何だか変だっちゃ…。）

しかし、それ以上のことに考えが及ぼうはずがなかった。

五日目。日没と共に勝負が終了し、あたるの努力が、またも報われずに終った日の晩、赤鬼は、勝負が始まって以来、初めてのＴＶ

インタビューを行った。それは、予告された時刻に、千年一角獣から直接、生放送された。

日本を初めとする各国政府は、異星人に関する情報を、総て自分たちの統制下におこうと、なおも努力を続けていた。それは、報道管制によって、万一の場合のパニックを抑え、武力による反攻に備えるために、是非とも必要な措置であった。赤鬼の宣戦布告が、直接、国民に放送されてしまったことは、この面では手痛かったが、まだ何とか、反攻への士気を高揚させることはできると、政府首脳は考えたのである。

だが、こうした動きは、赤鬼にとって実に不都合であった。地球“侵略”計画が成功するためには、勝負に破れた地球人は、鬼族に無条件降伏するのが最善の策であるという考えを、地球人の一人一人に印象づけなければならないからである。そのためには、勝負がつく直前までは、地球人を徹底的に脅し、勝負がついた時点で間髪を入れずに、慈愛に満ちた施策を提示してみせる必要があった。

この過程においては、ＴＶなどの報道機関を十分に利用すべきであって、赤鬼の芝居が直接、民衆の目や耳に入るようにしなくてはならないのだ。そこで、赤鬼は、自ら、予告つきでメッセージを流すことにしたのであった。

地上のスタジオとネットした、このインタビューは赤鬼の狙い通り、地球上の大多数の人々の注目を集めていた。

「いや、皆殺しにするなんて野蛮なことは考えてませんがな。わてら文明人でっせ。まあ、侵略するんやさかい、それなりの覚悟はしてもらわなあきまへんけど…。」

総てを言い切らぬ赤鬼の言い方は、彼の背後に強大な軍事力の存在を感じている地球人には、一層不気味に聞えた。

「そ、そうですか…。」

地球を代表するインタビュアの沈んだ声が響いた。

「それでは最後に、地球人に対して何か一言。」

インタビュアは、ほとんど考えもなく、事前に予定されていた質問事項を尋ねた。

赤鬼は御機嫌だった。鬼ごっこは圧倒的に優勢、地球人の反応も、ほぼ予想通り。地球“侵略”計画は、最早成功したも同然だった。それ故に、うっかり口を滑らせてしまったのである。

「残りの日程はあと半分だっせ！地球はもうわてらのもんや!!」

ラムは、

（あれっ？）

と思った。さっきからの話がどうも変だと思っていたのだが、今の一言で、自分のしている鬼ごっこが、ただならぬ意味を持っていることに気付いたのだった。

「ねえ、とうちゃん。」

ラムは尋ねた。

「ん？なんや。」

「地球ってこの星のことけ？」

ラムの質問に赤鬼はドキリとした。ラムが自分の役割に、いずれは気付くだろうとは思っていたが、それは、なるべく遅いに越したことはなかった。地球人向けの放送が、先程の笑いと共に終了していたのは、赤鬼にとって幸いであった。今の彼の顔を地球人たちが見たら、鬼族に対する認識がだいぶ変わっていただろう。

「そ、そや。　こん星は、地球っちゅうんや。」

赤鬼は、最早、娘をだまし続けられないと悟り、娘に、今回の地球行の本当の目的を告げたのだった。

「直接お願いできないのけ？」

ラムは極めて素直に、こう尋ねた。

「だめや。地球人っちゅうんは、そないに素直な生き物やないんや。野蛮で、すぐに人を裏切ったりするものなんや。」

赤鬼は、悟すように言った。

「お願いや。皆でいろいろ考えたんやけど、これより上手い方法はなかったんや。だましたんは悪かったけど、これも、ミレニアンみんなのことを考えたからなんや。堪忍してくれや。」

「わかったっちゃ。」

ラムは父の沈痛な顔を見るに忍びずに、明るく答えた。

「けど父ちゃん。」

「何や？」

「鬼ごっこに勝ったら、あの毛皮、確かにもらうっちゃよ。」

ラムは、やっぱり女であった。

鬼ごっこが始まってから8日目。ラムのジャンプがいささか低くなりがちになり、あたるの手先、あと僅か、ということが起こるようになってきた。それは肉体的な疲労もさることながら、事の真相を知らずに、必死の形相で追いかけてくるあたるに対して、ラムが同情を感じ始めてしまったからであった。

あたるとラムの瞬発力、持続力や、地球人の納得する程度などから総合的に弾き出されて、最も効果的であるとした十日間であったが、8日目は、その中でも最も危険な日であった。ここでラムが気を許すようなことがあると、〝侵略〟計画は水泡に帰してしまう。

ラムにも、自分がここで負けるわけにはいかないことは、充分にわかっていた。自分の逃げ足に、鬼族の、そして千年文明の運命がかかっているのである。

しかし、ともすれば抽象的になりがちな、こうした大きな悲劇よりも、目の前でのあからさまな小さな悲劇の方が、人（鬼？）の心には強く働くものである。

（あんな必死になって…。これで負けると、こいつも一生、みんなからいじめられるっちゃね…。）

ラムのふとした思いが、彼女のジャンプ力を、僅かに鈍らせた。

「くそお〜っ!!」

あたるがやけ気味に飛び付こうとしたのは、正にその瞬間であった。

「きゃーっ!!」

突然飛び付かれて、ラムは叫んだ。生まれてこの方、異性といえば、レイ位にしか触れられたことのない体に、いきなり抱きつかれ、ラムは気が動転した。

「なにすんだ、スケベーっ!!」

さっきまでの同情心もふっ飛んで、ラムはあたるに平手打ちをくらわせた。

「えっ!?」

予想外のセリフに戸惑うあたるではあったが、ここで逃したら、もはや望みはないと本能的に察していたからか、その手は、しっかと、離さない…はずであった。

ベリッ！短い異様な音と共に、あたるは、地面に振り落とされた。その手の中にはラムならぬ一枚の布切れが残されていた。

彼が掴んでいたものは、不幸（幸運？）にもラムのブラジャーだったのである。

「とうちゃ〜ん。」

千年一角獣に戻ったラムは、半ベソをかきながら、父の許へ泣きついた。

「どないしたんや、そのかっこは。」

娘のあられもない姿に赤鬼は驚いた。

「あいつに、あいつにとられたっちゃ〜！」

怒りと悔しさに泣き叫ぶラムをなだめると、赤鬼は事情を聞き出した。

「しゃあないやないか。あいても取ろ思てしたわけやないんやし。事故と思て諦めるしかあらへんがな。さ、涙をふいて。あと二日や。別の服に替えて、明日、あさってとがんばればええんや。」

ラムは、この言葉にハッとした。

「とうちゃん。うち、ちょっとの旅だし、他の服、持ってこなかったっちゃ！」

「何やて。」

赤鬼は慌てた。しかし、今さら取りに戻る

わけにはいかない。今のように短い夜では、鬼星まで往復するのには間に合わない。明日の朝の鬼ごっこ再開に間に合わないようでは、鬼族の優位性は消し飛んでしまうだろう。

「ラム、しゃあない。取り戻して来るんや。力ずくでも…。」

ラムは小さくうなずくと船を出ていった。何としてもブラを取り戻すんだという意気に燃えて…。

しかし数十分後、ラムはブラを取り戻せぬまま船へ戻って来た。プリプリ怒っているところを見ると、よほど何かあったようだ。

この事故（？）のため、地球〝侵略〟計画は、重大な危機を迎えてしまった。ラムは鬼とはいえ、女の子である。その豊かな胸を人前に曝すことなどできようはずはない。すると両手を使えないだけ、反動が付けにくくなりジャンプ力も鈍ってしまうのだ。あたるの体力の衰えに期待するしかない。このピンチに赤鬼は、なす術がなかった。

9日目は、ラムに飛び付いたあたるが空中から、振り落とされてしまうというハプニングで、あっさりと中断となってしまった。残すは最終日、10日目のみである。

この日、諸星あたるは異常に元気であった。前日、早々に引き上げ、寝ていたために疲れが取れたためか？いやいや、ガールフレンドのしのぶに、

「勝ったら結婚してあげる!!」

と言われたからであった。思っている女からこう言われて奮起せぬ男がいるであろうか。諸星あたるもまた男であった。

「結婚じゃーっ!!」

こう口走りながら、あたるは鬼気迫る（！）形相でラムを追いかけた。彼の目には、ラムの向こうに微笑みかけるしのぶの姿が映った。今の彼には、ラムを捕まえることが即ち、しのぶを捕まえることだったのである。

ラムは、あたるのこの急変が理解できなかった。昨日までとは違うその勢いは、恋人を追う男の勢いであった。

（うちのことが好きになったのかな？）

そう思うとラムは嬉しくなった。

（あれ？　何で嬉しくならなきゃいけないっちゃ!!）

ラムは自分の思いを打ち消そうとした。

（婚約者を振った直後に、こんな異星の男に惚れてしまうはずがない。）

ラム自身、頭ではそう考えてはいるものの、心の奥底では、この異星人、諸星あたるに何かひかれていたのであった。それは、それまで自分の回りにはいなかったタイプの男性、どこまでも自分を追い求め、追いかけてくれる男であった。そう思って、あたるの声をよく聞くと、彼は、結婚、結婚と口走っているではないか。ラムの尖った二つの耳には、それが自分への求愛の言葉のように聞えていた。

「ラム!!これ！これ！」

自分の心の変化に戸惑っていたラムの耳に、突然、あたるの呼び掛けが聞えた。

「あ!!」

はっとして振り向くと、そこには、虎縞のブラジャーをかかげて走るあたるの姿があった。

「返せーっ!!」

後先を考えずに、ラムは自分のブラジャーに飛び付いた。

「かかった!!」

あたるは、ここぞとばかりに、ブラにかかったラムを引きずり降ろし、そのツノを掴んだ。

「やったぁーっ、諸星あたるくん、ついに地球を守り抜きましたーっ!!」

やじ馬の大歓声と共に、報道関係者がどっとあたるに駆け寄った。

「ひ〜っひひひ、これでやっと結婚できるのだ〜!!」

しのぶとの結婚を確信したあたるは、ラムを抱き抱えたまま、辺りに人がいるのにも気付かずに一人ごちた。
しかし、ラムを始めとする、事情を知らない人々の目には、そのセリフは、ラムを対象に言っているようにようにしか見えなかった。
ラムは、こうあからさまにプロポーズされるとは、驚きであった。
(そうか。こいつそこまでうちのことを…。)
ラムの心にわだかまっている思いは、ここにきてはっきりとふっきれてしまった。そうだ、負けてしまった以上、ここで逃してしまうと、あたるには二度と会えなくなるかもしれないのだ。ラムのこの思いは、次のようなセリフとなって口をついた。
「わかった!おまえがそこまでいうなら結婚してやるっちゃ!!」
こういったあと、ラムは心が軽くなった。自然と笑いが浮かんで来た。
(そうだっちゃ。うちは、こいつと結婚するっちゃ。うちが求めていたのは、うちを追い求めてくれるこういう男だっちゃ。ただ一人でも、自分の星のために一心に頑張る男だっちゃ。)
いささか矛盾はあるものの、一度惚れてしまうと、それには、なかなか、合理的な理由を付けられるものではないものだ。ラムは他の一切を忘れて、この男、諸星あたるに惚れてしまったのだ。

作戦の思わぬ展開に赤鬼は失意の色を隠せなかった。綿密に立てた計画がついえた今、千年文明は、まさに地球人の脅威の前に曝されてしまったのである。何百億という人々を殺すだけの兵器を持った狂気の集団を前にして、誇り高き文明は、風前の灯であった。赤鬼は力なく娘に声をかけた。
「ラム、帰ろっ!わしらの負けや!!」
「待って!うち、プロポーズされたっちゃ!!」
ラムのこの言葉は、赤鬼にとって衝撃的であった。
(何てことや。地球を"侵略"しに来たわてら異星人に、プロポーズするやなんて…。)
赤鬼は、地球人に対する、自分たちの認識が誤っていたことに気付き、自らの行いを恥じ入った。
(これだけ寛大な心、他人を愛する心を持つものがおるんや。地球もきっと近いうちに宇宙の真理 — 武力に訴えぬ理性を持った生物になるに違いない。星間飛行ができるようになる頃には、わてら千年文明の仲間にも抵抗なく入れるようになるやろう。それに比べてわての作戦は何て野蛮やったんやろか。平和のためとはいえ、地球"侵略"計画は、武力に訴える作戦やった。)
赤鬼はそう考え、ふと気付いた。
(そや、今、わしのできることは、この広い心を譲り育てることや。こん男に、千年文明の真意をわかってもらうことや。)
赤鬼は、ラムとこの男との結婚を勧めることにした。
「娘と結婚するんなら、わしらの星にきてもらいまっせ!!」
赤鬼はあたるに、やさしく言った。
「ツノもつけて立派な鬼になるっちゃ!!」
ラムは、父が、この話に賛成してくれたことに大いに喜び、愛しき人に抱きついた。
「ほんにええ婿じゃ!!」
赤鬼は心からそう思った。
(こん男が、地球と千年文明のかけ橋となるんや。)
赤鬼のこの思いは、千年文明人全員の思いといってもよかった。
銀河系宇宙に花開いた偉大なる星間文明—千年文明が、戦争の悪しき炎に塵灰と化すか新たな仲間を得て、より一層の発展の道を歩むのか、総ては、地球人類の心に、諸星あたるの双肩にかかったのであった。

(完)



【編集後記】

今回の『ぴよぴよ』はいかかでしょうか。やはり合宿（それも２回も）を行っただけの内容はあるかも知れないとは思いますが、何分不安もありますので、どうか下記へ御意見・御感想をお待ちしております。（ぎりぎりの段階で書いているだけにおもしろい事が浮かばん！）

ぴよぴよ

第６号　　No．167　藤本能弘

1985年12月29日　初版発行

発行所：高橋留美子＝けもこびるファンクラブ（略称ＴＲＦＣ）
　　〒194東京都町田市玉川学園８丁目３－２０－１橋本方
発行人：半田利弘
編集人：しのぶ
印刷所：
株式会社ナール
事務所・工場　東京都板橋区大山町11-6
〒173　電話03（959）5581（代表）
なるるのへや　電話03（959）5584（専用）

本誌の感想は　→〒２７３　千葉県船橋市北本町２－５６－３　竹堤忍　方
ＴＲＦＣ編集部
当会のお問い合わせは→〒１９４　東京都町田市玉川学園８－３－２０－１　橋本　方
ＴＲＦＣ事務局

PIYO PIYO

けも・こびる　F.C.